お問い合わせは下記へどうぞ

三菱日立ホームエレベーター株式会社

0120-345594　http://www.mh-he.co.jp/

受付時間:月～金/9:00～17:00(土･日･祝日、年末年始、GW、夏期休暇などは除く)

本社工場	〒501-3772　岐阜県美濃市楓台38(美濃テクノパーク)	(0575)35-3115
東日本支店(北海道･東北･関東･甲信越)	〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45(神田金子ビル)	(03)5295-7541
中日本支店(東海･北陸)	〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-15-1(名古屋ダイヤビル2号館)	(052)541-5430
西日本支店(近畿･中国･四国)	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-29(テラサキ第2ビル)	(06)6398-5541
九州支店(九州･沖縄)	〒810-0001 福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092)721-2143

⚠ 安全に関するご注意

●法令を遵守してください。●ご使用前に取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。●エレベーター専用ブレーカーを設置してください。●1週間以上の長期間、エレベーターを休止させて、運転を再開する場合は、必ず試運転を行ってください。また3ヵ月以上電源を切った場合には、停電時バッテリー運転用のバッテリーが放電していますので、メンテナンス会社に点検を依頼してください。●当社推奨のメンテナンス会社以外の業者が定期点検をした場合、当社はエレベーターの機能に責任を負いかねます。●この商品は屋内専用です。雨、風のあたる場所や屋外には設置しないでください。

⚠ その他のご注意

●エレベーターの設置には確認申請が必要です。また、建物についても確認申請を行い、竣工検査を受けてください。建物の検査済証が発行されない場合、エレベーターの検査済証も発行されず、エレベーターをご使用いただけません。

ホームエレベーターのお問い合わせは……

●この印刷物は、2015年4月の発行です。
●商品改良のため、仕様･外観は予告なしに変更する場合がありますので、ご了承ください。

B010-1504-A〈SIZ〉

©2015三菱日立ホームエレベーター株式会社

三菱日立ホームエレベーター

MITSUBISHI/HITACHI
MITSUBISHI HITACHI HOME ELEVATOR

設計･施工資料集

設置の計画から施工まで

ホームエレベーター
スイ～とホーム
- DXアバンティ
- DX禅
- DXファインウッド
- ファミリー
- ファミロング
- ファミスリム
- コンパクト
- ジュニア

小規模建物用小型エレベーター
スイ～とモア
- スペーシア
- ロング
- スタンダード

- エレベーター内に設置の電話機は必ず通線手続きをしてください（お施主様にてご契約）。
- 電話回線を未接続のまま、エレベーターをご使用にならないでください。
  万一、ご使用中に地震・停電・その他でルーム内に閉じ込められた場合、ルーム内の電話機が使用出来ない為、外部と連絡を取る事が出来ません。

2015年4月版

改正建築基準法「14耐震」対応製品掲載

必ずはじめにお読みください。

この資料は、三菱日立ホームエレベーターのホームエレベーター、小規模建物用小型エレベーターを設置するうえでのポイントを記載したものです。
エレベーターを計画する際には、この資料をよくお読みいただき、内容を十分にご理解いただいたうえで正しく設計・施工してください。
お読みになった後は、設計・施工される方がいつでも読むことができるところに備え付け、大切に保管してください。この資料をご覧になっても分からないことや技術的な相談は、当社の営業担当者または、裏面に記載してある各支店までお問合せください。

安全に設計していただくために、必ずお守りください。

警告・注意のシンボルマークについて

記載されている内容のうち、守らないと人体や機器・装置等に危害・損害をおよぼす危険性があるものについては、危険の度合いを示すシンボルマークと内容を付記してありますので、きわめて重要なポイントとして、設計・施工の際、十分にご留意ください。

シンボルマークの表示と意味は右のようになっています。

警 告	警告事項を守らないと、使用者が死亡または重傷を負う危険性があるもの。またエレベーターの設置許可を得ることができないもの。
注 意	注意事項を守らないと、使用者が傷害を負う危険性があるもの。また機器・装置等が損傷し、建物に損害を被る危険性があるもの。

エレベーターを設置するための必要条件について

エレベーターの設置にあたっては、次の条件を満たすようご計画いただくと同時に、お施主様にも十分お伝えいただくようお願いいたします。
また、ホームエレベーターと小規模建物用小型エレベーターでは設置条件が異なりますので、必ずご確認ください。

共通事項

設置環境の条件

エレベーターを安心してご使用いただくためには、以下の条件のもと適切な環境での設置が必要です。ここに記載する環境以外に設置された場合には、エレベーターに使用される部品の寿命が短くなる可能性があり、通常より短いインターバルでの部品交換が必要になります。また、故障や機能不全などの原因となる可能性があります。この場合、製品保証期間であっても有償修理となる場合がありますので、詳しくは当社までお問い合せください。

○エレベーターの乗場は屋内に設置し、外部から風雨が侵入しないようにしてください。屋上、駐車場などの外部に接する場合は、前室などを設けてください。
○屋上(ペントハウス)または地下階にエレベーターの乗場を設置する場合は、万一の停電や故障などの避難経路として、屋上(ペントハウス)または地下階までの屋内階段を設けてください。
○エレベーターの乗場、駆動装置、制御装置に直接またはガラス越しの日光、ガラスや鏡による反射光ならびにエアコンなどの送風が直接あたらないよう計画してください。
○温泉ガスなど、金属の損耗および腐食、ならびに電気接点の接触障害を発生させる化学的ガスなどがないことを確認してください。また、海岸近くの場合は、乗場に潮風が直接あたらないよう計画してください。
○その他、温度(摂氏−5℃〜40℃の範囲)、湿度(月平均90%以下、日平均95%以下)、電磁波(電界強度10V/m以下)など一般的な環境において設置されるよう計画してください。
○昇降路内壁や鉄骨部材に使用する塗料、接着剤、モルタルなどは、ホルムアルデヒドの発散が少ない材料を使用してください。
○エレベーターが発する音・振動が気になりやすい居室、特に寝室とは、昇降路を離して計画してください。
○メゾネット建物や免震建物に設置する場合は、当社までお問い合わせください。

維持管理の条件

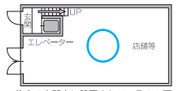
日常の管理は、管理責任者または管理責任者が任命する管理者の管理のもとに行うことが必要です。また、専門業者による定期的な保守・点検を実施してください。(詳しくは8ページをご参照ください。)

ホームエレベーター

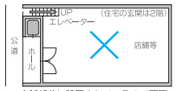
DXアバンティ / DX禅 / DXファインウッド / ファミリー / ファミロング / ファミスリム / コンパクト / ジュニア

設置場所の条件

ホームエレベーターは個人住宅用のエレベーターです。店舗・倉庫などの建物には設置できません。ただし、店舗付住宅などに設置する場合は、右図のようにホームエレベーターが店舗部分から直接使用できない場所(住戸専用部分)にレイアウトしてください。
また、公道あるいは駐車場など、建物外部に面した出入口の設置はできません。ただし、乗場出入口を施錠し鍵などで管理できる場合は、出入口を設けることができます。



住宅の玄関内に設置されているので可



店舗部分に設置されているので不可

使用の条件

●使用者はその住居に同居するご家族とし、適切な判断力と操作能力のあるご家族の方が運転操作を行ってください。
●お子様や来訪されたお客様がお乗りになる場合は、ご家族の方が運転操作を行ってください。
●1日の使用頻度は次の条件としてください。

使用頻度150回以下：DXアバンティ・DX禅・DXファインウッド・ファミリー・ファミロング
使用頻度　50回以下：コンパクト・ジュニア・ファミスリム

長期間にわたって使用頻度を超えてご使用の場合、エレベーターに使用される部品の寿命が短くなる可能性があり、通常より短いインターバルでの部品交換が必要になります。また、故障や機能不全などの原因となる可能性があります。この場合、製品保証期間内であっても有償修理となる場合があります。

小規模建物用小型エレベーター

モアスペーシア / モアロング / モアスタンダード

使用の目的

小規模建物用小型エレベーターは、福祉施設などで高齢者や体の不自由な方、妊婦などの方が建物・施設を使用する際の移動を支援するエレベーターです。

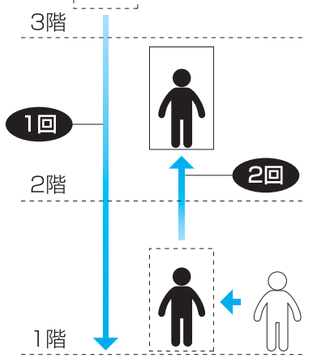
これまでの設置事例

●神社、寺院、教会　●診療所、クリニック、医院(患者の収容施設のないものに限る)
●老人ホーム、グループホーム、デイケアセンター、福祉施設など　●集会所、公民館など
●養護学校、盲学校またはろう学校など●児童福祉施設など　●保育所、幼稚園、学校など
●助産所など
※自治体の福祉条例によっては、設置が許可されない場合があります。あらかじめ自治体にご確認ください。

使用の条件

エレベーターを安全にご使用いただくために、以下の条件のもとにご使用ください。
●管理責任者を選任し、その管理のもとに使用してください。
●管理者銘板を各階のエレベーター付近に必ず掲示してください。
●1日の使用頻度は150回以下としてください。

長期間にわたって使用頻度を超えてご使用の場合、エレベーターに使用される部品の寿命が短くなる可能性があり、通常より短いインターバルでの部品交換が必要になります。また、故障や機能不全などの原因となる可能性があります。この場合、製品保証期間内であっても有償修理となる場合があります。



〔エレベーターの使用頻度について〕
使用頻度とはエレベーターが移動した回数を表します。使用者がエレベーターに乗っていなくてもエレベーターが移動すれば、使用頻度1回と数えます。
右図の様に、3階に停止(待機)していたエレベーターを1階に呼び2階に上がった場合、「使用頻度は2回」となります。

目次

基本構成 ……3
ご発注からお引渡しまで ……5
法規およびメンテナンス ……7
防火区画 ……9
建築設計・施工上のご注意 ……11
建物の構造計算 ……15
標準施工図　●木造(断面図・平面図) ……17
●鉄骨造(断面図・平面図) ……27
●コンクリート造(断面図・平面図) ……41
●建物構造共通(出入口開口図) ……51
電気・電話工事 ……53
電話回線接続 ……57
意匠図 ……59
乗場仕上げ要領 ……71
遮煙乗場ドアについて ……73

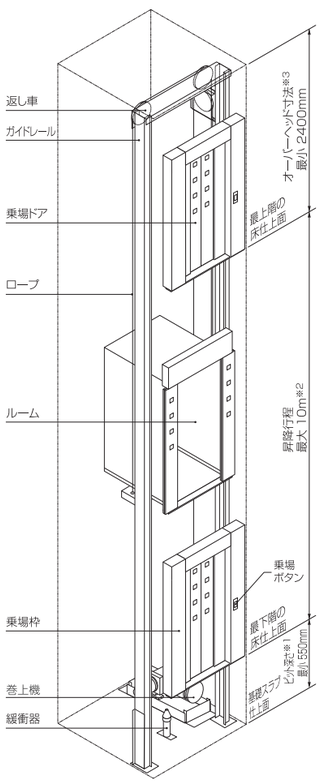
基本構成

構造概要

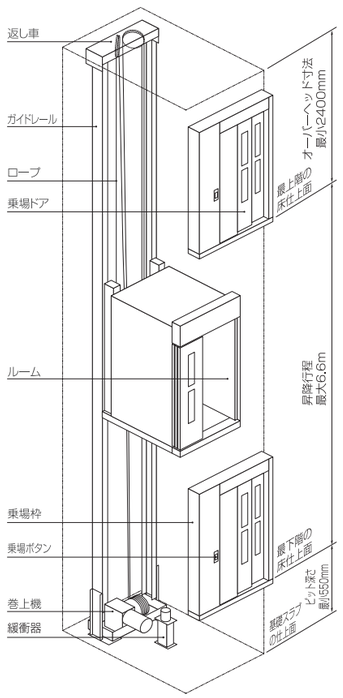
三菱日立ホームエレベーターのホームエレベーター、小規模建物用小型エレベーターは、巻上機を昇降路最下部に設置する巻胴式駆動を採用していますので、機械室は不要です。
返し車、乗場機器などほとんどのエレベーター機器をガイドレールに取り付けています。その垂直荷重はレールを介して基礎スラブに伝えますので、建物への荷重の影響は、平常時のわずかな荷重と地震時の水平荷重のみとなります。

取付図

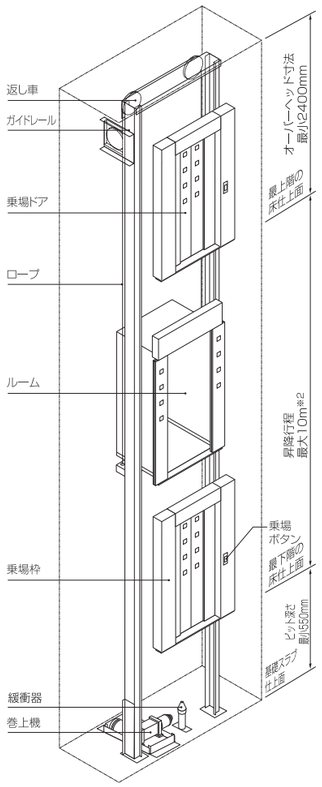
DX アバンティ | DX 禅 | DX ファインウッド
ファミリー | ファミロング | コンパクト
モア スペーシア | モア ロング | モア スタンダード



ファミスリム



ジュニア



基本仕様

■ホームエレベーター「スイ～とホーム」

機種	DXアバンティ	DX禅	DXファインウッド	ファミリー	ファミロング	ファミスリム	コンパクト	ジュニア
用途	乗用							
駆動方式	ロープ式(ベースメント巻胴式)							
積載量	200kg						150kg	
定員	3名						2名	
定格速度	上昇:20m/min(分速20m) 下降:30m/min(分速30m)			20m/min(分速20m) [オプション:下降:30m/min(分速30m)]			20m/min(分速20m)	
制御方式	インバーター制御方式							
停止箇所	最大5箇所※4					最大3箇所	最大5箇所※4	最大4箇所
昇降行程	最大10m※2					最大6.6m	最大10m※2	
ドア形式	電動4枚戸中央開き式					電動3枚戸片開き式(左勝手のみ)	電動4枚戸中央開き式	
電源	駆動用:単相200V 照明用:単相100V							
モーター容量	2.6kW						2.3kW	
ルーム内法※5(mm) 間口×奥行×高さ	【一方向出入口】 950×1150×2000 【二方向出入口】※4 950×1180×2000			【一方向出入口】 950×1150×2000 【二方向出入口】※4 950×1180×2000	【一方向出入口】 880×1300×2000 【二方向出入口】※4 880×1350×2000	【一方向出入口】 900×995×2000	【一方向出入口】 770×950×2000 【二方向出入口】※4 770×980×2000	【一方向出入口】 1000×610×2000
出入口寸法(mm) 間口×高さ	800×1900					680×1900		800×1900
昇降路内法※6(mm) 間口×奥行	【一方向出入口】 1325×1325 【二方向出入口】※4 1325×1450			【一方向出入口】 1325×1325 【二方向出入口】※4 1325×1450	【一方向出入口】 1325×1475 【二方向出入口】※4 1325×1620	【一方向出入口】 1040×1640	【一方向出入口】 1150×1200 【二方向出入口】※4 1150×1250	【一方向出入口】 1670×790

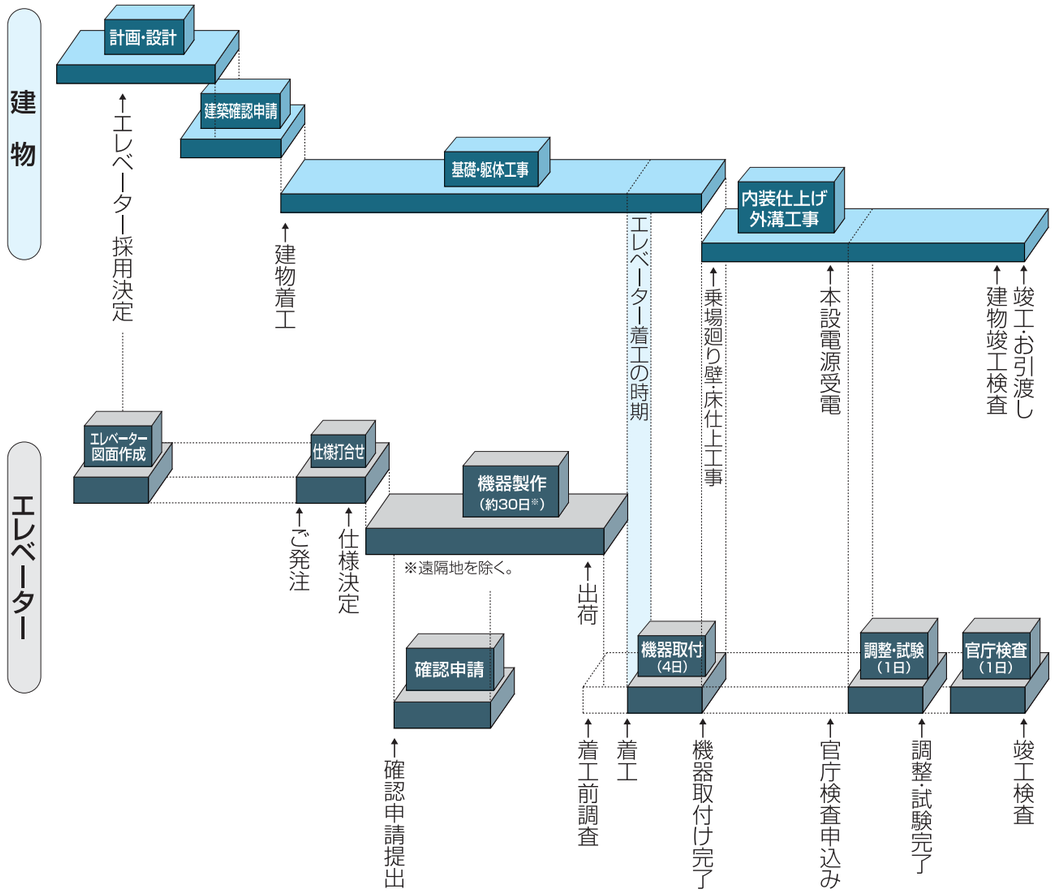
■小規模建物用小型エレベーター「スイ～とモア」

機種	スペーシア	ロング	スタンダード
用途	乗用		
駆動方式	ロープ式(ベースメント巻胴式)		
積載量	200kg		
定員	3名		
定格速度	20m/min(分速20m) [オプション:下降30m/min(分速30m)]		
制御方式	インバーター制御方式		
停止箇所	最大5箇所※4		
昇降行程	最大10m※2		
ドア形式	電動4枚戸中央開き式		
電源	駆動用:単相200V 照明用:単相100V		
モーター容量	2.6kW		
ルーム内法※5(mm) 間口×奥行×高さ	【一方向出入口】 880×1300×2100 【二方向出入口】※4 880×1350×2100	【一方向出入口】 880×1300×2000 【二方向出入口】※4 880×1350×2000	【一方向出入口】 950×1150×2000 【二方向出入口】※4 950×1180×2000
出入口寸法(mm) 間口×高さ	800×2000	800×1900	
昇降路内法※6(mm) 間口×奥行	【一方向出入口】 1325×1475 【二方向出入口】※4 1325×1620		【一方向出入口】 1325×1325 【二方向出入口】※4 1325×1450

※1 二方向出入口の場合は最小750mm
※2 昇降行程が7mを超える場合は、「地震セット(オプション)」が必要となります。
また2停止の場合は昇降行程を9.3m以下としてください。詳しくは当社までお問い合わせください。
※3 「スイ～とホーム DXアバンティ」は2450mm、「スイ～とモア スペーシア」は2500mmとなります。
※4 二方向出入口(オプション)適用の場合。
※5 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行寸法は、踏込部を除いた値となります。
※6 遮煙乗場ドア(オプション)適用の場合、昇降路内法が異なりますので、詳しくは73～78ページをご参照ください。

ご発注からお引渡しまで

標準的な工程



仕様決定・ご連絡事項

ご発注に際しては、下記の項目についてご連絡ください。
なお、エレベーターの製作着手後の仕様変更は、費用と納期の変更を伴いますので、ご注意ください。

(1) 建物名称・建設地住所・工期

(2) 建物確認番号・日付

(3) エレベーター仕様

- ●機種名
- ●ルームデザイン
- ●ルームカラー
- ●乗場デザイン
- ●乗場カラー
- ●各階階高
- ●停止箇所
- ●建物構造（昇降路の構造）
- ●電源周波数
- ●オプション

エレベーター着工の時期

住宅の構造		現場着工時期
鉄骨造		屋根、床まわり工事、昇降路の壁工事完了後で、造作（内装）工事着手前
コンクリート造		躯体のコンクリート打ち型枠解体工事完了後で、造作（内装）工事着手前
木造	軸組工法	屋根、床まわり工事、昇降路の壁工事完了後で、造作（内装）工事着手前
木造	ツーバイフォー工法	屋根、外壁、床まわり工事、昇降路の壁工事完了後で、造作（内装）工事着手前

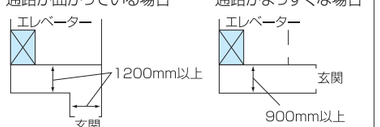
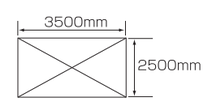
建築側で準備していただく事項

項目	詳細	チェック
昇降路の築造	●ピット部分から屋根裏まで立ち上げてください。	
昇降路有効寸法の確保	●ピットに基礎梁などがある場合、その内側から確保してください。	
昇降路内の仕上げ工事	●昇降路はピット部分から屋根裏まで隙間がないように仕上げてください。 ●ファスナープレート等以外に出張りがないように仕上げてください。 ●エレベーターに関係のない配管配線を設けないでください。 換気口なども設けないでください。 ●防火区画（竪穴区画）が適用される建物の場合、昇降路内壁を難燃材以上で覆ってください。 ●昇降路の壁は任意の5cm²の面にこれと直角方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形が生じず、かつ塑性変形を生じない構造としてください。 ●昇降路内壁の内側に、梁などの突出物が出ないようにして下さい。 やむを得ず突出物が出てくる場合には、建築側で突出物の面に合わせて、壁等の間仕切りを設けて下さい。	
ピットの築造	●厚さ200mm以上のシングル配筋のコンクリート床としてください。 ●コンクリート設計基準強度を21N/mm²以上としてください。 ●防水仕上げ工事（必要な場合施工）	
荷揚げ用梁・フックの設置	●短期吊荷重4900N（500kg）に耐えられるものとしてください。 ●最上階床仕上面から梁・フック下部まで2400mm以上確保してください。 （「スイ〜とホーム DXアバンティ」は2450mm以上、「スイ〜とモア スペーシア」は2500mm以上）	
出入口開口寸法（穴あけ寸法）の確保 注意 出入口開口寸法（穴あけ寸法）を確保できない場合、エレベーターを設置できません。	●スイ〜とホーム DXアバンティ・DX禅・DXファインウッド・ファミリー・ファミロング、スイ〜とモア ロング・スタンダード 間口1325mm×高さ2200mm（遮煙乗場ドア適用の場合は、間口1340mmとなります） ●スイ〜とホーム ファミスリム 間口1040mm×高さ2250mm ●スイ〜とホーム コンパクト 間口1150mm×高さ2200mm（遮煙乗場ドア適用の場合は、間口1165mmとなります） ●スイ〜とホーム ジュニア 間口1670mm×高さ2200mm ●スイ〜とモア スペーシア 間口1325mm×高さ2300mm（遮煙乗場ドア適用の場合は、間口1340mmとなります）	
機器取付用の梁・プレート・乗場枠固定用下地材等の設置	●木造 荷重支持用梁（四方向）の施工（P17、18、23、24を参照してください） 乗場枠固定用下地材の設置（P14を参照してください） ●鉄骨造 ファスナープレート（長穴施工含む）の取付工事（P27、28、37、38を参照してください） 乗場枠固定用下地材の設置（P14を参照してください） ●コンクリート造 レール・乗場固定用コンクリート壁の施工（P41、42、47、48を参照してください）	
電源の準備	●昇降路内への電源線の引込み工事（P53、54を参照してください） ●工事用の仮設電源供給工事	
各種線出し及び設備の設置（該当オプション採用の場合）	●以下のオプションが採用されているときは、設備の設置及び昇降路への各種線出しが必要となります。 ・火災時管制運転　・遮煙乗場ドア　・防火シャッター連動運転　・インターホン （P53〜56を参照してください）	
電話線の準備	●昇降路の最下階側壁に中継ボックスの設置・電話線の引込み工事* *一般固定電話回線をご契約の上、エレベーター内電話機へ接続してください。（P53〜55、57、58を参照してください）	
乗場ユニット取付後の仕上げ工事	●壁・床仕上工事（P71〜78を参照してください）	
煙感知器点検口の設置	●点検口取付工事（必要な場合施工） 点検口を取付ける場合、昇降路寸法は標準寸法と異なる場合があります。 詳しくは当社までお問い合わせください。（P12、55を参照してください）	

※建物構造別の詳細については下記のページを参照ください。
木造：P17〜26　鉄骨造：P27〜40　コンクリート造：P41〜50

搬入経路と保管場所

エレベーター着工時の搬入経路と、工事期間中の保管場所についてもご配慮ください。

①搬入経路のスペース確保	通路（玄関→ホール→昇降路）所要幅 通路が曲がっている場合　通路がまっすぐな場合 	②保管場所	1階のエレベーター付近に下図の保管スペースを確保してください。また、雨水のあたらない場所としてください。 

法規およびメンテナンス

エレベーターの法手続きについて

警告 建築基準法を遵守してください。
守られない場合、エレベーターの設置認可を得ることができません。

確認申請と完了検査

エレベーターは建築基準法第6条の規定により、着工前に所管の行政庁等に確認申請を行い、建築主事等の確認を受け、確認済証の交付を受けなければなりません。また、同法第7条の規定により竣工時に行政庁等の検査員による検査を受け、検査済証を受領しなければなりません。

建物についても確認申請を行い完了検査を受けてください。建物の検査済証が発行されない場合、建築設備としてエレベーターの検査済証も発行されず、エレベーターをご使用いただけません。

確認申請からお引渡しまでの流れ

エレベーターの設置に係る確認申請、完了検査などの法手続きは、当社にて代行します。なお、建物とエレベーターの完了検査が終わるまで、エレベーターはご使用になれません。

確認申請書作成（作成期間　約10日～2週間）
→ 確認申請書の申請者等の印受領
→ 所管行政庁へ申請 ※法定の手続き費用はお客様負担です。
→ 確認済証の受領
→ エレベーター着工
→ 完了検査申請書の提出 ※法定の手続き費用はお客様負担です。
→ 所管行政庁の工事完了検査
→ 検査済証の受領
→ お引渡し

○エレベーターの確認申請書類を作成するために以下の資料をご準備ください。

①建物の確認済証の写し　②建物の確認申請書第1～5面の写し　③建屋付近見取図（地図）
④建屋配置図　⑤建屋断面図（矩計図）　⑥建屋各階平面図

○建築基準法第6条で分類される建物種別により、確認申請の手順が異なりますのでご注意ください。

建物の種別	建築確認申請の提出	エレベーター確認申請の提出
第4号の建物 建物と併願申請 〔主に木造2階建かつ延べ500㎡以下の建物〕	建物の確認申請にエレベーターの申請書類を添付して特定行政庁に提出してください。エレベーターの申請書類は当社にて作成いたしますので、②～⑥の資料が揃いましたら当社担当者までご依頼ください。	エレベーター単独の確認申請は不要です。建築確認申請認可後、確認済証の写しを当社担当者にお渡しください。
第4号以外の建物 エレベーター別願申請	建物の確認申請にエレベーターの型式部材製造者認証書（図面を含む）を添付して特定行政庁へ提出してください。エレベーターの型式部材製造者認証書は当社にてご用意いたしますので、当社担当者までご依頼ください。	建築確認申請認可後にエレベーターの確認申請を当社にて代行いたします。①～⑥の資料をご準備の上、当社担当者にお渡しください。

ご参考

建物の種別による法手続き

建物の種類		建築基準法第6条第1項第1号	同 第2号	同 第3号	同 第4号	左記の第1号～4号以外
建物の概要		劇場・病院等の特殊建築物でその用途に供する床面積の合計が100㎡を超えるもの	木造で3階以上または延べ面積500㎡、建物高さ13m若しくは軒高さが9mを超えるもの	木造以外の建築物で2階以上または延べ面積200㎡を超えるもの	左記の1～3号以外の建築物で都市計画区域内等に指定されるもの	左記の1～4号以外のもの
建築	確認申請	○	○	○	○	×
	竣工検査	○	○	○	○	×
	検査済証	○	○	○	○	×
エレベーター	確認申請	○	○	○	（建物との併願申請となる）○	×
	竣工検査	○	○	○	（建物と同時に行われる）○	×
	検査済証	○	○	○	（建物の検査済証が兼用される）○	×
	工事の施工状況に関する報告（法12条5項）	×	×	×	×	（行政庁が提出を求める）○
備考						工事の施工状況に関する報告は必ず行うこと

建築基準法第6条第1項第1号に規定される建物用途

〈建築基準法別表第1〉

	建物用途
1	劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂、集会場その他これらに類するもので政令で定めるもの
2	病院、診療所（患者の収容施設があるものに限る）、ホテル、旅館、下宿、共同住宅、寄宿舎、その他これらに類するもので政令で定めるもの
3	学校、体育館その他これらに類するもので政令で定めるもの
4	百貨店、マーケット、展示場、キャバレー、カフェー、ナイトクラブ、バー、ダンスホール、遊技場その他これらに類するもので政令で定めるもの
5	倉庫その他これに類するもので政令で定めるもの
6	自動車車庫、自動車修理工場その他これらに類するもので政令で定めるもの

維持保全とメンテナンス（保守契約）について

エレベーターの所有者または管理者は、建築基準法などの法律により、定期的な検査を行い安全の維持管理に努めるよう義務づけられています（建築基準法第8条）。長年にわたって製品の性能と品質を維持するためには専門業者による定期点検・整備の契約（メンテナンス契約）が必要です。

当社製品のメンテナンスは、当社推奨のメンテナンス会社をおすすめします。当社推奨のメンテナンス会社では、契約による定期点検のほか、故障などのご連絡により24時間待機の専門技術者が出動して修理などを行います。

また所有者は、建築士（1級もしくは2級）または国土交通大臣の認定する昇降機検査資格者による年1回の定期検査を受け、その検査結果を所管行政庁へ報告しなければなりません。（建築基準法第12条3項）

なお、当社推奨のメンテナンス会社以外の業者が定期点検をした場合、当社はエレベーターの機能に責任を負いかねます。

※所管行政庁の定めにより検査報告が不要の地域があります。詳しくは当社までお問合せください。

防火区画

防火区画が適用される建物への設置について

防火区画（竪穴区画）が適用される建物にエレベーターを設置する場合は、その昇降路を難燃材料（不燃材料、準不燃材料が含まれる）で区画し、乗場前付近を「遮炎性能」・「遮煙性能」の両方の性能を有する防火設備で区画する必要があります。
三菱日立ホームエレベーターの遮煙乗場ドア（オプション）は、エレベーターの乗場ドアが、「遮炎性能」・「遮煙性能」の両方の性能を有する防火設備となり、建築工事での対策が不要となります。

昇降路を防火区画とする必要がある建物

■建築基準法施工令第112条の2、9、14項の規定

建築基準法に規定される以下の条件によりエレベーターの昇降路を防火区画としなければなりません。

○昇降路を防火区画とする必要のある建物（全階居室の場合）

地下階の有無	建物階数（停止数）＼防火指定	防火地域、または準防火地域				防火指定なし
	主要構造部	耐火構造、または準耐火構造				左記以外の木造
	延べ面積	延べ面積≦200㎡		200㎡<延べ面積≦500㎡	500㎡<延べ面積	延べ面積に関わらず
	用途	個人住宅（※1）	個人住宅以外	用途に関らず	用途に関らず	特殊建築物以外
地下階なし	4階（4停止）	●	●	●	●	ー（※2）
	3階（3停止）	ー	●	●	●	ー（※2）
	2階（2停止）	ー	ー	ー	●	ー（※2）
地下階あり	地下+3階（4停止）	●	●	●	●	ー（※2）
	地下+2階（3停止）	ー	●	●	●	ー（※2）
	地下+1階（2停止）	ー	●	●	●	ー（※2）

※1 一戸建て住宅または長屋、共同住宅の一住戸（住宅専有部分）
※2 建築の用途（特殊建築物など）、構造（鉄骨造、コンクリート造など）によって耐火建築物・準耐火建築物となる場合、防火区画が必要となる場合があります。詳しくは所管の行政庁へお問い合わせください。
※3 準耐火建築物ロ（ロ準耐）の建物は昇降路の防火区画が不要の場合がありますので、詳しくは所管の行政庁へお問い合わせください。
※4 建築基準法施行令第129条の7、告示第1416号によって昇降路ならびにエレベーター戸の材料規定を受ける場合、戸を難燃戸仕様とする必要があります。
※5 地下階が居室でない場合（ガレージなど）は、地上階数で判断するため「地下階なし」に準拠します。
※6 3階建てで、3階に居室を有さない場合は防火区画が不要となる場合があります。詳しくは所管の行政庁へお問い合わせください。

遮煙乗場ドア（オプション）については、73～78ページをご参照ください。
遮煙乗場ドアをご採用にならない場合は次の対策が必要です。

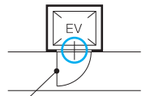
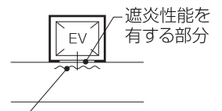
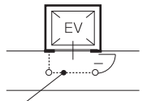
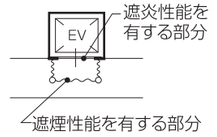
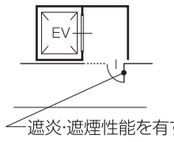
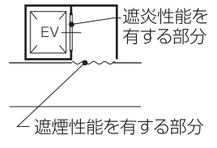
ご参考 平成14年2月18日に公表された日本建築行政会議の資料より抜粋

■昇降路の防火区画において必要とされる主な性能

建築基準法施行令（以下「令」という）第112条第9項及び第14項の規定により、昇降機の昇降路とその他の部分は、遮煙性能を有する法第2条第九号の二ロに規定する防火設備で区画しなければならない。よって、乗場戸の近傍で、遮炎・遮煙の両者の性能を有した防火設備で区画する必要がある。

性能	大臣認定の場合	例示仕様の場合
遮炎性能	法第2条第九号の二ロに基づく大臣認定 ・令第109条の2（防火設備） ・令第112条第1項（特定防火設備）	平12建告第1360号 平12建告第1369号
遮煙性能	令第112条第14項第二号に基づく大臣認定	昭48建告第2564号 （シャッターの場合は遮煙性能試験に合格したもの）

■防火区画の対策例

		Ⅰ 同一部材で遮炎・遮煙性能を有する防火設備	Ⅱ 複合型の防火設備
乗場戸に接して設置		(1)  遮炎・遮煙性能を有する防火設備 ※乗場戸と防火設備との間隔は300mm以下 防火設備の例:○防火戸　○防火防煙シャッター ○スライド式防火防煙扉 →遮炎性能:例示仕様 →遮煙性能:例示仕様	(2)  防火設備の例:○遮炎性能を有する乗場戸 +遮煙性能を有するスクリーン →大臣認定　遮炎性能:例示仕様／遮煙性能:性能評価
乗場戸前の空間を隔てて設置	非常時に空間を形成する場合	(3)  遮炎・遮煙性能を有する防火設備 防火設備の例:○空間+防火防煙シャッター・防火戸 →大臣認定　遮炎性能:例示仕様／遮煙性能:性能評価	(4)  防火設備の例:○遮炎性能を有する乗場戸+空間 +遮煙性能を有するスクリーン →大臣認定　遮炎性能:例示仕様／遮煙性能:性能評価
	乗降ロビーを設ける場合	(5)  遮炎・遮煙性能を有する防火設備 防火設備の例:○乗降ロビー+防火防煙シャッター・防火戸 →大臣認定　遮炎性能:例示仕様／遮煙性能:性能評価	(6)  防火設備の例:○遮炎性能を有する乗場戸+乗降ロビー +遮煙性能を有するスクリーン →大臣認定　遮炎性能:例示仕様／遮煙性能:性能評価

防火区画貫通部の処理について

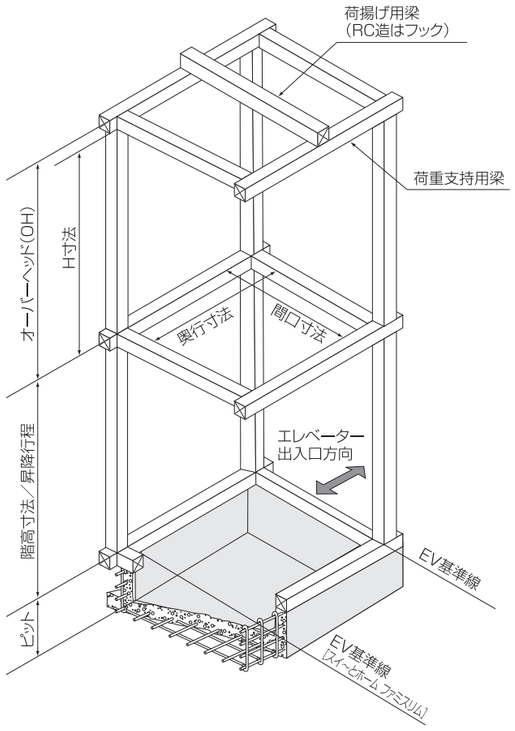
警告
昇降路内にはエレベーターに使用する電源線、電話線以外に他の電源、配管などを設けることはできません。（建築基準法施行令による）

エレベーターに使用する電源線・電話線を、防火区画が必要な昇降路を貫通して設置する場合、貫通部分から火災や煙が広がらないように適切な措置をとることが必要です。
（関連法令:法36条、令112条15項、令129条の2の5第1項、平12建告1422号）

建築設計・施工上のご注意

昇降路の各部名称と注意点

●下図は各部名称説明のために木造を例として示します。詳しくは各構造別のページをご参照ください。



オーバーヘッド(OH)

オーバーヘッドは最上階床仕上面(FL)から昇降路天井または、荷揚げ用梁(RC造は荷揚げ用フック)の下端までの垂直寸法を指します。オーバーヘッドが確保されない場合は返し車などの機器が天井と干渉し、エレベーターを設置することができません。

※昇降路の天井をボードなどで塞いでください。ボード貼り位置は、頂部の荷重支持梁より上方とし、機器の妨げにならないようにしてください。

H寸法

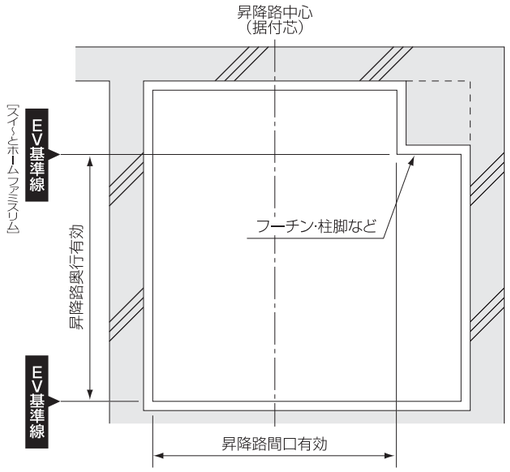
H寸法は最上階床仕上面(FL)から頂部の機器･レール固定点までの垂直寸法を指します。H寸法の許容範囲を超える場合には、指定寸法内に荷重支持用の梁や壁などの構造物を設けてください。

※設置位置など詳しくはお問合せください。

荷重支持用梁(木造･鉄骨造の場合)･壁(RC造の場合)

警告 エレベーターの建築負荷荷重に耐える構造としてください。十分な強度がないと、エレベーターが損傷し重大な事故が起こる原因となります。

昇降路の頂部および各階の床部で機器を固定します。固定点には指定される梁や壁などの構造物がないとエレベーターを設置することができません。



昇降路有効寸法

有効寸法は機器の設置に必要最小限の平面寸法を指します。昇降路内のボードや耐火被覆、およびピット内にフーチンや柱脚、防水仕上げなどがある場合には、その内側から有効寸法を確保してください。

※各階で有効寸法が異なる場合は、最小の間口寸法および奥行寸法が昇降路の有効寸法となります。

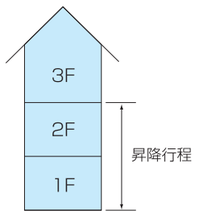
EV基準線

EV基準線とは機器を設置するための昇降路内の基準面を指し、ピット底面から頂部まで水平･垂直に設計してください。

※「スイ～とホーム ファミリム」のEV基準線は2ヵ所あります。

昇降行程

最下階床仕上面(FL)から最上階床仕上面(FL)までの垂直寸法が昇降行程となります。ホームエレベーター、小規模建物用小型エレベーターは、建築基準法上で10m以下と定められていますのでご注意ください。



※1 1階から3階まで昇降するエレベーターの昇降行程は、1階と2階の階高の合計となります。
※2 2停止の場合、昇降行程9.3m以下としてください。詳しくは当社までお問い合わせください。
※3 昇降行程7mを超える場合は、「地震セット(オプション)」が必要となります。
※4 「スイ～とホーム ファミリム」の昇降行程は6.6m以下となります。

階高寸法

階高は許容範囲内で設計してください。最小寸法に満たない場合は、エレベーターを設置することができません。また、最大寸法を超える場合は、その階高の中間部にエレベーターの建築負荷荷重を受けるための梁や壁などの構造物を設けてください。(最小寸法であっても穴あけ高さ寸法を確保できないとエレベーターの設置ができません。)

※設置位置など詳しくはお問合せください。

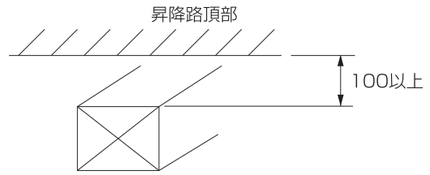
荷揚げ用梁･フックの設置

警告 梁やフック、および建物の強度は吊荷重に耐える構造としてください。
十分な強度がないと、エレベーターが損傷し重大な事故が起こる原因となります。

エレベーターの取付工事に使用します。荷揚げ用梁･フックの下端で最小寸法2400mm(「スイ～とホームDXアバンティ」は2450mm、「スイ～とモア スペーシア」は2500mm)を確保し、吊荷重4900N(500kg)に耐える梁やフックを設置してください。
また、設置高さを確保できない場合は取外し可能な梁を設けてください。

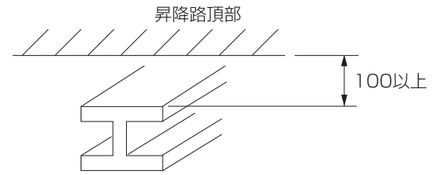
●木造の場合

注意 荷揚げ用梁(120×120以上)の上端から昇降路頂部までの隙間を100mm以上確保してください。



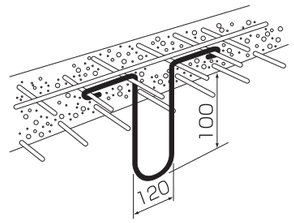
●鉄骨造の場合

注意 荷揚げ用梁の上端から昇降路頂部までの隙間を100mm以上確保してください。

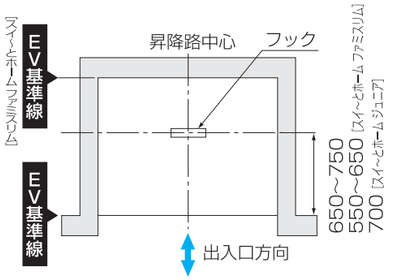


●コンクリート造の場合

注意 荷揚げ用フックは、鉄筋φ13以上のものを使用し、下図のようにスラブに巻き込んで施工してください。



注意 **荷揚げ用フックの取付位置**



煙感知器点検口の設置

警告 煙感知器の点検口を設置する場合は、「点検口スイッチ(オプション)」が必要となります。
詳しくは当社までお問い合わせください。

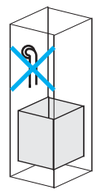
昇降路頂部に煙感知器などを設置する場合は、煙感知器などがエレベーターの運行に支障なく保守点検できる構造としてください。(詳しくは55ページを参照してください)

昇降路内の梁・突出物

警告 昇降路内壁の内側に、梁などの突出物が出ないようにしてください。
やむを得ず突出物が出てくる場合には、建築側で突出物の面に合わせて、壁等の間仕切りを設けてください。

昇降路内の配管・配線

警告 昇降路内にはエレベーターに使用する電源線･電話線以外に他の電線や配管などを設けることはできません。(関連法令:129条の2の5第1項)



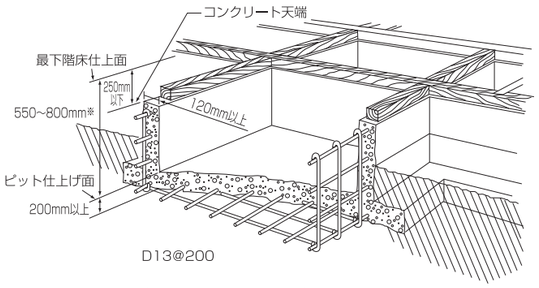
建築設計・施工上のご注意

ピットの築造

ピットとは、最下階床仕上面（FL）から昇降路底面までの部分を指し、アンカーボルトで巻上機や緩衝器を設置します。以下の点にご注意ください。

- ●コンクリート設計基準強度は21N/mm²以上としてください。
- ●ピット内に漏水などの恐れがある場合は、防水仕上げをしてください。（厚さ20mm以内）
- ●ピット内には換気口、排水口などを設けないでください。（建築基準法施行令による）
- ●コンクリートブロックではエレベーターのレール固定ができないため、使用しないでください。
- ●ピット床下部を通路や居室として使用することはできません。（建築基準法施行令による）
- ●ピット床には配管等を埋め込まないでください。

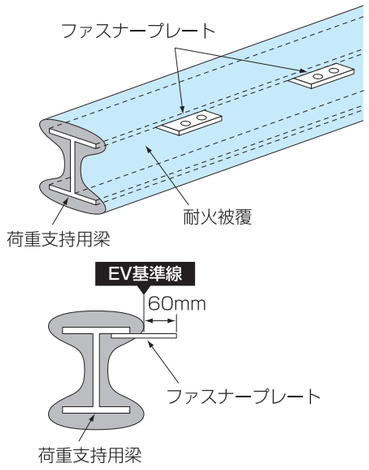
警告 エレベーターの建築負荷荷重に耐える構造としてください。十分な強度がないと、エレベーターが損傷し重大な事故が起こる原因となります。



※防水仕上げの場合は防水仕上げ面から最下階床仕上面までの距離になります。

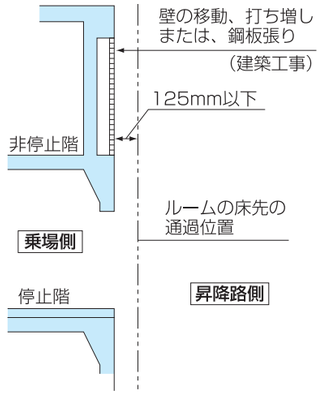
荷重支持用梁に耐火被覆を設ける場合

エレベーター固定用のファスナープレートは、エレベーター固定部を残して施工してください。



ルームの床先と昇降路の壁とのすき間

ルームの床先（敷居の先端）と昇降路の壁との水平距離は125mm以下にする必要があります。非停止階がある場合などについては下図のように壁の打ち増し、または鋼板張りを行ってください。（建築基準法施行令による）

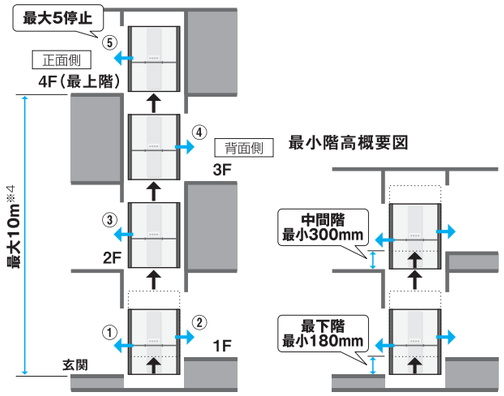


二方向出入口（オプション）※1の注意点

前後二方向に出入口を設けるオプションです。以下の点にご注意ください。

停止数	最大5箇所（正面側・背面側の合計）※2
最小ピット深さ	750mm
昇降行程	10m※4
最小階高※3	最下階　180mm
	中間階　300mm

※1「スイ～とホーム ファミスリム、スイ～とホーム ジュニア」は対象外です。
※2 正面側とは最上階の乗場がある出入口側を示し、背面側は反対の出入口側を示します。また同一階での二方向出入口は対応できません。
※3 2停止及び出入口方向が上下階で同じ場合は2400mm（遮煙乗場ドア適用の場合は2450mm）必要です。「スイ～とモア スペーシア」は2500mm（遮煙乗場ドア適用の場合は2550mm）
※4 2停止の場合は昇降行程を9.3m以下としてください。詳しくは当社までお問い合わせください。

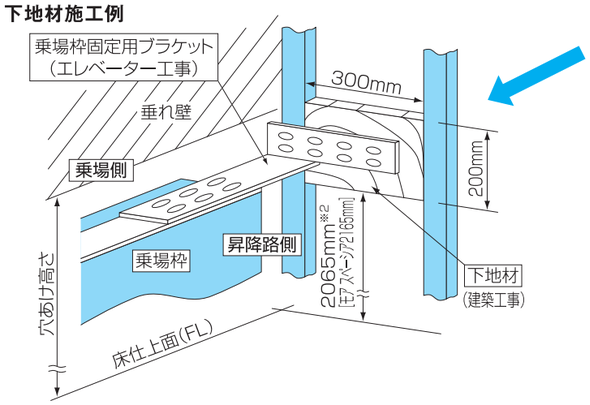


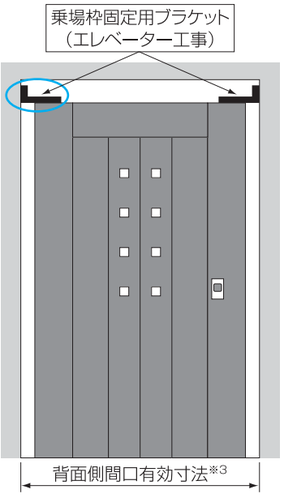
乗場枠固定用下地材の設置

●二方向出入口（オプション）※1の背面側の乗場

背面側の乗場枠の固定には、昇降路左右の壁に固定のための下地材を施工してください。

下地材施工例





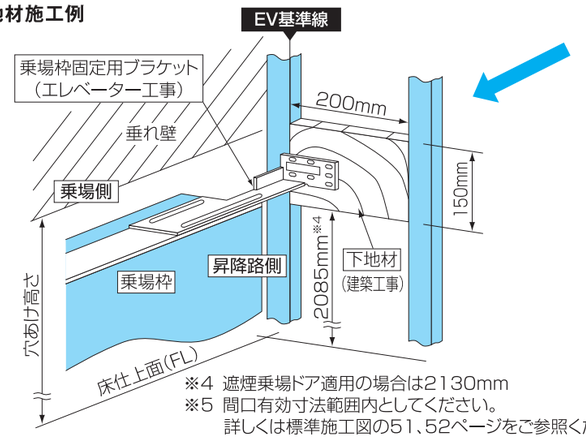
〈背面側乗場〉

※1「スイ～とホーム ジュニア」は対象外です。
※2 遮煙乗場ドア適用の場合は2110mm［モア スペーシア2210mm］
※3 背面側乗場枠固定のために正面側と同様の寸法範囲内としてください。詳しくは標準施工図の51、52ページをご参照ください。

●「スイ～とホーム ファミスリム」の乗場

「スイ～とホーム ファミスリム」の乗場枠の固定には、昇降路左右の壁に固定のための下地材を施工してください。

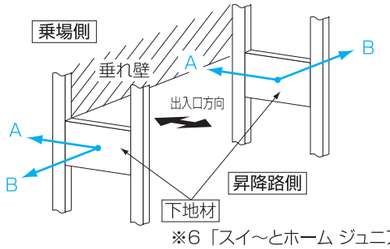
下地材施工例



※4 遮煙乗場ドア適用の場合は2130mm
※5 間口有効寸法範囲内としてください。詳しくは標準施工図の51、52ページをご参照ください。

●下地材への建築負荷荷重

下図の荷重に耐える下地材としてください。



［二方向出入口（オプション）※6の背面側の乗場］［単位:N］

	乗　場	A	B
荷重	中間階	±248	496
	最下階	±294	588

［スイ～とホーム ファミスリムの乗場］［単位:N］

	乗　場	A	B
荷重	最上階・中間階	±216	432
	最下階	±255	510

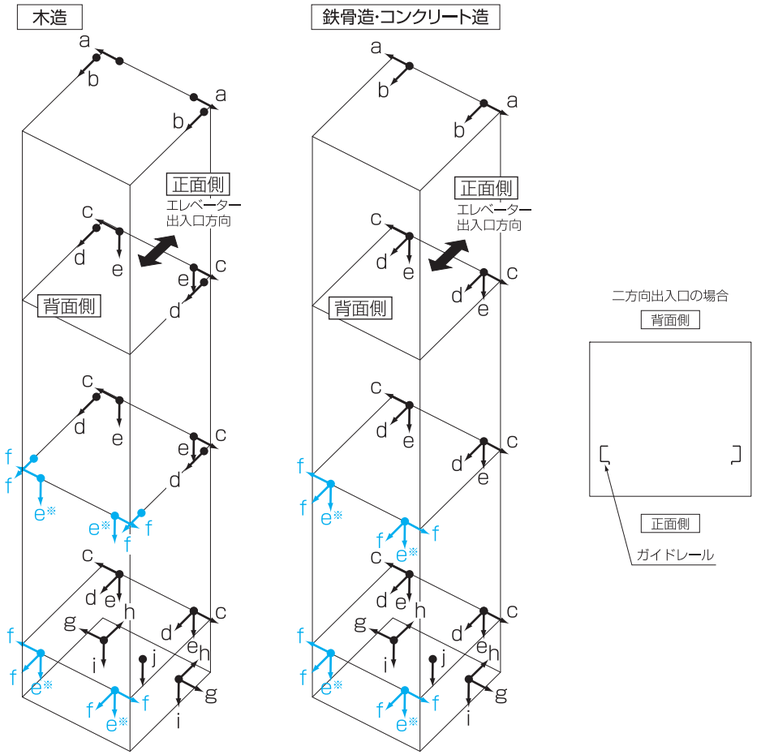
※6「スイ～とホーム ジュニア」は対象外です。

建物の構造計算

建築負荷荷重

警告 昇降路は下図の荷重に耐える構造としてください。

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / ファミロング / コンパクト / モア スペーシア / モア ロング / モア スタンダード



・図は3箇所停止の場合を示しています。2箇所停止の場合は中間階を省略してください。
・4･5箇所停止の場合は中間階を追加してください。
・矢印の荷重は、同一軸上では同時に互いに打ち消し合う方向には作用せず、+、−のいずれかの方向にのみ作用します。
・正面側とは最上階の乗場側がある出入口側を示します。

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / コンパクト / モア スタンダード

（単位:N）

		一方向出入口			二方向出入口		
		長期荷重	短期荷重（地震時荷重）	短期荷重（地震時および安全装置作動時）	長期荷重	短期荷重（地震時荷重）	短期荷重（地震時および安全装置作動時）
荷重[N]	a	−	±791 (±725)	±791 (±725)	−	±861 (±784)	±861 (±784)
	b	1095 (931)	±1503 (±1318)	±1503 (±1318)	1493 (1112)	±1901 (±1499)	±1901 (±1499)
	c	−	±1115 (±1020)	±1115 (±1020)	−	±1221 (±1108)	±1221 (±1108)
	d	±84 (±72)	±1199 (±1091)	±1199 (±1091)	±368 (±153)	±1589 (±1261)	±1797 (±1261)
	e	662 (613)	860 (797)	860 (797)	662 (613)	860 (797)	860 (797)
	f	−	−	−	−	±397 (±368)	±397 (±368)
	g	−	±1724 (±1439)	±1724 (±1439)	−	±1830 (±1527)	±1830 (±1527)
	h	−	±1808 (±1510)	±1808 (±1510)	−	±2198 (±1680)	±2198 (±1680)
	i	7057 (6038)	9894 (8408)	17837 (15201)	7527 (6430)	10541 (8947)	19601 (16671)
	j	−	−	22542 (20082)	−	−	24708 (21657)

（ ）内数値は、「スイ〜とホーム コンパクト」の建築負荷荷重を示しています。
参考：1kgf=9.8N

ファミロング / モア スペーシア / モア ロング

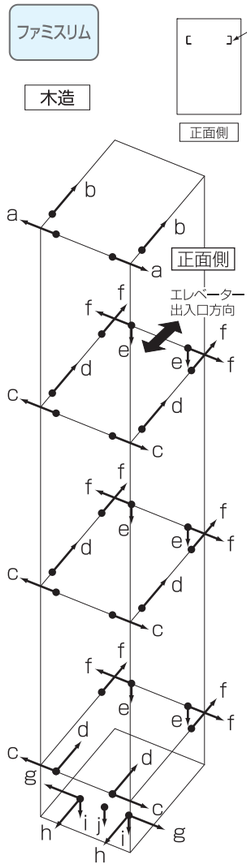
（単位:N）

		一方向出入口			二方向出入口		
		長期荷重	短期荷重（地震時荷重）	短期荷重（地震時および安全装置作動時）	長期荷重	短期荷重（地震時荷重）	短期荷重（地震時および安全装置作動時）
荷重[N]	a	−	±827	±827	−	±886	±886
	b	1313	±1721	±1721	1645	±2053	±2219
	c	−	±1170	±1170	−	±1258	±1258
	d	±239	±1409	±1409	±476	±1733	±2219
	e	662	860	860	662	860	860
	f	−	−	−	−	±397	±397
	g	−	±1779	±1779	−	±1867	±1867
	h	−	±2018	±2018	−	±2342	±2342
	i	7316	10251	18809	7708	10790	20279
	j	−	−	23771	−	−	25461

参考：1kgf=9.8N

警告 昇降路は下図の荷重に耐える構造としてください。

ファミスリム



・図は3箇所停止の場合を示しています。2箇所停止の場合は中間階を省略してください。
・矢印の荷重は、同一軸上では同時に互いに打ち消し合う方向には作用せず、+、−のいずれかの方向にのみ作用します。

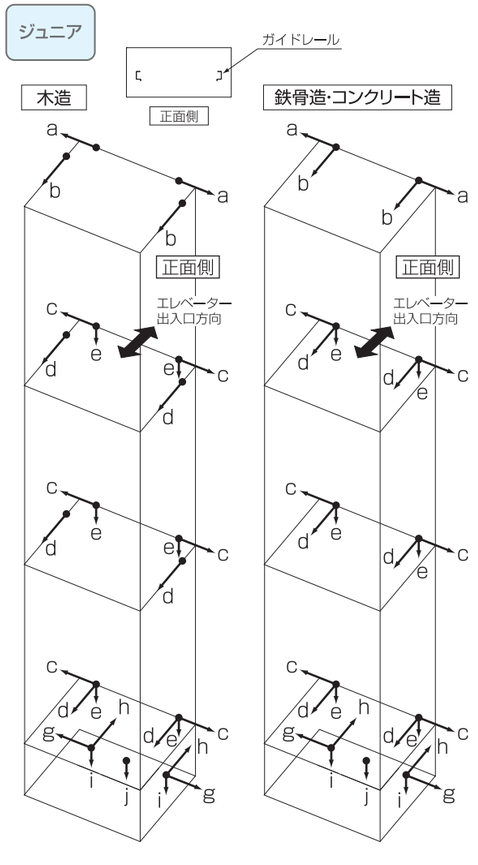
ファミスリム

（単位:N）

		一方向出入口		
		長期荷重	短期荷重（地震時荷重）	短期荷重（地震時および安全装置作動時）
荷重[N]	a	−	±509	±509
	b	916	±1042	±3511
	c	−	±674	±674
	d	±912	±1586	±3511
	e	539	701	701
	f	−	±324	±324
	g	−	±1437	±1437
	h	−	±2349	±2349
	i	5537	6295	15778
	j	−	−	21657

参考：1kgf=9.8N

ジュニア



・図は3箇所停止の場合を示しています。2箇所停止の場合は中間階を省略してください。
・4箇所停止の場合は中間階を追加してください。
・矢印の荷重は、同一軸上では同時に互いに打ち消し合う方向には作用せず、+、−のいずれかの方向にのみ作用します。

ジュニア

（単位:N）

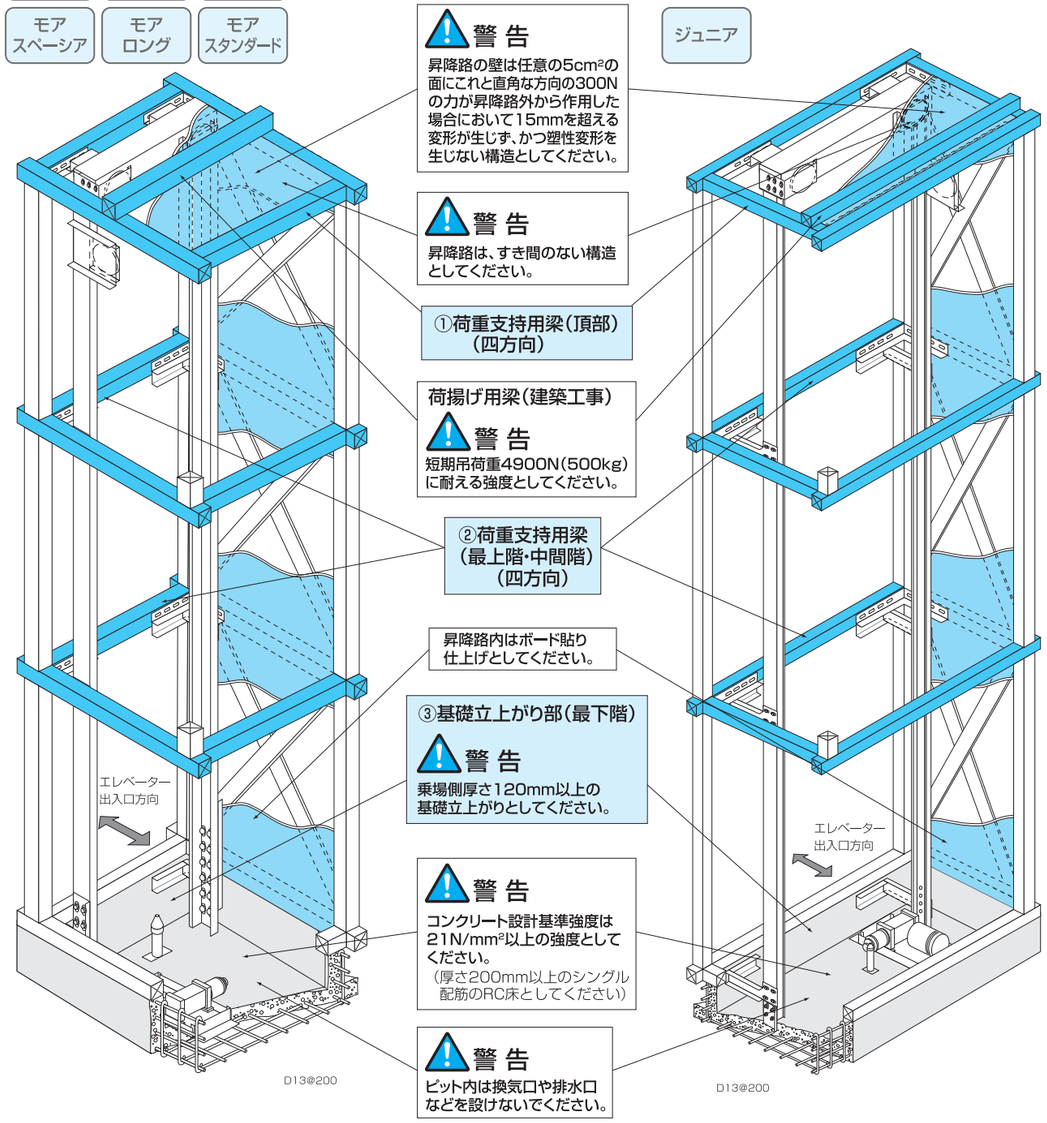
		一方向出入口		
		長期荷重	短期荷重（地震時荷重）	短期荷重（地震時および安全装置作動時）
荷重[N]	a	−	±755	±755
	b	1136	±1626	±1626
	c	−	±988	±988
	d	±307	±1257	±1493
	e	662	860	860
	f	−	−	−
	g	−	±1371	±1371
	h	−	±1641	±1641
	i	5841	8132	14250
	j	−	−	18908

参考：1kgf=9.8N

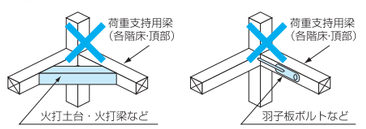
標準断面図

昇降路の構造

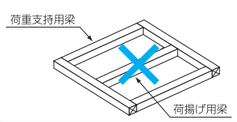
DX アバンティ | DX 禅 | DX ファインウッド
ファミリー | ファミロング | コンパクト
モア スペーシア | モア ロング | モア スタンダード



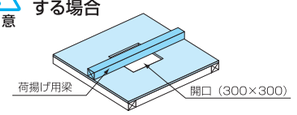
注意 昇降路の内側に接合金物があると、エレベーターを設置できません。



注意 荷揚げ用梁を荷重支持用梁と同じ高さには設置しないでください。



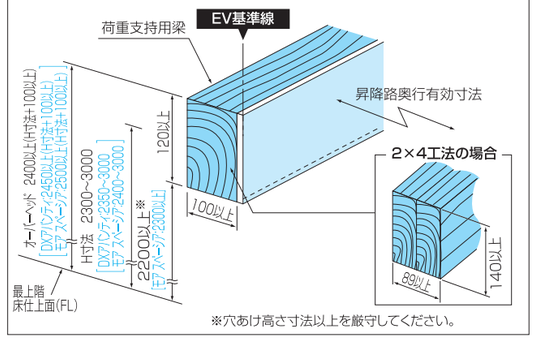
注意 荷揚げ用梁の下部にてボード施工する場合



ボードの中心に300×300の開口を用意してください。また、エレベーター据付後に開口を塞ぎますので、ボードなどを支給してください。

荷重支持用梁（頂部）

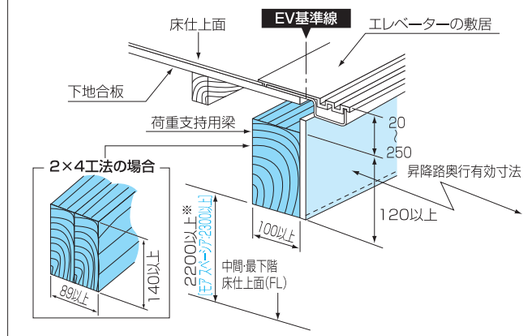
- 頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から2400〜3000mmの範囲内に梁成120mm以上が納まるように設置してください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

荷重支持用梁（最上階・中間階）

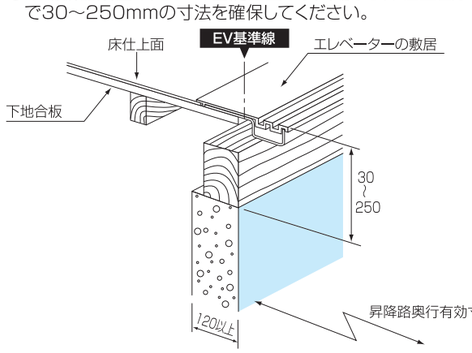
- 最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）の梁成は120mm以上としてください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。（左図②）
- 乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで20〜250mmの寸法を確保してください。



※穴あけ高さ寸法を厳守してください。

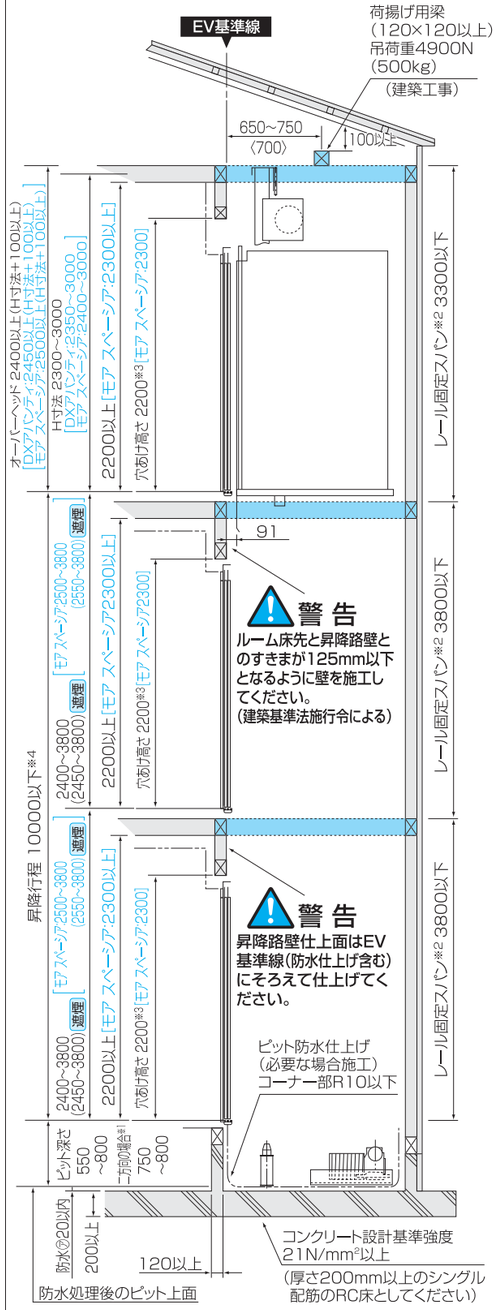
基礎立上がり部（最下階）

- レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上がりを設けてください。（左図③）また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
- 乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで30〜250mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図

遮煙 の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。
〈 〉内の数値は「スイ〜とホーム ジュニア」の寸法を示します。



※1 「スイ〜とホーム ジュニア」は二方向出入口を選択できません。
※2 レール固定スパンが3800mm以下（最上階は3300mm以下）となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
※3 穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。
※4 2停止の場合は昇降路行程9.3m以下としてください。（令第129条の10、平成20国告第1536号）詳しくは当社までお問い合わせください。

- EV基準線とは、出入口側の昇降路内面を示します。
- 階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
- 参考：1kgf=9.8N

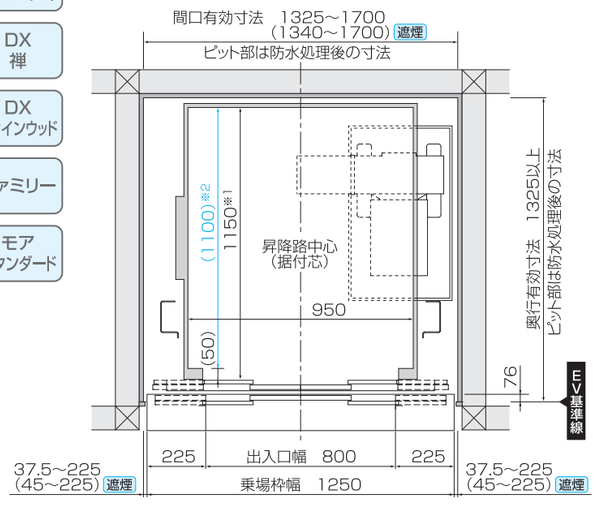
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73～78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- ●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- ●電気・電話工事は53～58ページをご参照ください。
- ●EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11～14ページをご参照ください。
- ●昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
- ●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

DX アバンティ
DX 禅
DX ファインウッド
ファミリー
モア スタンダード

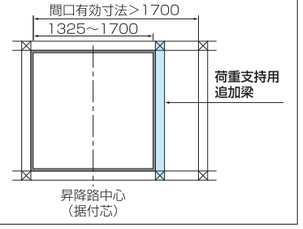
3人乗り・一方向出入口



ワンポイント!

間口有効寸法＞1700mmとなる場合

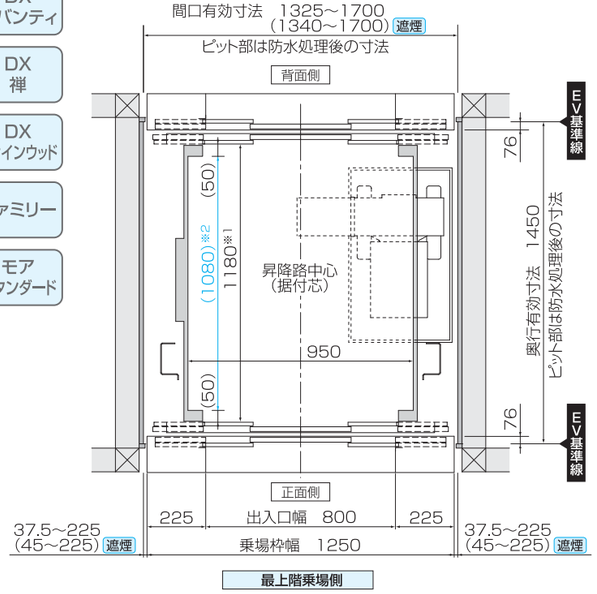
下図のように間口有効寸法が1700mmより大きい場合には、間口有効寸法が1325mm～1700mm（遮煙乗場ドア適用の場合は1340mm～1700mm）の範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた1100mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

DX アバンティ
DX 禅
DX ファインウッド
ファミリー
モア スタンダード

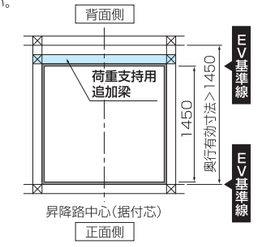
3人乗り・二方向出入口



ワンポイント!

奥行有効寸法＞1450mmとなる場合

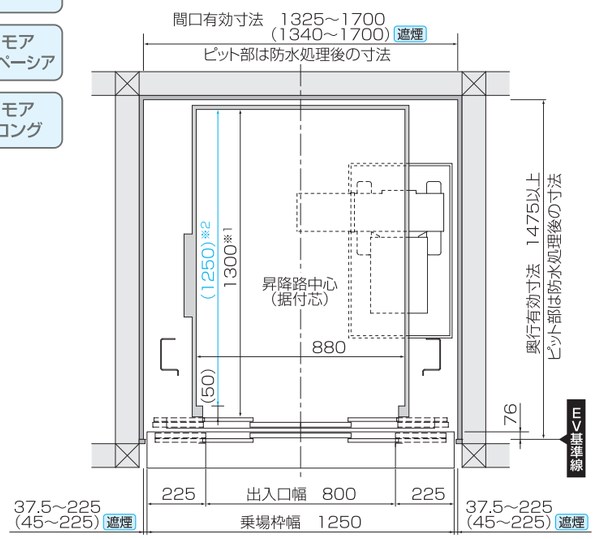
二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1450mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1450mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1080mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

ファミロング
モア スペーシア
モア ロング

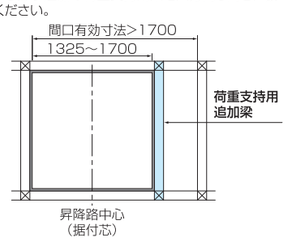
3人乗り・一方向出入口



ワンポイント!

間口有効寸法＞1700mmとなる場合

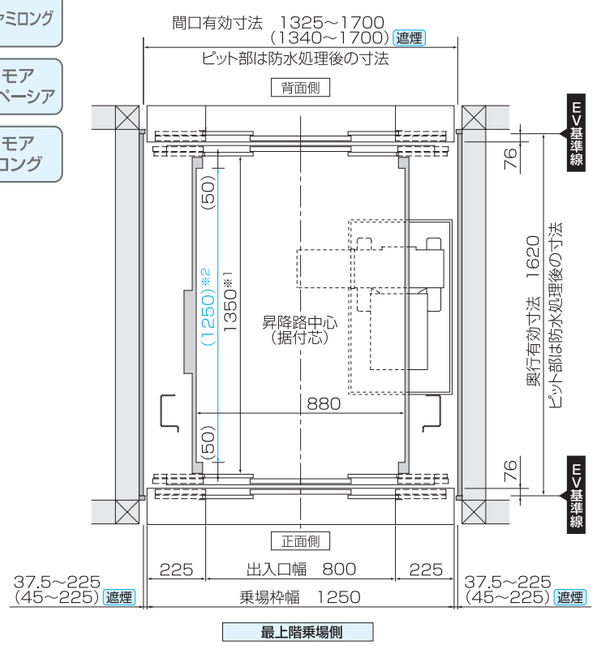
下図のように間口有効寸法が1700mmより大きい場合には、間口有効寸法が1325mm～1700mm（遮煙乗場ドア適用の場合は1340mm～1700mm）の範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

ファミロング
モア スペーシア
モア ロング

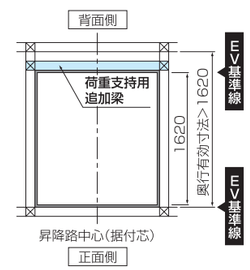
3人乗り・二方向出入口



ワンポイント!

奥行有効寸法＞1620mmとなる場合

二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1620mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1620mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

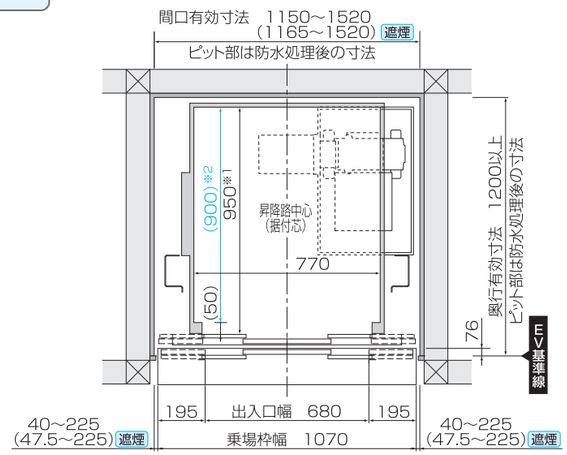
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73〜78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- ●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- ●電気･電話工事は53〜58ページをご参照ください。
- ●EV基準線、二方向出入口※の留意点につきましては11〜14ページをご参照ください。
- ●昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
- ●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

※「スイ〜とホーム ジュニア」は対象外です。

コンパクト　2人乗り･一方向出入口

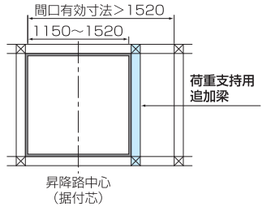


※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた900mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1520mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

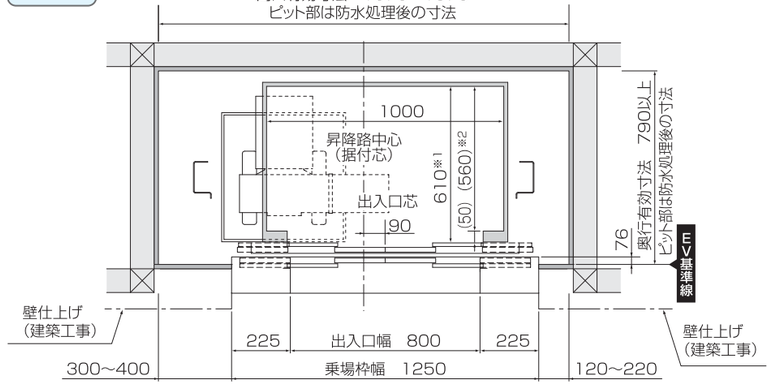
ワンポイント!

間口有効寸法＞1520mmとなる場合

下図のように間口有効寸法が1520mmより大きい場合には、間口有効寸法が1150mm〜1520mm（遮煙乗場ドア適用の場合は1165mm〜1520mm）の範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



ジュニア

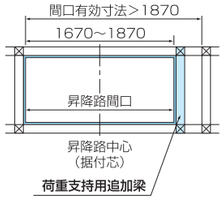


※1 確認申請及び建築基準法による、床面積計算時のルーム奥行寸法は、踏込部の50mmを除いた560mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1870mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。
※4 遮煙乗場ドア適用時の昇降路寸法は標準寸法と同じになります。

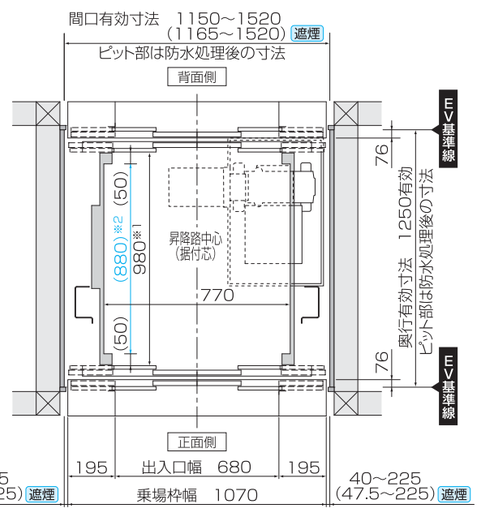
ワンポイント!

間口有効寸法
＞1870mmとなる場合

下図のように間口有効寸法が1870mmより大きい場合には、間口有効寸法が1670〜1870mmの範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



コンパクト　2人乗り･二方向出入口



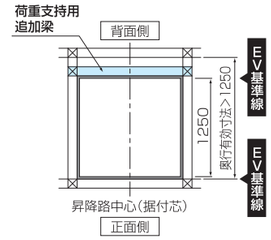
最上階乗場側

※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた880mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1520mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

ワンポイント!

奥行有効寸法＞1250mmとなる場合

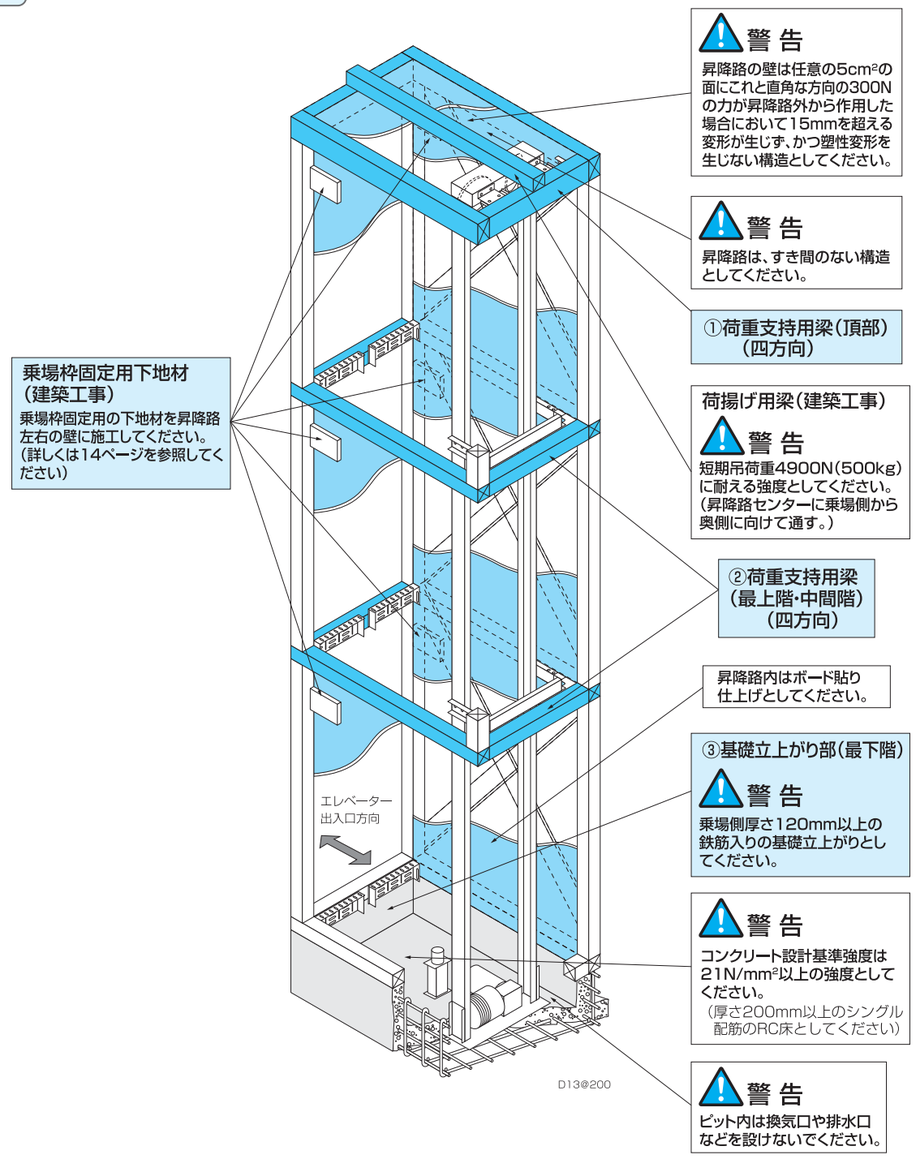
二方向出入口で下図のように奥行有効寸法が1250mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1250mmとなるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。



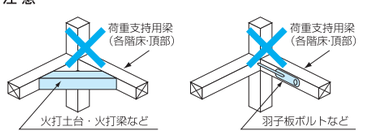
標準断面図

昇降路の構造

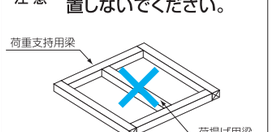
ファミスリム



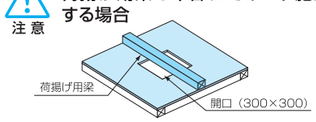
注意 昇降路の内側に接合金物があると、エレベーターを設置できません。



注意 荷揚げ用梁を荷重支持用梁と同じ高さには設置しないでください。



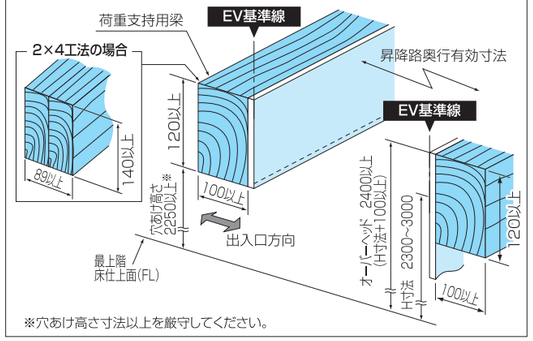
注意 荷揚げ用梁の下部にてボード施工する場合



ボードの中心に300×300の開口を用意してください。また、エレベーター据付後に開口を塞ぎますので、ボードなどを支給してください。

荷重支持用梁（頂部）

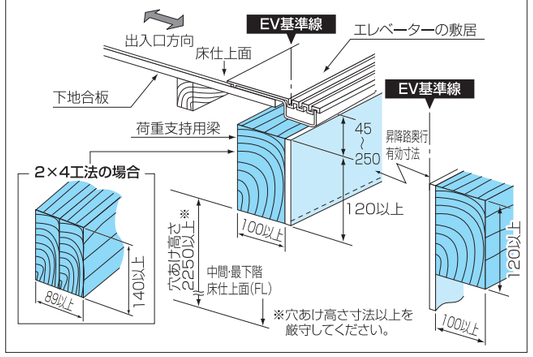
- 頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から2400〜3000mmの範囲内に梁成120mm以上が納まるように設置してください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

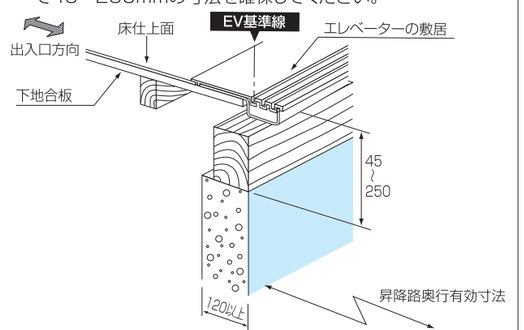
荷重支持用梁（最上階・中間階）

- 最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）の梁成は120mm以上としてください。
- レール・乗場固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。（左図②）
- 乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで45〜250mmの寸法を確保してください。

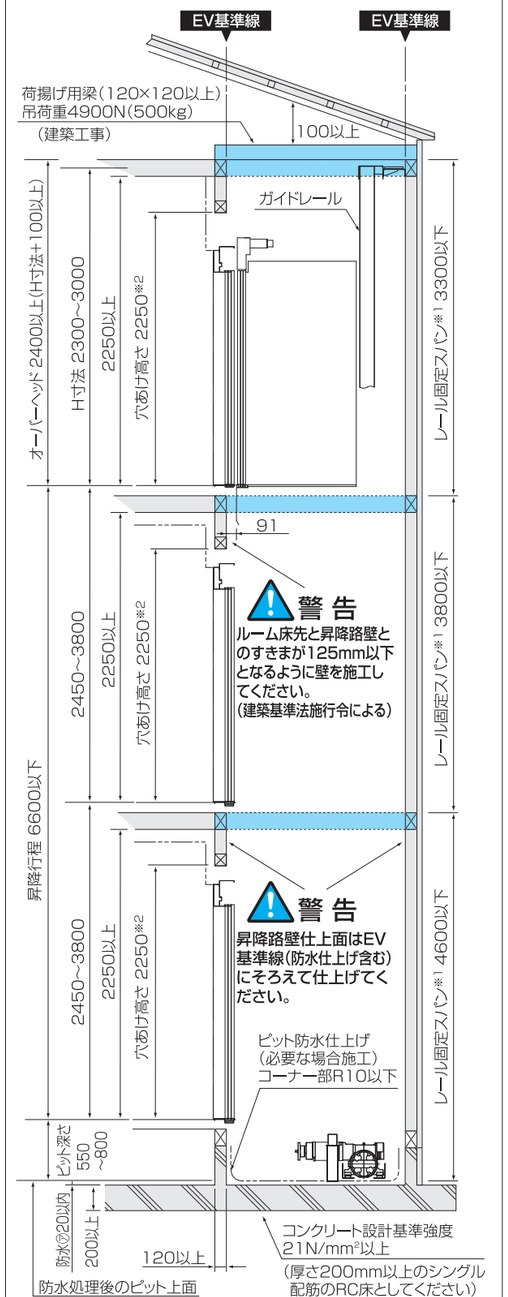


基礎立上がり部（最下階）

- 乗場固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりを設けてください。（左図③）また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
- 乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで45〜250mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図



※1 レール固定スパンが下記に示す寸法以下となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
最上階：3300mm以下
中間階：3800mm以下
最下階：4600mm以下
※2 穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

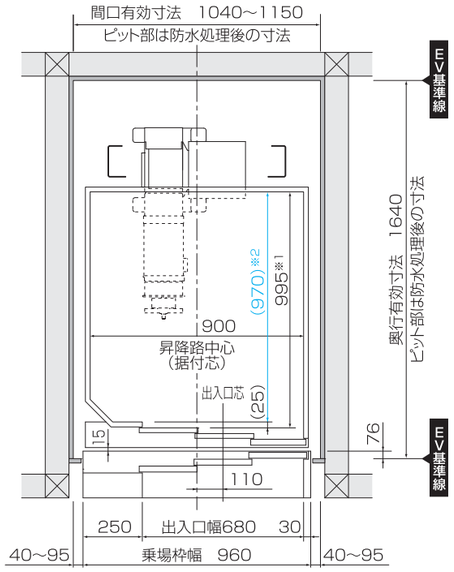
- EV基準線とは、出入口側及び背面側の昇降路内面を示します。
- 階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
- 参考：1kgf=9.8N

標準平面図

●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
●電気･電話工事は53〜58ページをご参照ください。
●EV基準線の留意点につきましては11ページをご参照ください。
●昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

ファミスリム

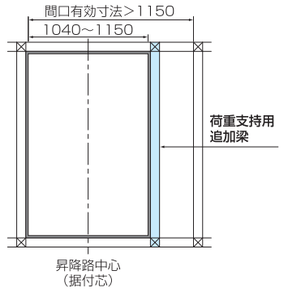
3人乗り･一方向出入口



ワンポイント!

間口有効寸法>1150mmとなる場合

下図のように間口有効寸法が1150mmより大きい場合には、間口有効寸法が1040mm〜1150mmの範囲内となるよう必ず追加の荷重支持用梁を四方同じ高さに設置してください。

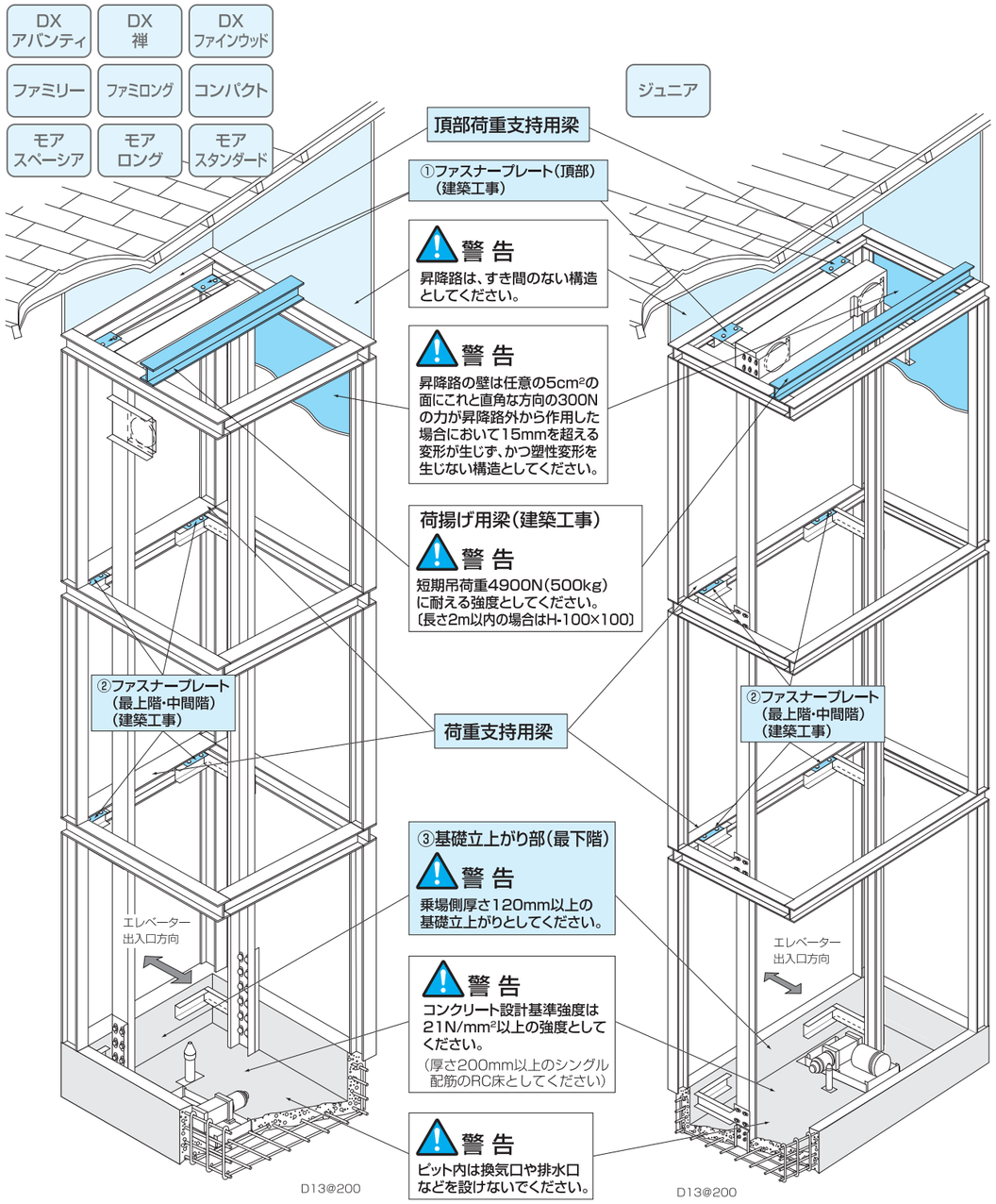


※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の25mmを除いた970mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法です。
※3 間口有効寸法最大の1150mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。
※4 遮煙乗場ドア適用時の昇降路寸法は標準寸法と同じになります。

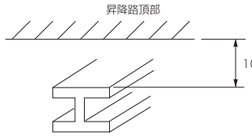
メ モ

標準断面図

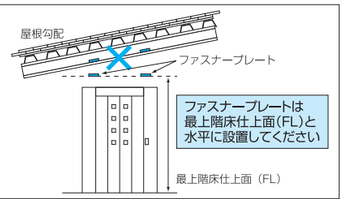
昇降路の構造



注意 荷揚げ用梁の上端から昇降路頂部までの隙間を100mm以上確保してください。



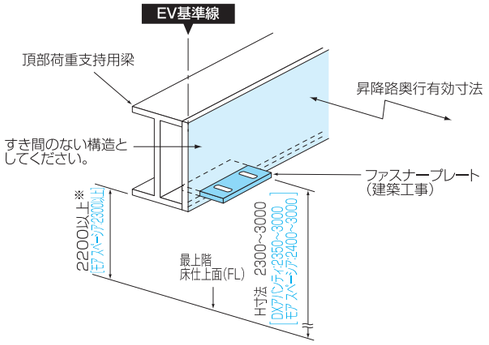
注意



注意 ブレースなどの障害物が昇降路内にある場合、エレベーターを設置できません。

ファスナープレート（頂部）

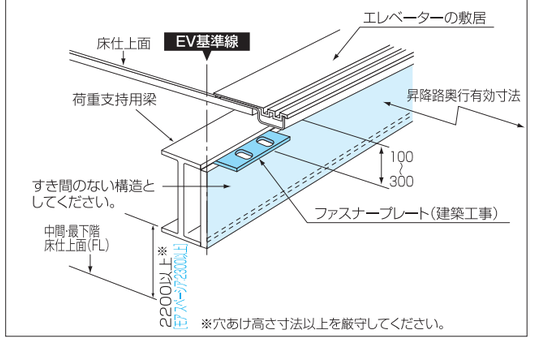
●頂部荷重支持用梁にファスナープレートを下図の位置に設けてください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

ファスナープレート（最上階・中間階）

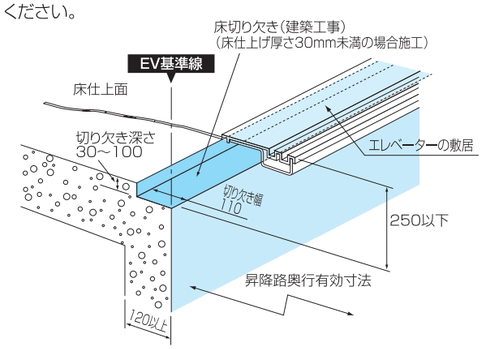
●最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）にファスナープレートを設けてください。ファスナープレートは下図の位置に設けてください。（左図①）
●乗場機器設置のために、ファスナープレートから床仕上面まで100〜300mmの寸法を確保してください。



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

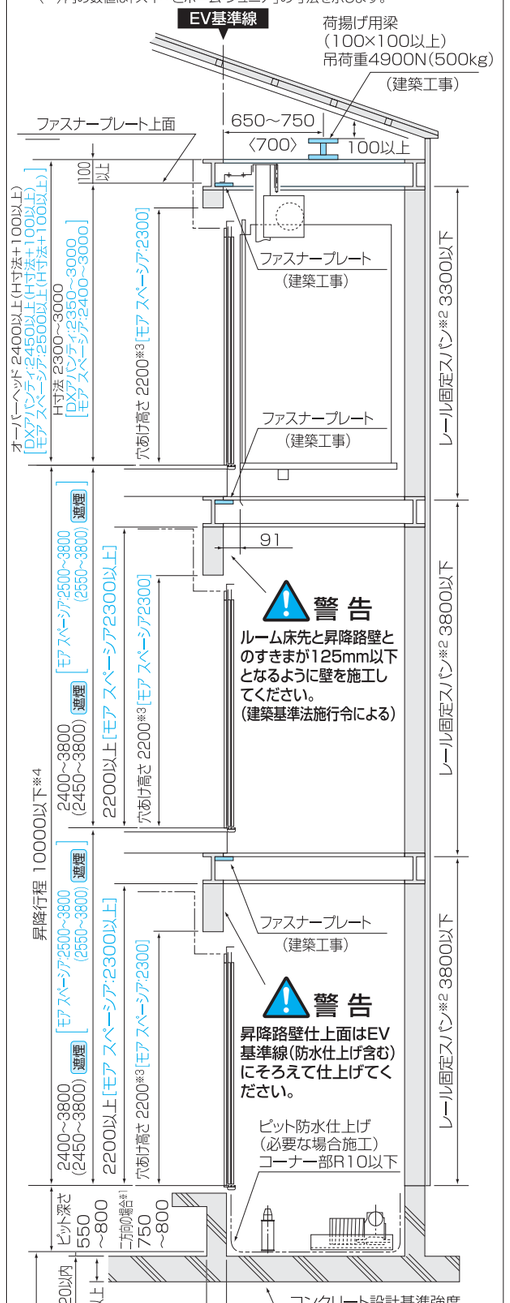
基礎立上がり部（最下階）

●レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上がりを設けてください。（左図③）また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
●床仕上げ厚さは250mm以下としてください。
但し、床仕上げ厚さが30mm未満の場合は乗場機器設置のために切り欠き（床仕上げ面より深さ30〜100mm）をしてください。



昇降路断面図

遮煙 の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。
〈 〉内の数値は「スイ〜とホーム ジュニア」の寸法を示します。



※1 「スイ〜とホーム ジュニア」は二方向出入口を選択できません。
※2 レール固定スパンが3800mm以下（最上階は3300mm以下）となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
※3 穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。
※4 2停止の場合は昇降路行程9.3m以下としてください。（令第129条の10、平成20国告第1536号）詳しくは当社までお問い合わせください。
●EV基準線とは、出入口側の昇降路内面を示します。
●階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
●参考：1kgf=9.8N

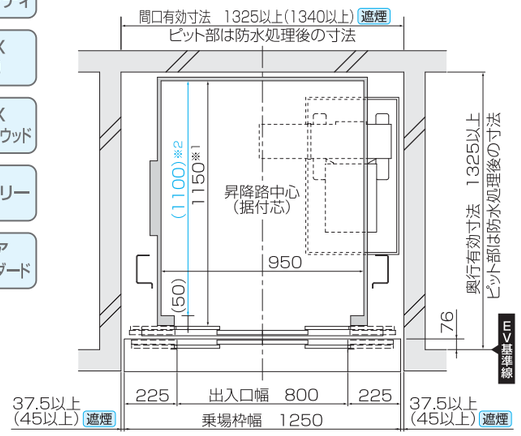
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73〜78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- 下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- 電気・電話工事は53〜58ページをご参照ください。
- EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11〜14ページをご参照ください。
- 地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / モア スタンダード

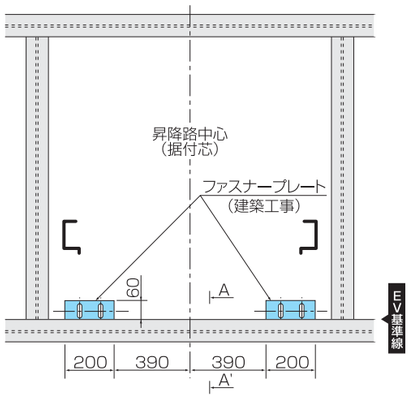
3人乗り・一方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた1100mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファスナープレートの取付位置

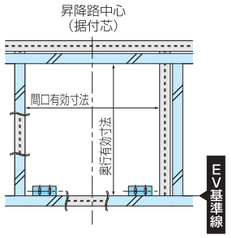
最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
（梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。）



ワンポイント！

昇降路内の側面に梁がある場合

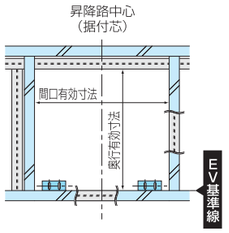
側面の梁の内面（耐火被覆を含む）から間口有効寸法を確保してください。



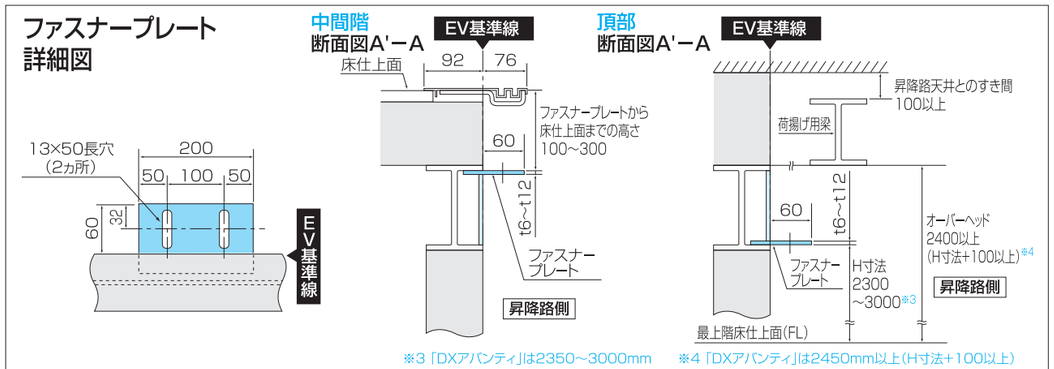
ワンポイント！

昇降路内の背面に梁がある場合

背面の梁の内面（耐火被覆を含む）から奥行有効寸法を確保してください。



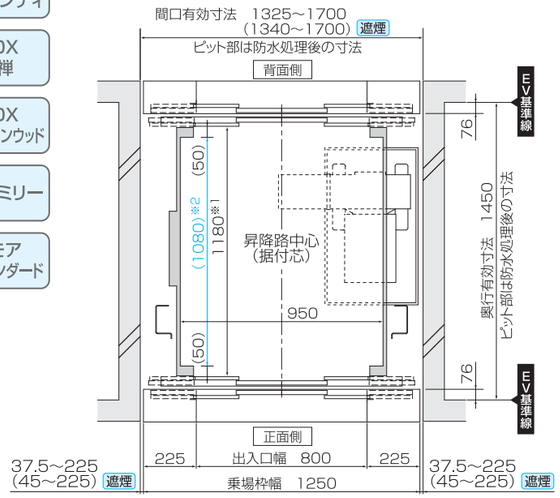
ファスナープレート 詳細図



※3「DXアバンティ」は2350〜3000mm　※4「DXアバンティ」は2450mm以上（H寸法+100以上）

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / モア スタンダード

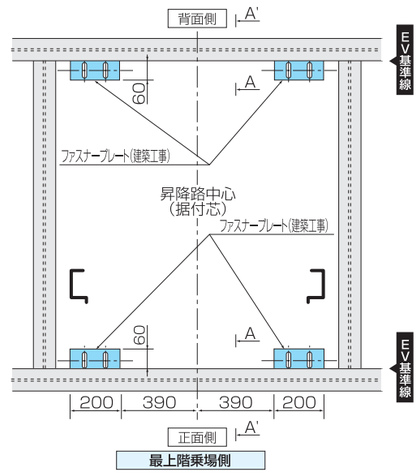
3人乗り・二方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1080mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファスナープレートの取付位置

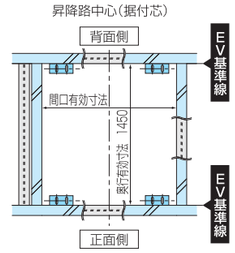
最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
（梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。）



ワンポイント！

昇降路内に梁がない場合

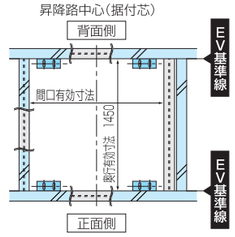
側面の壁の内面から間口有効寸法を確保してください。



ワンポイント！

昇降路内に梁がある場合

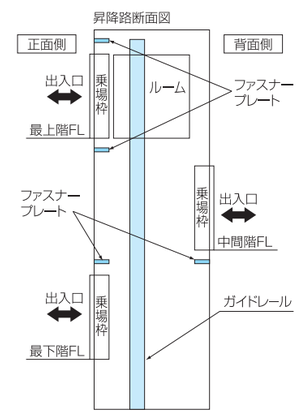
側面の梁の内面（耐火被覆を含む）から間口有効寸法を確保してください。



ワンポイント！

二方向出入口の場合のファスナープレート取付位置

ファスナープレートは、ガイドレール側の最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に設けてください。また背面側の乗場の床梁にファスナープレートを設けてください。（ガイドレールの設置位置は、最上階乗場側が基準となります。）



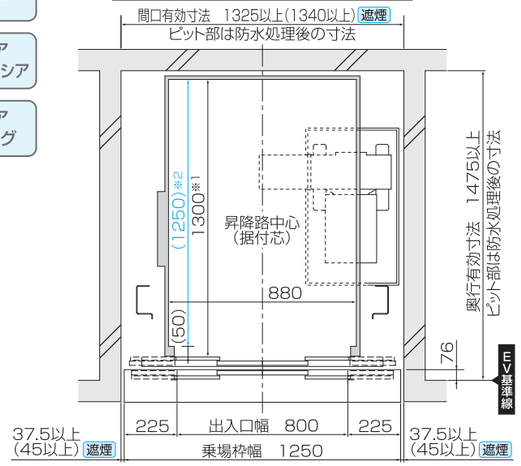
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73～78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- 下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- 電気・電話工事は53～58ページをご参照ください。
- EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11～14ページをご参照ください。
- 地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

ファミロング
モア スペーシア
モア ロング

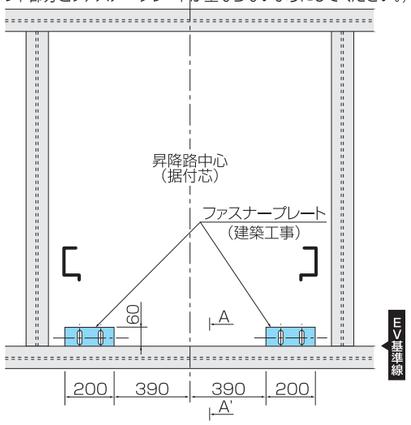
3人乗り・一方向出入口



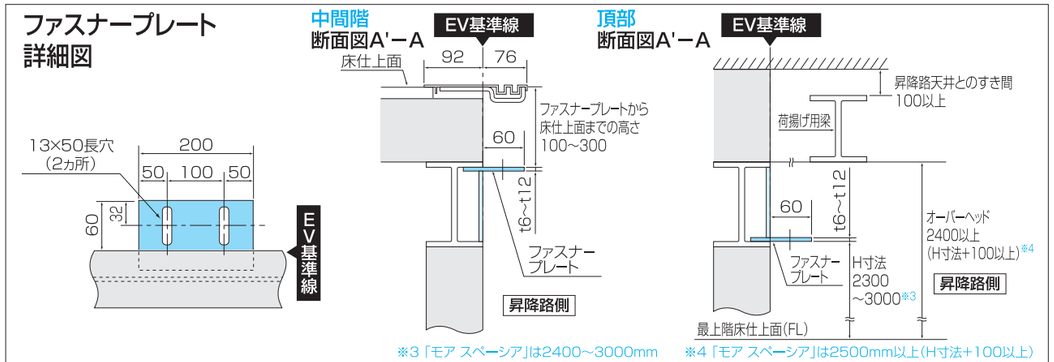
※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファスナープレートの取付位置

最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
（梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。）



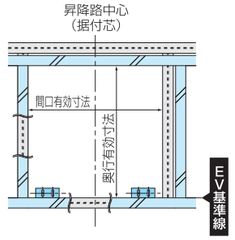
ファスナープレート詳細図



※3「モア スペーシア」は2400～3000mm　※4「モア スペーシア」は2500mm以上(H寸法+100以上)

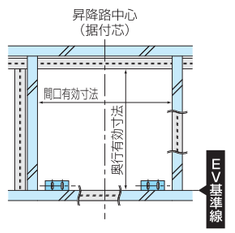
ワンポイント! 昇降路内の側面に梁がある場合

側面の梁の内面（耐火被覆を含む）から間口有効寸法を確保してください。



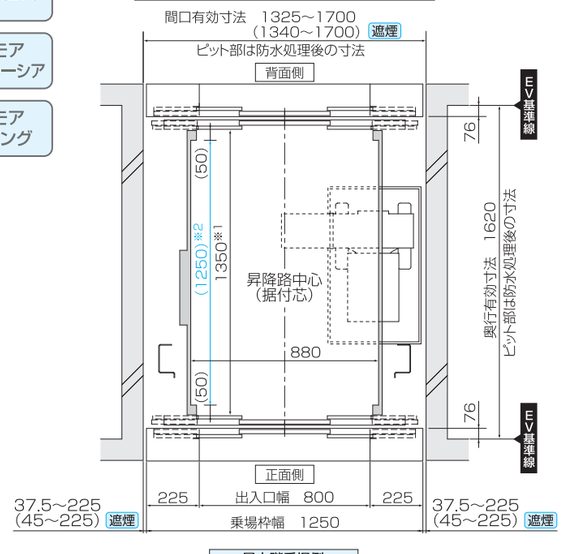
ワンポイント! 昇降路内の背面に梁がある場合

背面の梁の内面（耐火被覆を含む）から奥行有効寸法を確保してください。



ファミロング
モア スペーシア
モア ロング

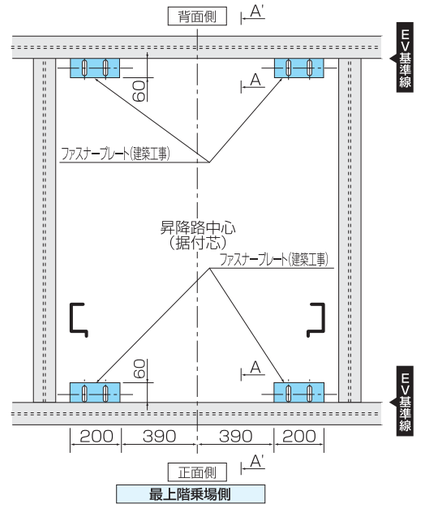
3人乗り・二方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

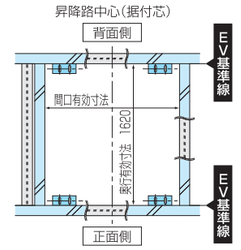
ファスナープレートの取付位置

最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
（梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。）



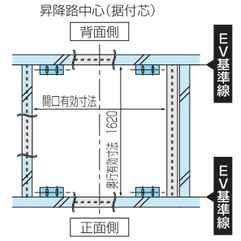
ワンポイント! 昇降路内に梁がない場合

側面の壁の内面から間口有効寸法を確保してください。



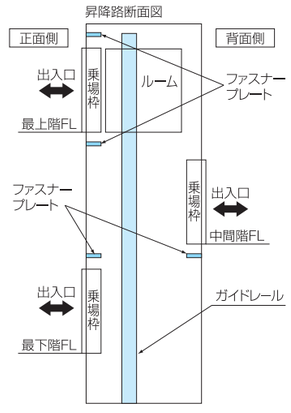
ワンポイント! 昇降路内に梁がある場合

側面の梁の内面（耐火被覆を含む）から間口有効寸法を確保してください。



ワンポイント! 二方向出入口の場合のファスナープレート取付位置

ファスナープレートは、ガイドレール側の最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に設けてください。また背面側の乗場の床梁にファスナープレートを設けてください。（ガイドレールの設置位置は、最上階乗場側が基準となります。）



鉄骨造 標準施工図 スイ〜とホーム コンパクト

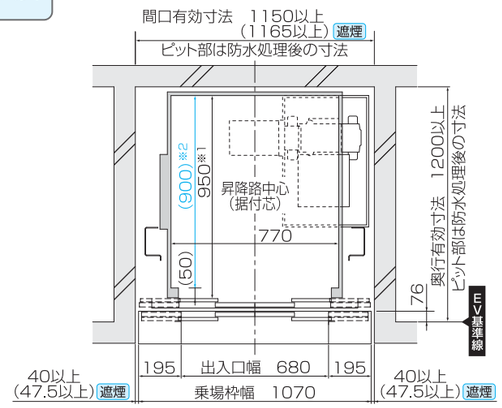
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73〜78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- 下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- 電気・電話工事は53〜58ページをご参照ください。
- EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11〜14ページをご参照ください。
- 地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

コンパクト

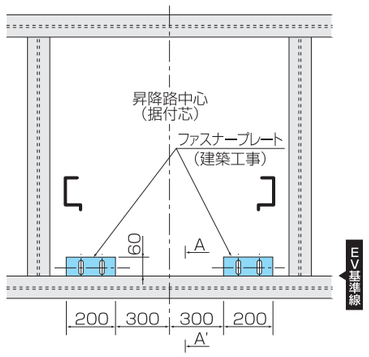
2人乗り・一方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた900mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファスナープレートの取付位置

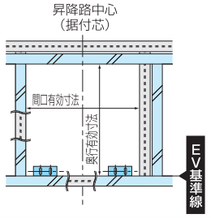
最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
（梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。）



ワンポイント！

昇降路内の側面に梁がある場合

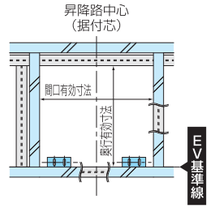
側面の梁の内面（耐火被覆を含む）から間口有効寸法を確保してください。



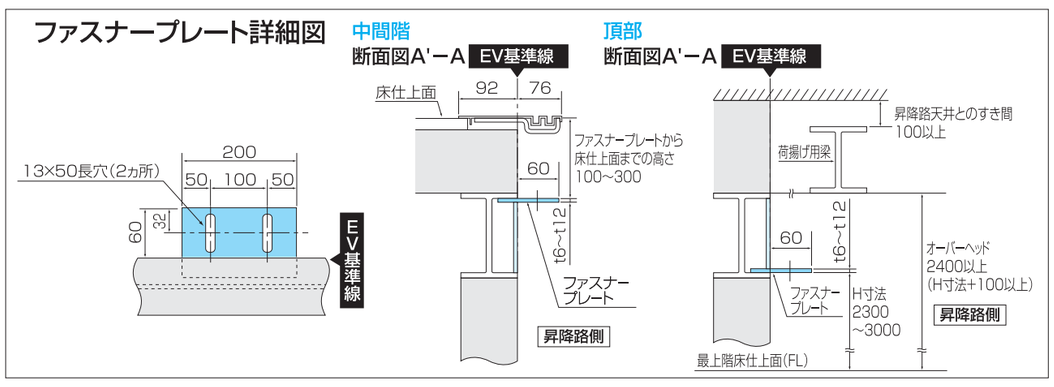
ワンポイント！

昇降路内の背面に梁がある場合

背面の梁の内面（耐火被覆を含む）から奥行有効寸法を確保してください。

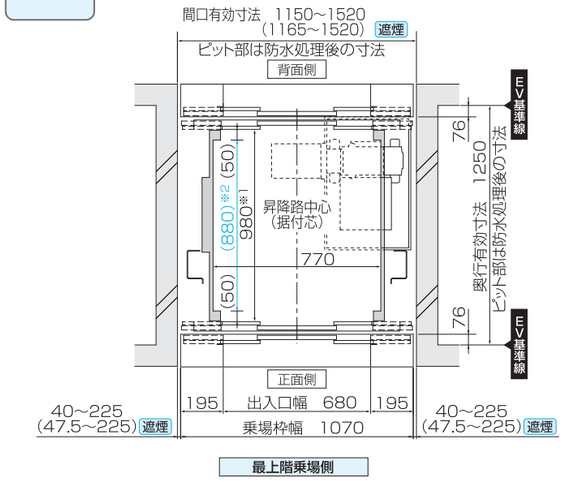


ファスナープレート詳細図



コンパクト

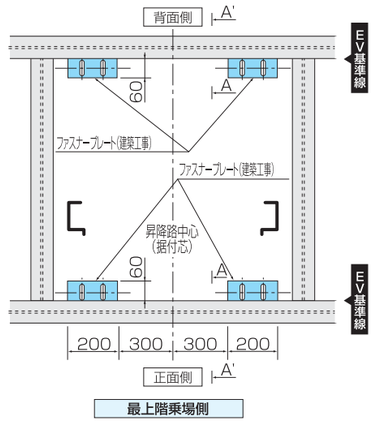
2人乗り・二方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた880mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファスナープレートの取付位置

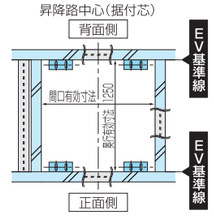
最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
（梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。）



ワンポイント！

昇降路内に梁がない場合

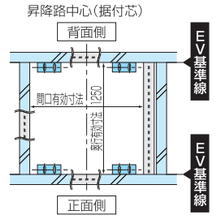
側面の壁の内面から間口有効寸法を確保してください。



ワンポイント！

昇降路内に梁がある場合

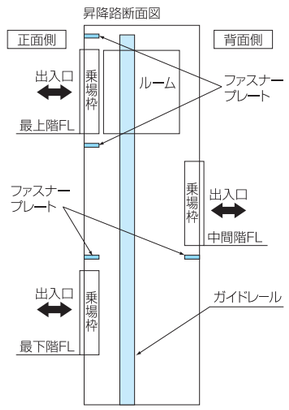
側面の梁の内面（耐火被覆を含む）から間口有効寸法を確保してください。



ワンポイント！

二方向出入口の場合のファスナープレート取付位置

ファスナープレートは、ガイドレール側の最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に設けてください。また背面側の乗場の床梁にファスナープレートを設けてください。（ガイドレールの設置位置は、最上階乗場側が基準となります。）

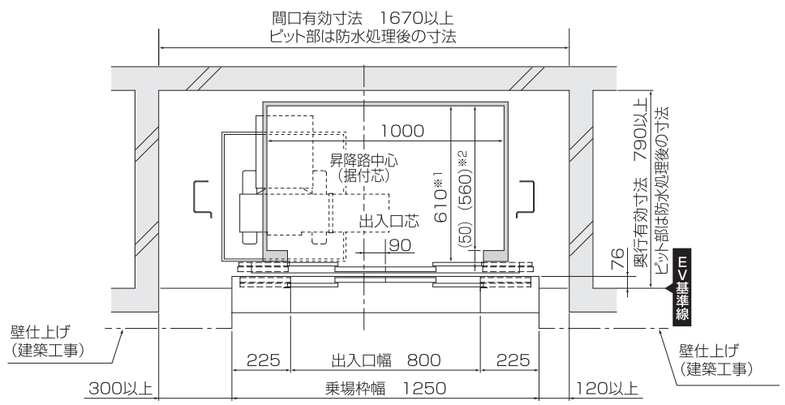


鉄骨造 標準施工図　スイ〜とホーム ジュニア

標準平面図

●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
●電気･電話工事は53〜58ページをご参照ください。
●EV基準線につきましては11ページをご参照ください。
●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

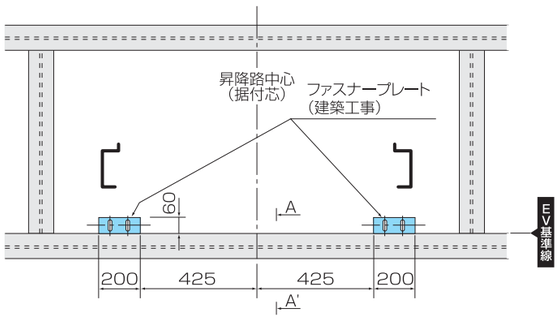
ジュニア



※1 確認申請及び建築基準法による、床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた560mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部(センサー感知部分)を除いた奥行有効寸法です。
※3 遮煙乗場ドア適用時の昇降路寸法は標準寸法と同じになります。

プレートの取付位置

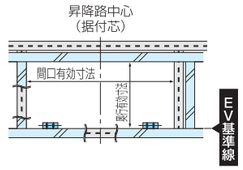
最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
(梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。)



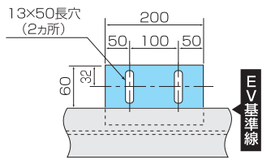
ワンポイント!

昇降路内の側面に梁がある場合

側面の梁の内面(耐火被覆を含む)から間口有効寸法を確保してください。

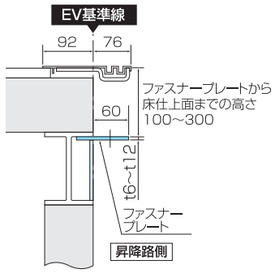


ファスナープレート詳細図



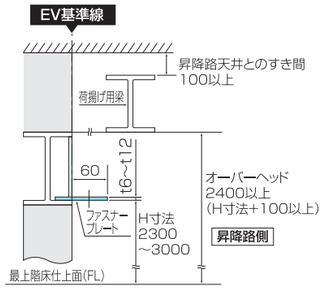
中間階

断面図A'−A



頂部

断面図A'−A

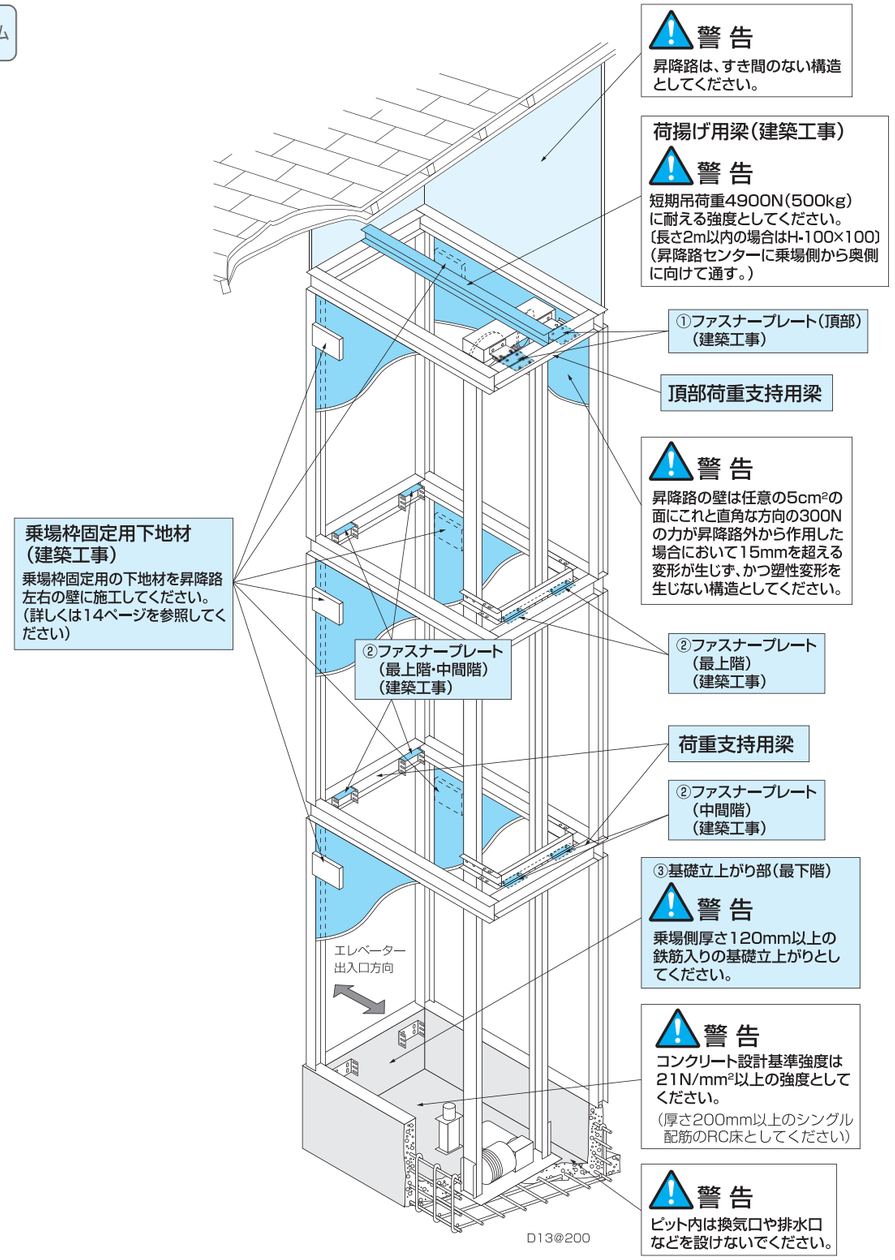


メ モ

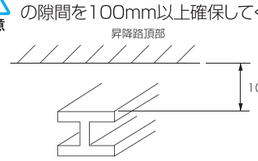
標準断面図

昇降路の構造

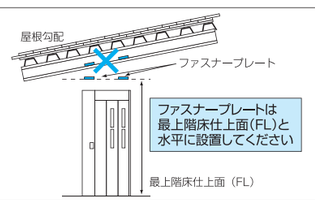
ファミスリム



注意　荷揚げ用梁の上端から昇降路頂部までの隙間を100mm以上確保してください。



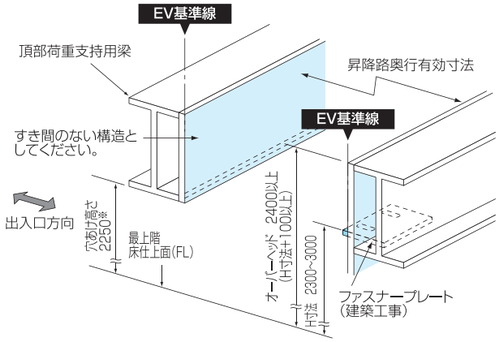
注意



注意　ブレースなどの障害物が昇降路内にある場合、エレベーターを設置できません。

ファスナープレート（頂部）

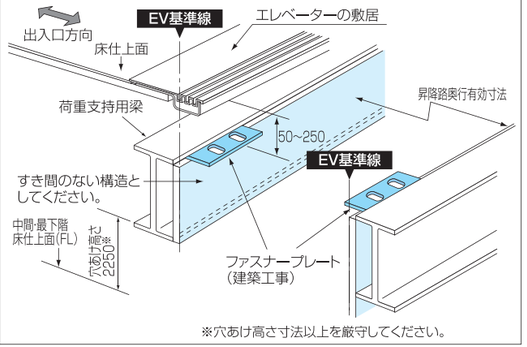
●頂部荷重支持用梁にファスナープレートを下図の位置に設けてください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

ファスナープレート（最上階・中間階）

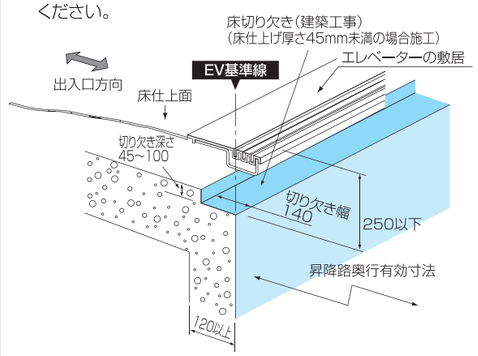
●最下階を除く各階の荷重支持用梁（床梁）にファスナープレートを設けてください。ファスナープレートは下図の位置に設けてください。（左図②）
●乗場機器設置のために、ファスナープレートから床仕上面まで50〜250mmの寸法を確保してください。



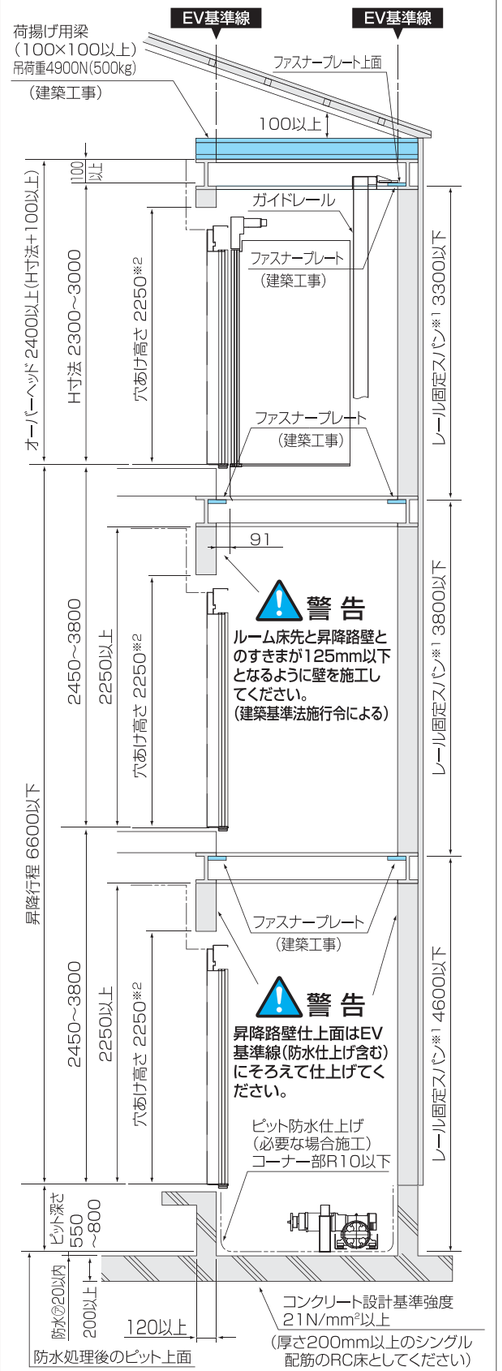
※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

基礎立上がり部（最下階）

●乗場固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりを設けてください。（左図③）また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
●床仕上げ厚さは250mm以下としてください。
但し、床仕上げ厚さが45mm未満の場合は乗場機器設置のために切り欠き（床仕上げ面より深さ45〜100mm）をしてください。



昇降路断面図



※1 レール固定スパンが下記に示す寸法以下となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
最上階：3300mm以下
中間階：3800mm以下
最下階：4600mm以下
※2 穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

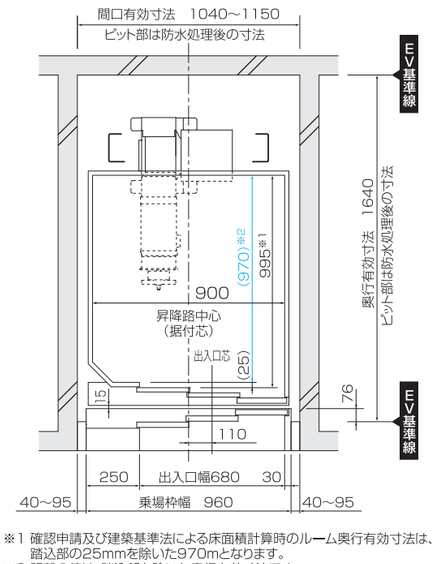
●EV基準線とは、出入口側及び背面側の昇降路内面を示します。
●階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
●参考：1kgf=9.8N

標準平面図

●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
●電気･電話工事は53〜58ページをご参照ください。
●EV基準線の留意点につきましては11ページをご参照ください。
●地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。

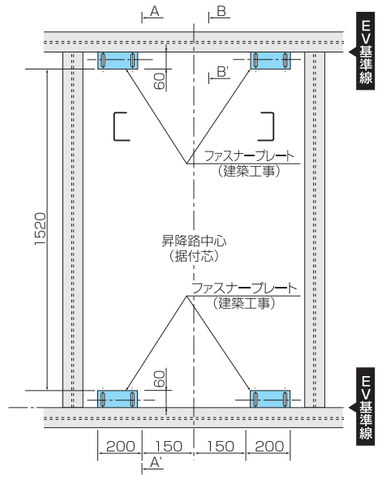
ファミスリム

3人乗り･一方向出入口



ファスナープレートの取付位置

最下階を除く各階の床梁と最上階頂部の梁に、ファスナープレートを設けてください。
(梁のジョイント部分とファスナープレートが重ならないようにしてください。)

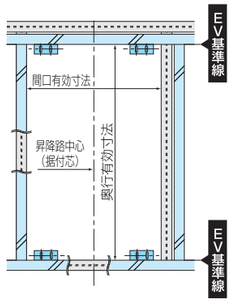


※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の25mmを除いた970mとなります。
※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法です。
※3 遮煙乗場ドア適用時の昇降路寸法は標準寸法と同じになります。

ワンポイント!

昇降路内の側面に梁がある場合

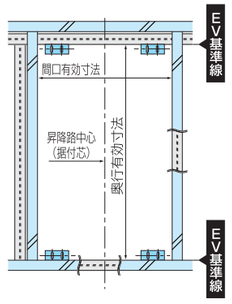
側面の梁の内面(耐火被覆を含む)から間口有効寸法を確保してください。



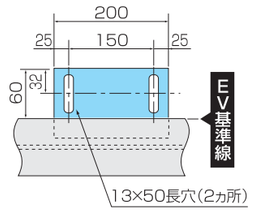
ワンポイント!

昇降路内の背面に梁がある場合

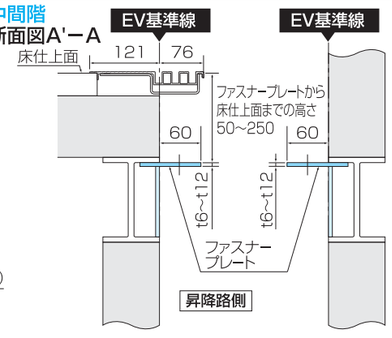
背面の梁の内面(耐火被覆を含む)から奥行有効寸法を確保してください。



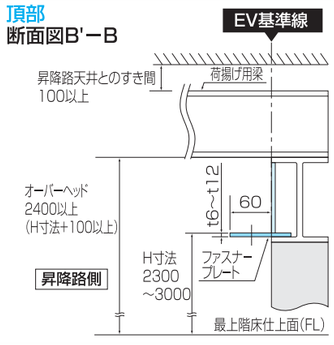
ファスナープレート詳細図



中間階 断面図A'−A



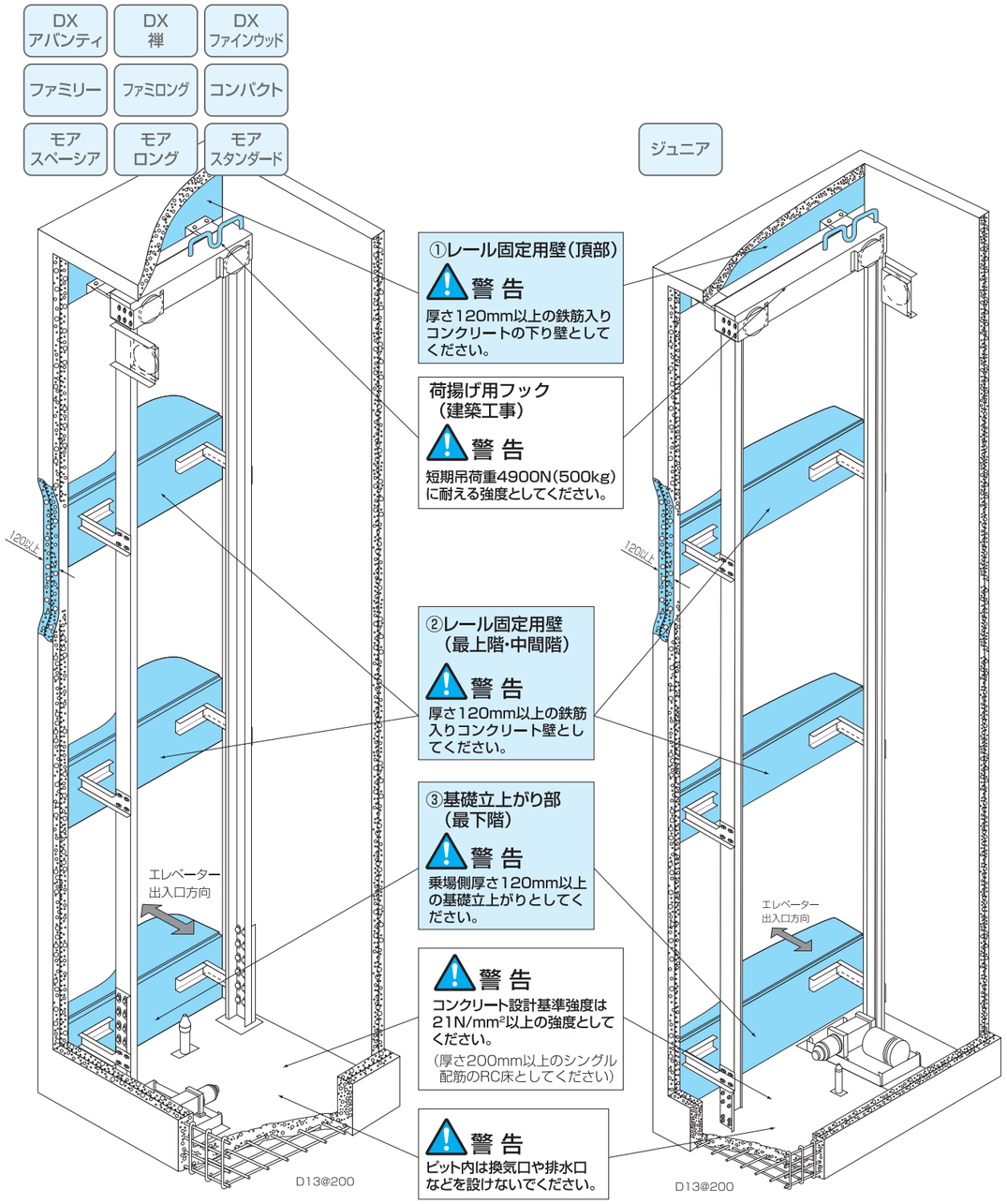
頂部 断面図B'−B



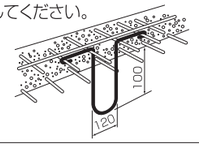
メ モ

標準断面図

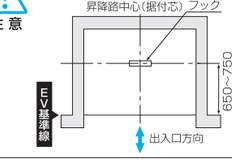
昇降路の構造



注意 荷揚げ用フックは、鉄筋φ13以上のものを使用し、下図のようにスラブに巻き込んで施工してください。



注意 **荷揚げ用フックの取付位置**



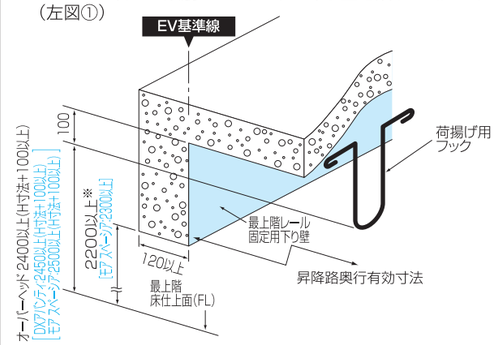
注意 階高が2400mm※1であっても、上部階の床厚が200mmを超える場合は、穴あけ高さ2200mm※2を確保できず、乗場ユニットを設置することができません。

※1遮煙乗場ドア採用の場合は2450mm。
［モア スペーシア:2500mm（2550mm）遮煙］

※2「モア スペーシア」は2300mm。

レール固定用壁（頂部）

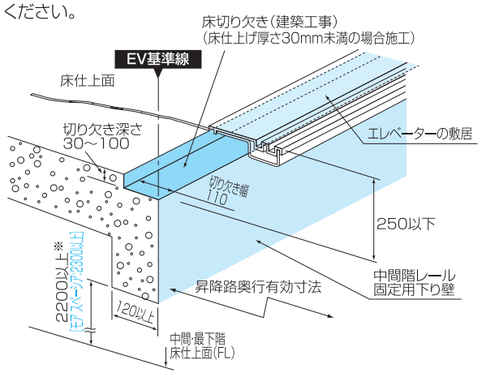
●レール固定用ブラケットを下り壁に設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋コンクリートの下り壁を設けてください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

レール固定用壁（最上階・中間階）

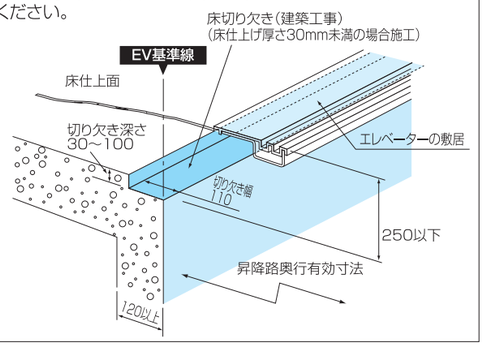
●レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋入りコンクリート壁を設けてください。（左図②）
●床仕上げ厚さは250mm以下としてください。
但し、床仕上げ厚さが30mm未満の場合は乗場機器設置のために切り欠き（床仕上げ面より深さ30～100mm）をしてください。



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

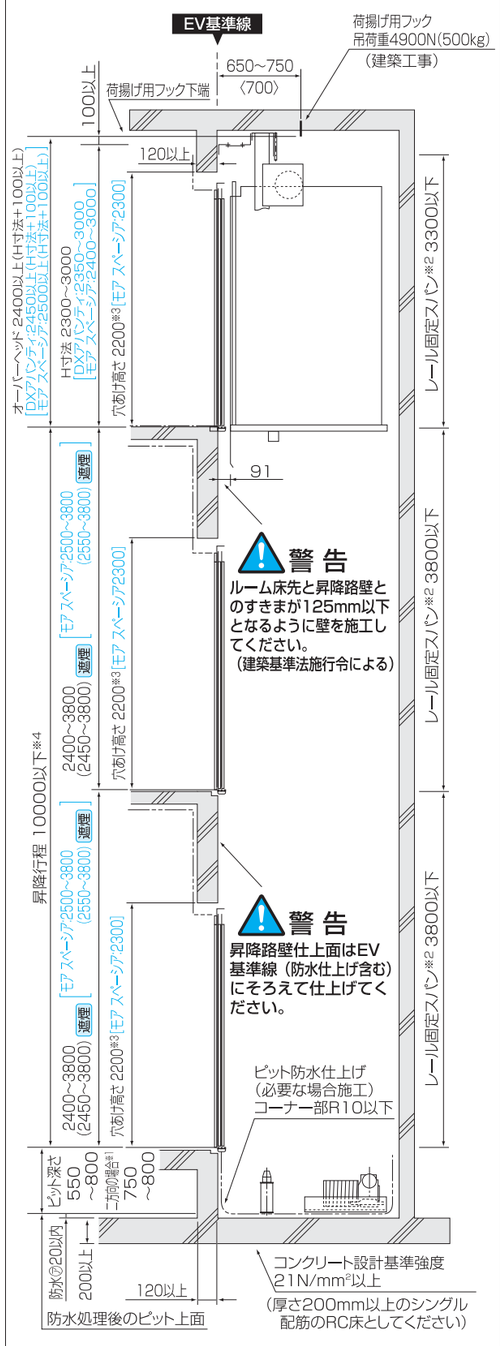
基礎立上がり部（最下階）

●レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の仕上がりを設けてください。（左図③）また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
●床仕上げ厚さは250mm以下としてください。
但し、床仕上げ厚さが30mm未満の場合は乗場機器設置のために切り欠き（床仕上げ面より深さ30～100mm）をしてください。



昇降路断面図

遮煙 の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。
〈 〉内の数値は「スイ～とホーム ジュニア」の寸法を示します。



※1「スイ～とホーム ジュニア」は二方向出入口を選択できません。
※2 レール固定スパンが3800mm以下（最上階は3300mm以下）となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
※3 穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。
※4 2停止の場合は昇降路行程9.3m以下としてください。（令第129条の10、平成20国告第1536号）詳しくは当社までお問い合わせください。

●EV基準線とは、出入口側の昇降路内面を示します。
●参考：1kgf=9.8N

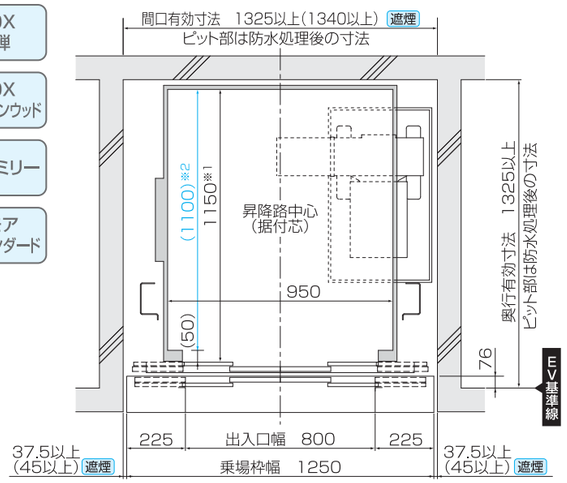
標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73〜78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

- 下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- 電気・電話工事は53〜58ページをご参照ください。
- EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11〜14ページをご参照ください。

DX アバンティ
DX 禅
DX ファインウッド
ファミリー
モア スタンダード

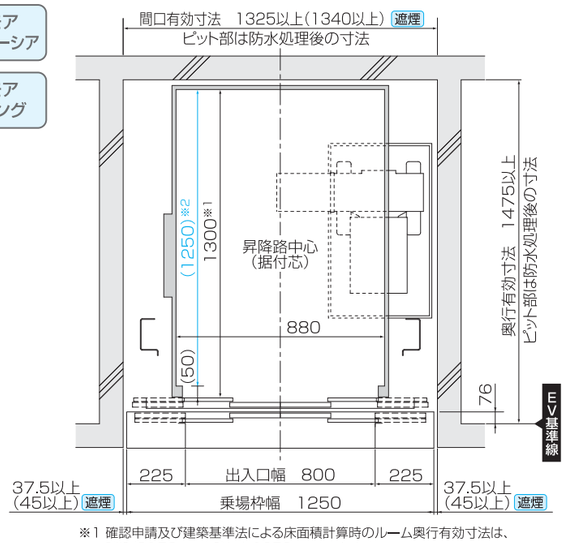
3人乗り・一方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた1100mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファミロング
モア スペーシア
モア ロング

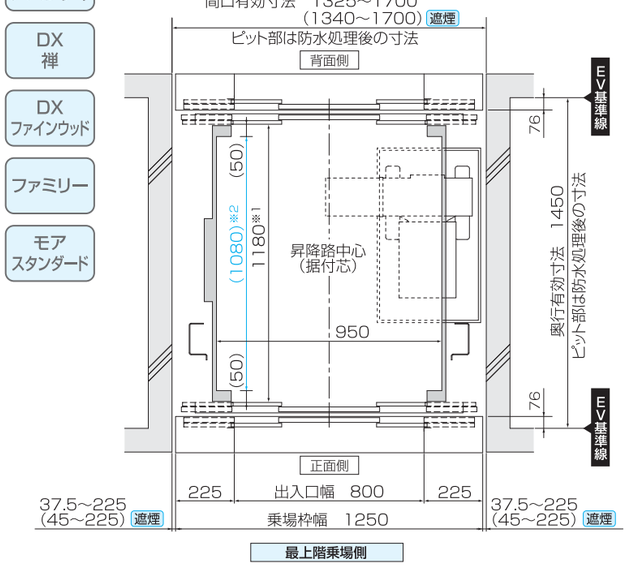
3人乗り・一方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

DX アバンティ
DX 禅
DX ファインウッド
ファミリー
モア スタンダード

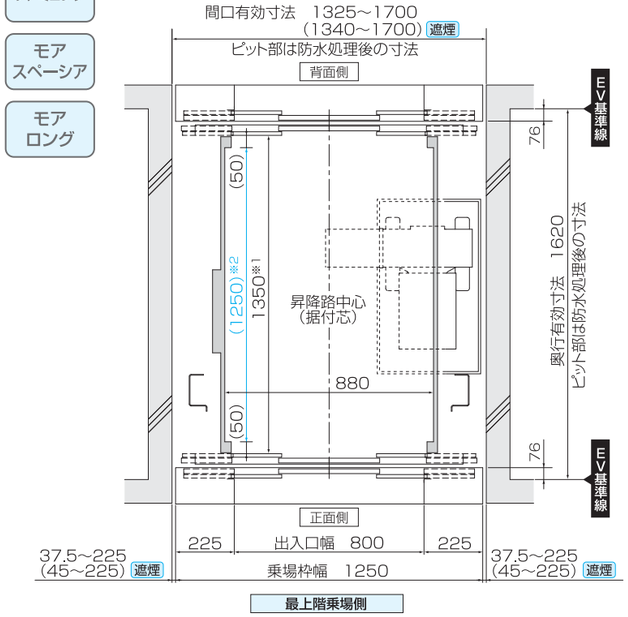
3人乗り・二方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1080mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ファミロング
モア スペーシア
モア ロング

3人乗り・二方向出入口



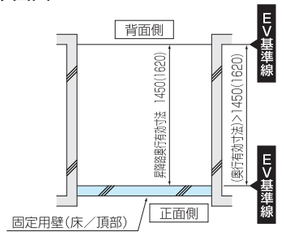
※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1250mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ワンポイント!

奥行有効寸法>1450(1620)mmとなる場合

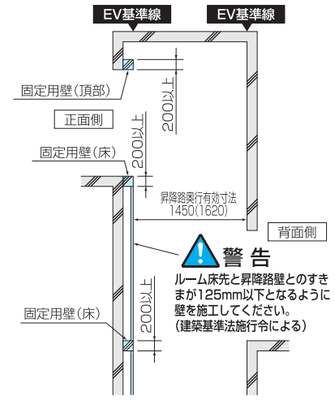
下図のように奥行有効寸法が1450(1620)mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1450(1620)mmとなるよう必ず固定用壁（床／頂部）を施工してください。

平面図



（　）内の数値は「スイ〜とホーム　ファミロング」、「スイ〜とモア スペーシア・ロング」の寸法を示します。

断面図



（　）内の数値は「スイ〜とホーム　ファミロング」、「スイ〜とモア スペーシア・ロング」の寸法を示します。

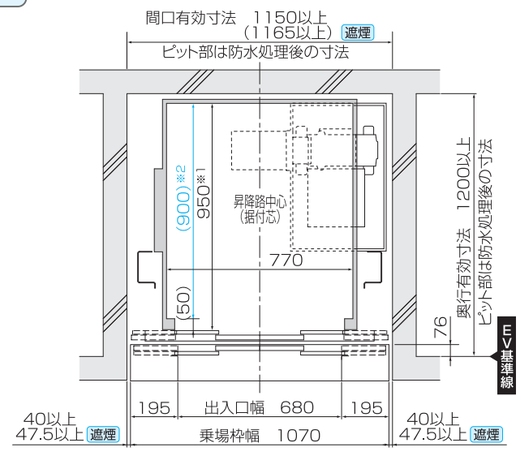
コンクリート造 標準施工図　スイ～とホーム コンパクト／ジュニア

標準平面図

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73～78ページをご参照ください。
（遮煙の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。）

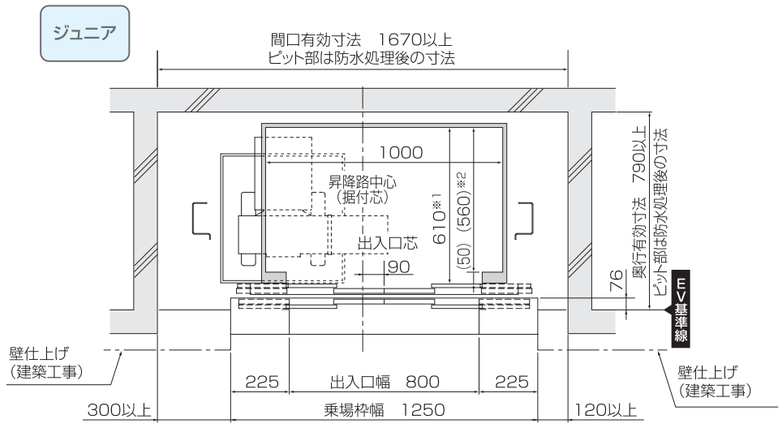
●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
●電気・電話工事は53～58ページをご参照ください。
●EV基準線、二方向出入口※の留意点につきましては11～14ページをご参照ください。
※「スイ～とホーム ジュニア」は対象外です。

コンパクト　2人乗り・一方向出入口



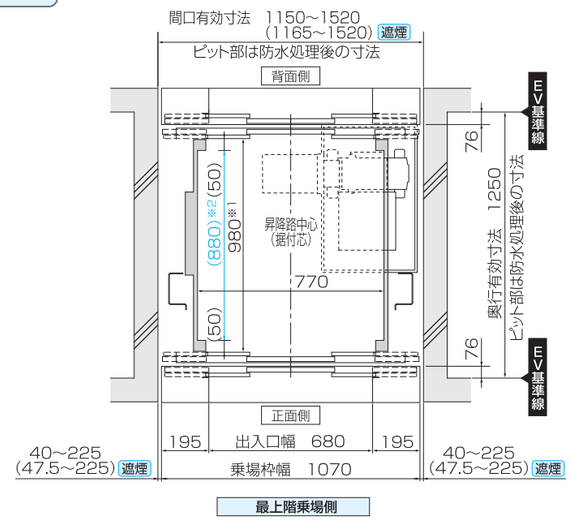
※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた900mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ジュニア



※1 確認申請及び建築基準法による、床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の50mmを除いた560mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。
※3 遮煙乗場ドア適用時の昇降路寸法は標準寸法と同じになります。

コンパクト　2人乗り・二方向出入口



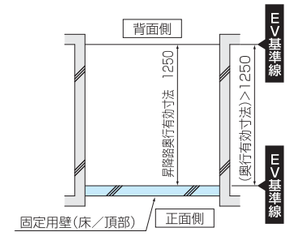
※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた880mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部（センサー感知部分）を除いた奥行有効寸法です。

ワンポイント!

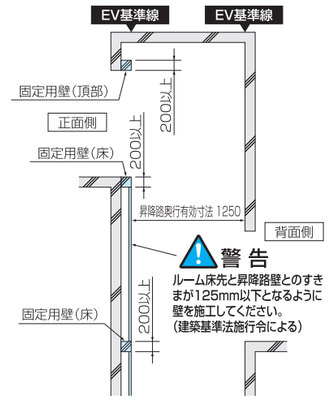
奥行有効寸法＞1250mmとなる場合

下図のように奥行有効寸法が1250mmより大きい場合には、奥行有効寸法が1250mmとなるよう必ず固定用壁（床／頂部）を施工してください。

平面図



断面図

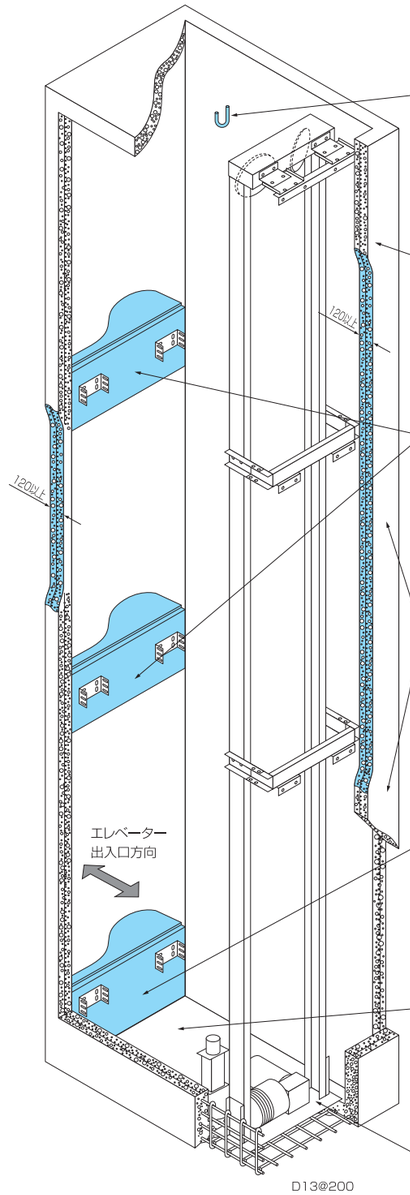


コンクリート造 標準施工図　スイ〜とホーム ファミスリム

標準断面図

昇降路の構造

ファミスリム



荷揚げ用フック（建築工事）
警 告
短期吊荷重4900N（500kg）に耐える強度としてください。

①レール固定用壁（頂部）
警 告
厚さ120mm以上の鉄筋入りコンクリートの下り壁としてください。

②乗場枠固定用壁（最上階・中間階）
警 告
厚さ120mm以上の鉄筋入りコンクリート壁としてください。

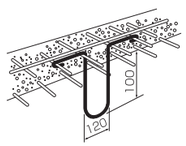
③レール固定用壁（最上階・中間階）
警 告
厚さ120mm以上の鉄筋入りコンクリート壁としてください。

④基礎立上がり部（最下階）
警 告
乗場側厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりとしてください。

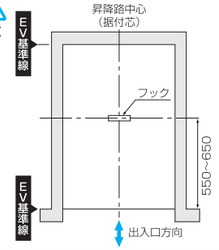
警 告
コンクリート設計基準強度は21N/mm²以上の強度としてください。
（厚さ200mm以上のシングル配筋のRC床としてください）

警 告
ピット内は換気口や排水口などを設けないでください。

注意 荷揚げ用フックは、鉄筋φ13以上のものを使用し、下図のようにスラブに巻き込んで施工してください。



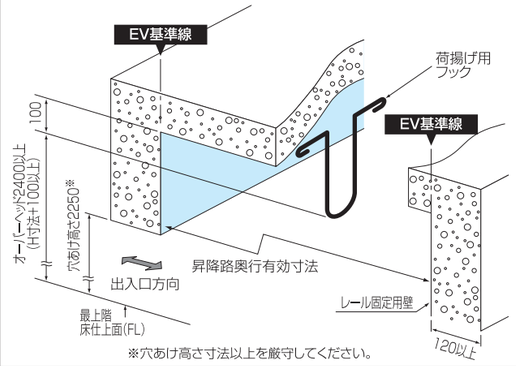
注意 **荷揚げ用フックの取付位置**



注意 階高が2450mmであっても、上部階の床厚が200mmを超える場合は、穴あけ高さ2250mmを確保できず、乗場ユニットを設置することができません。

レール固定用壁（頂部）

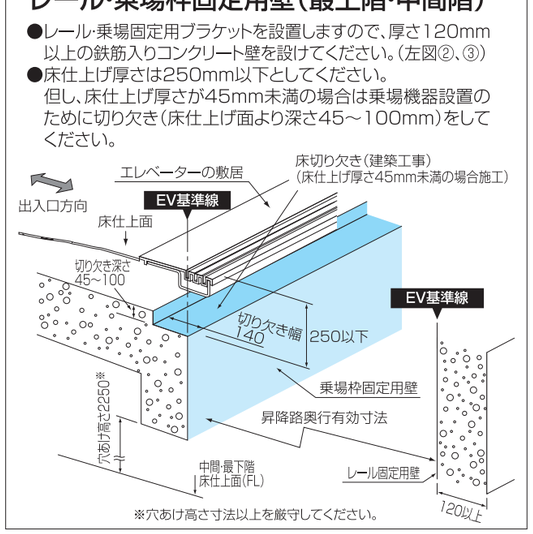
●レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋入りのコンクリートの壁を設けてください。（左図①）



※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

レール・乗場枠固定用壁（最上階・中間階）

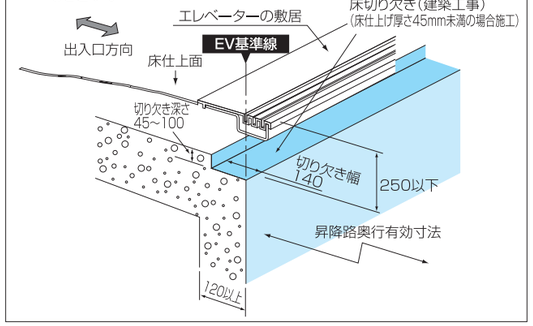
●レール・乗場固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋入りコンクリート壁を設けてください。（左図②、③）
●床仕上げ厚さは250mm以下としてください。
但し、床仕上げ厚さが45mm未満の場合は乗場機器設置のために切り欠き（床仕上げ面より深さ45〜100mm）をしてください。



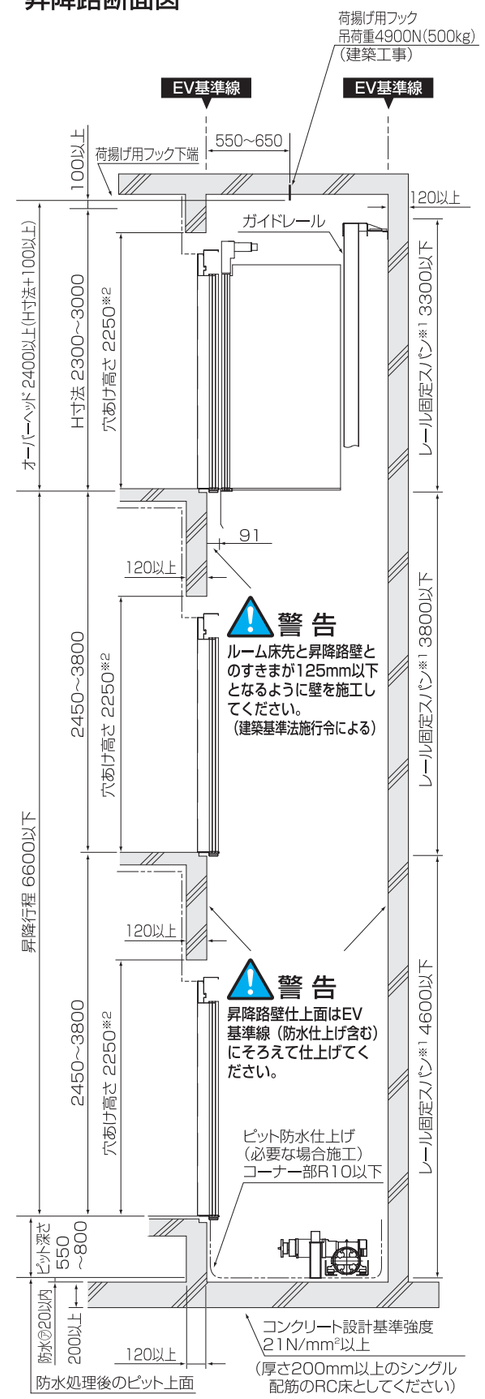
※穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

基礎立上がり部（最下階）

●乗場固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりを設けてください。（左図④）また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
●床仕上げ厚さは250mm以下としてください。
但し、床仕上げ厚さが45mm未満の場合は乗場機器設置のために切り欠き（床仕上げ面より深さ45〜100mm）をしてください。



昇降路断面図



※1 レール固定スパンが下記に示す寸法以下となるように建築負荷荷重を受けるための構造物を設けてください。
最上階：3300mm以下
中間階：3800mm以下
最下階：4600mm以下
※2 穴あけ高さ寸法以上を厳守してください。

●EV基準線とは、出入口側及び背面側の昇降路内面を示します。
●参考：1kgf=9.8N

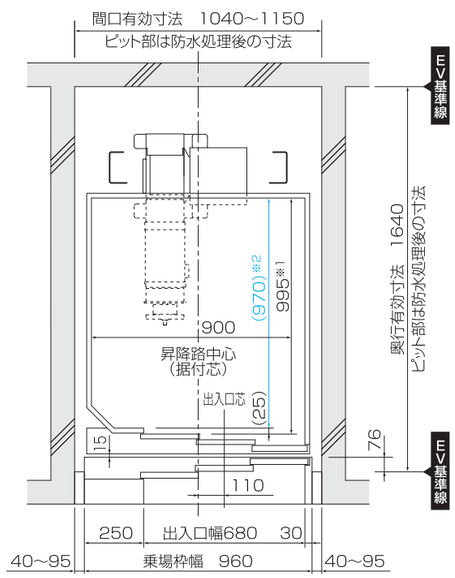
コンクリート造 標準施工図　スイ〜とホーム ファミスリム

標準平面図

●下図の昇降路有効寸法を確保してください。
●電気･電話工事は53〜58ページをご参照ください。
●EV基準線の留意点につきましては11ページをご参照ください。

ファミスリム

3人乗り･一方向出入口



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の25mmを除いた970mmとなります。
※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法です。
※3 遮煙乗場ドア適用時の昇降路寸法は標準寸法と同じになります。

メ モ

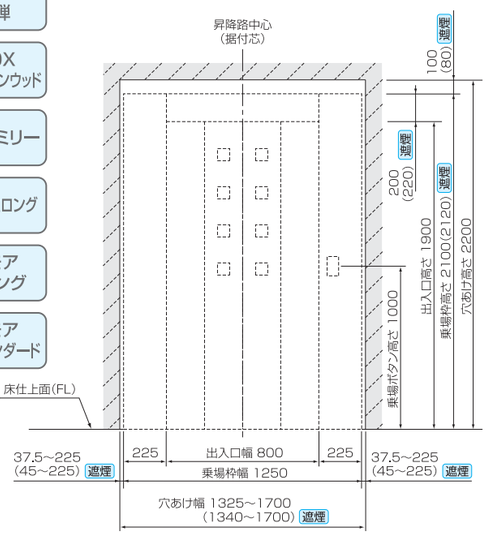
出入口開口図

●各階の出入口には、下図のような開口を設けてください。

遮煙 の値は、遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。
乗場仕上げ要領につきましては71、72、77、78ページをご参照ください。

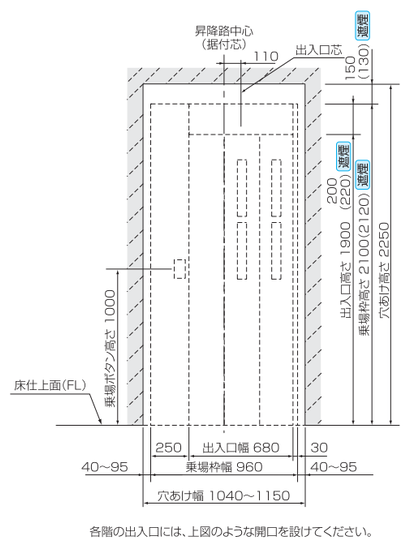
注意 出入口間口有効寸法(穴あけ寸法)を確保できない場合、エレベーターを設置できません

DX アバンティ
DX 禅
DX ファインウッド
ファミリー
ファミロング
モア ロング
モア スタンダード



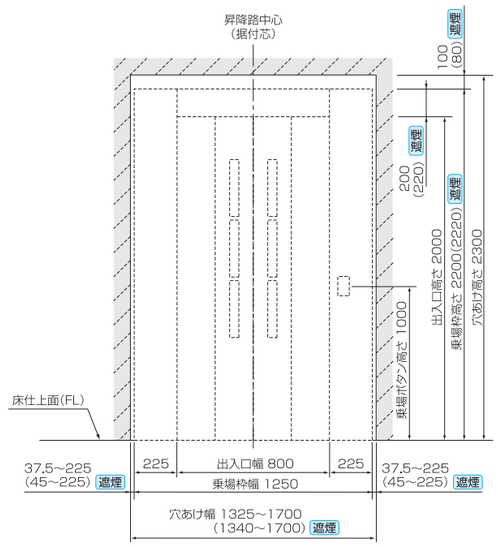
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

ファミスリム



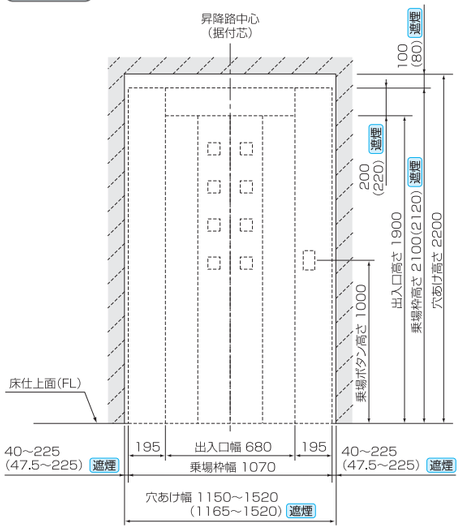
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

モア スペーシア



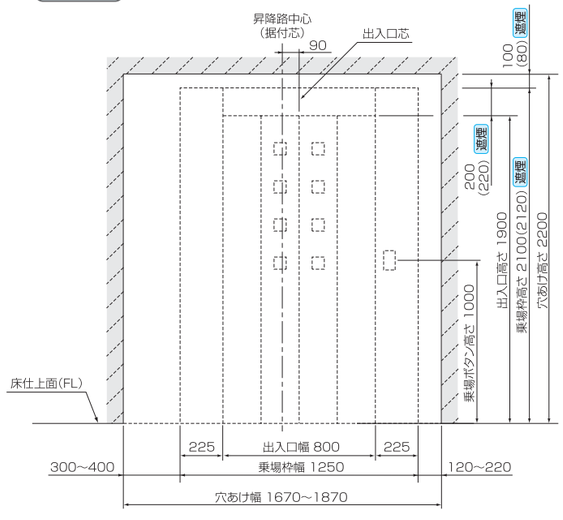
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

コンパクト



各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

ジュニア



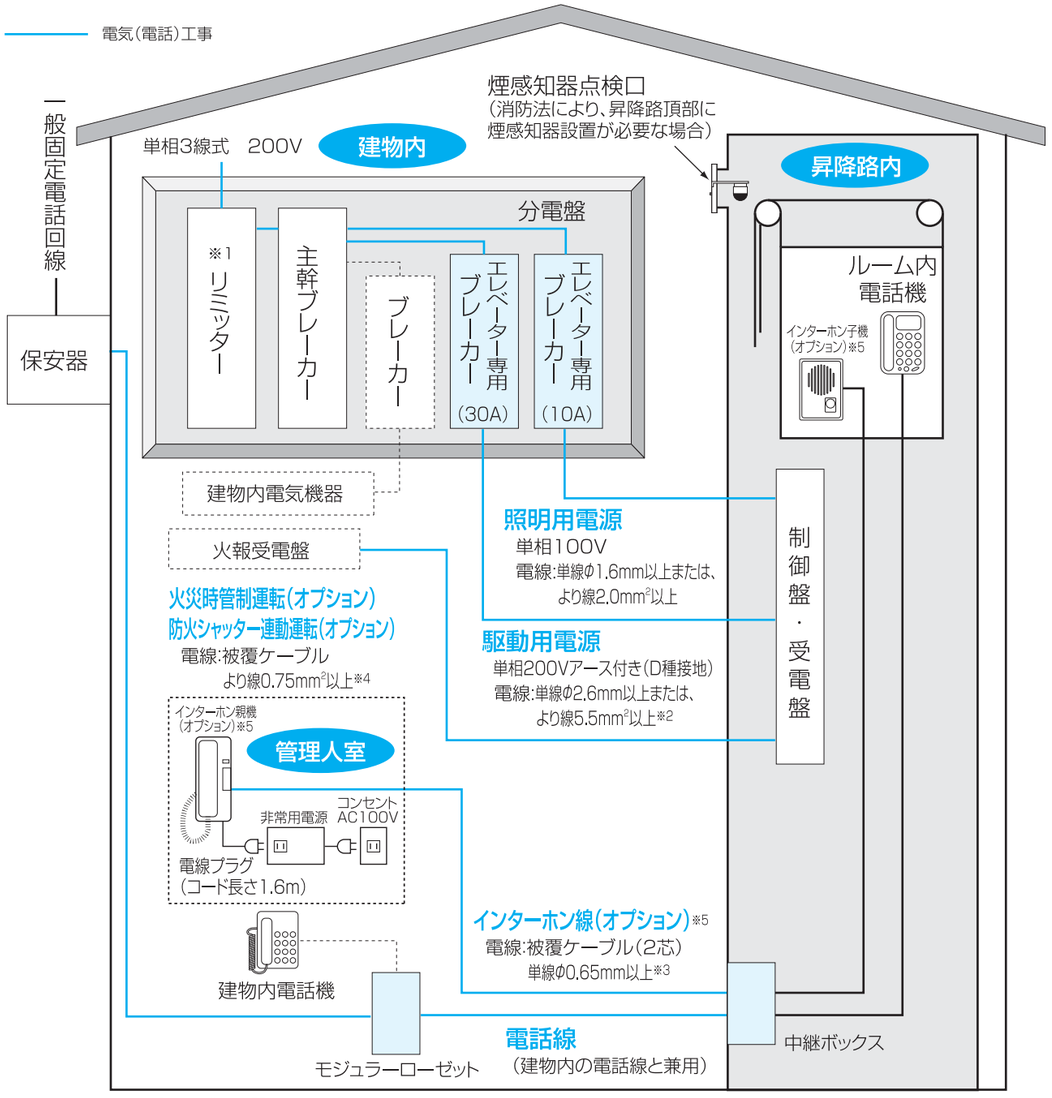
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

電気・電話工事

電源の確保と配線

電気･電話工事配線図

警告 エレベーター用の電源は必ず下図に従ってください。守られない場合、エレベーターが損傷、誤作動する恐れがあります。



※1 電力会社規定により分電盤外となることがあります。
※2 分電盤までの電線総長さが20mを超えないようにしてください。
　20mを超える場合は、(社)日本電気協会の内線規定に従い電線サイズを変更してください。
※3 管理人室までの電線総長さが120mを超えないようにしてください。
※4 配線の芯数については、54ページをご参照ください。
※5 インターホンは「スイ～とモア スペーシア、ロング、スタンダード」のみのオプションです。

エレベーター専用ブレーカーの設置について

●主幹ブレーカーはインバーター適合品の漏電ブレーカーとしてください。
(三菱電機NVシリーズ、日立Eシリーズ)
※2015年4月現在

●エレベーター専用のブレーカーを用意してください。定格は下表としてください。
(三菱電機NFシリーズ、日立Fシリーズ)
※2015年4月現在

ブレーカー容量

駆動用	照明用
30A	10A

注意 主幹ブレーカーの容量は、充分に余裕をもって選定してください。容量に余裕がないと、主幹ブレーカートリップが発生し、エレベーターが急停止する恐れがあります。またアース(D種接地)は必ず用意し、全てエレベーター専用としてください。

電源設備容量

機　種	定員	出入口方向	電源設備容量
スイ～とホーム DXアバンティ/DX禅/DXファインウッド/ファミリー	3名	一方向	5.1kVA
		二方向	5.8kVA
スイ～とホーム ファミスリム	3名	一方向	5.1kVA
スイ～とホーム コンパクト	2名	一方向	4.5kVA
		二方向	5.1kVA
スイ～とホーム ジュニア	2名	一方向	4.5kVA
スイ～とモア スタンダード	3名	一方向	5.1kVA
		二方向	5.8kVA
スイ～とホーム ファミロング スイ～とモア スペーシア/ロング	3名	一方向	5.3kVA
		二方向	6.0kVA

電源･電話線引き込み位置について

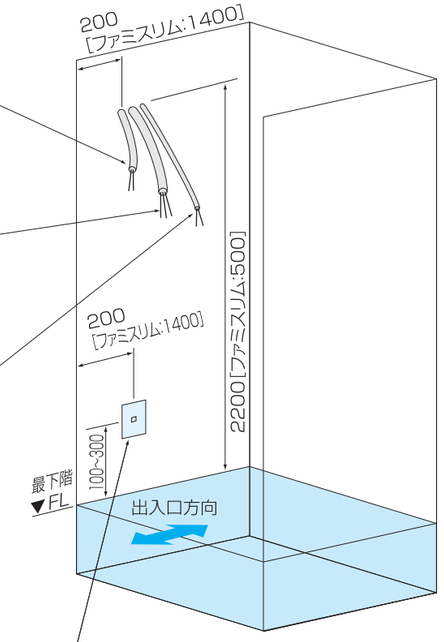
●最下階昇降路内の壁に、電源と電話線を支給してください。

照明用電源
単相100V
線引出し長さ:2m[ファミスリム:6m]
電線:単線φ1.6mm以上または、より線2.0mm²以上

駆動用電源
単相200Vアース付き(D種接地)
線引出し長さ:2m(アース線含め3本)[ファミスリム:6m]
電線:単線φ2.6mm以上または、より線5.5mm²以上

火災時管制運転(オプション)線
防火シャッター連動運転(オプション)線
オプションご採用の場合は、自動火災報知設備※1の受信機または火災報知器からの移報接点(無電圧A接点※2)を昇降路内に供給してください。
線引出し長さ:2m[ファミスリム:6m]
電線:被覆ケーブルより線0.75mm²以上
エレベーター側からの印加電圧:DC24V(50mA程度)
①火災時管制運転の場合は、各接点を並列に接続した線(2芯)が必要です。(56ページをご参照ください)
②防火シャッター連動運転の場合は、第一避難階(1箇所)用の線(2芯)とそれ以外の各階の接点を並列に接続した線(2芯)の計4芯が必要です。(56ページをご参照ください)

※1 自動火災報知設備とは、火災報知器、受信機、中継機から構成されるシステムタイプの警報装置です。
※2 無電圧A接点とは常時開放している接点で、短絡する(信号を受ける)と通報動作に入る接点です。
※3 引込まれた線の先の階が分かるようにしてください。
※4 自動火災報知設備または火災報知器の設置場所については、消防法および条例に従い適切な場所に設置してください。詳しくは、所管の消防署、行政庁にお問い合わせください。(56ページをご参照ください)



電話線及びインターホン(オプション)※5線
昇降路の最下階側面壁に中継ボックスを設置してください。中継ボックス部接続詳細は55ページをご参照ください。

電話線用配管
昇降路まではφ25mm以上の配管を施工し、電話線(局線)を配線してください。

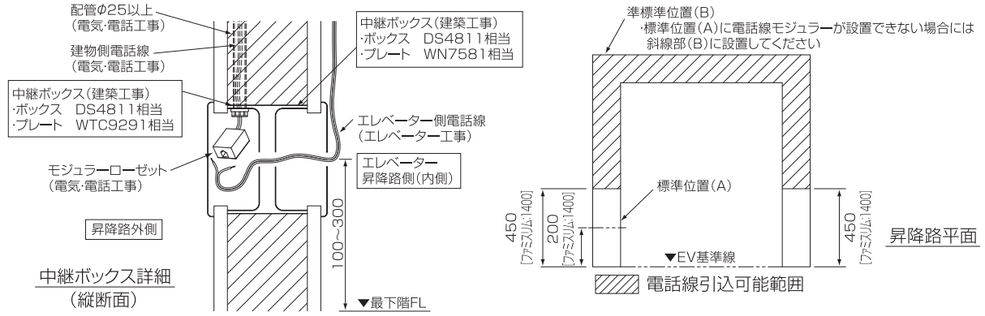
インターホン※6(オプション)線
線引出し長さ:1m
電線:被覆ケーブル(2芯)単線φ0.65mm以上

※5 インターホンは「スイ～とモア スペーシア、ロング、スタンダード」のみのオプションです。
※6 インターホン設置の場合、電話機と併設となります。また、停電時でも使用できるように、非常用電源を用意してください。(電気･電話工事)

電気・電話工事

中継ボックス部の設置と配線について

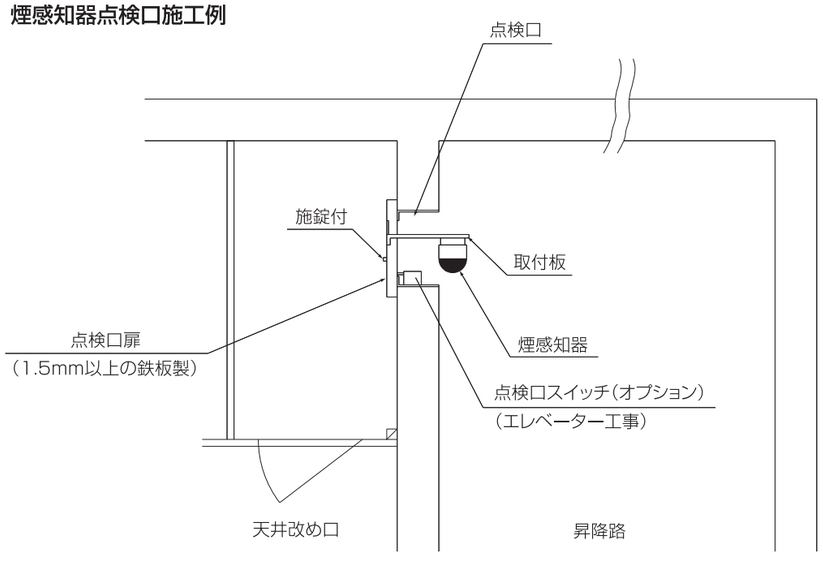
昇降路の最下階側壁に中継ボックスを設置してください（電気･電話工事）。エレベーター工事にて昇降路外側の中継ボックスまで電話線を配線します。電話工事では引込んだモジュラーローゼットに接続してください。エレベーター工事より先に電話工事を施工する時には、この部分の接続をエレベーター工事にて行います。
インターホン（オプション）をご採用の場合も同様に中継ボックスまで配線してください。



煙感知器点検口の設置について

消防法により、火災報知設備の中の一つである煙感知器を、昇降路頂部に設置する場合、エレベーターの運行に支障を与えることがなく、保守点検が容易に行うことができる点検口を設けてください。
また、点検口には安全スイッチ及び、鍵（ネジも可、但し蝶ネジは不可）を取り付けるなどの措置を行い、点検口扉が開いた時は、エレベーターの動力を切り、動かないようにしなければなりません（平成20年国土交通省告示1454号）。詳しくは当社までお問合わせください。

煙感知器点検口施工例

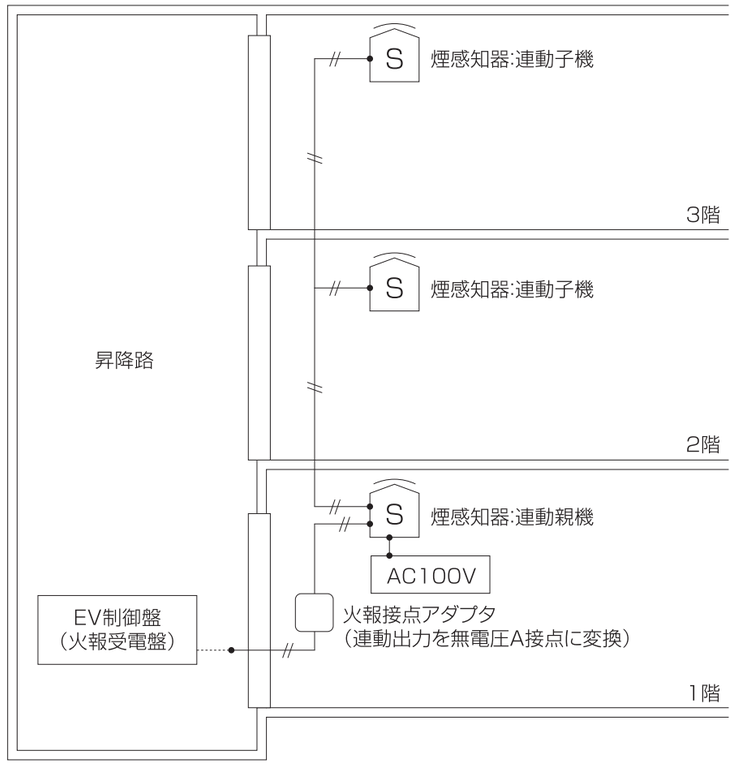


火災報知器のご選定について

感知器と警報部が一体となった単独タイプの火災報知器をご選定される場合には、エレベーターの火災時管制運転用の移報接点（無電圧A接点）が供給できる移報接点付タイプを必ず選定してください。

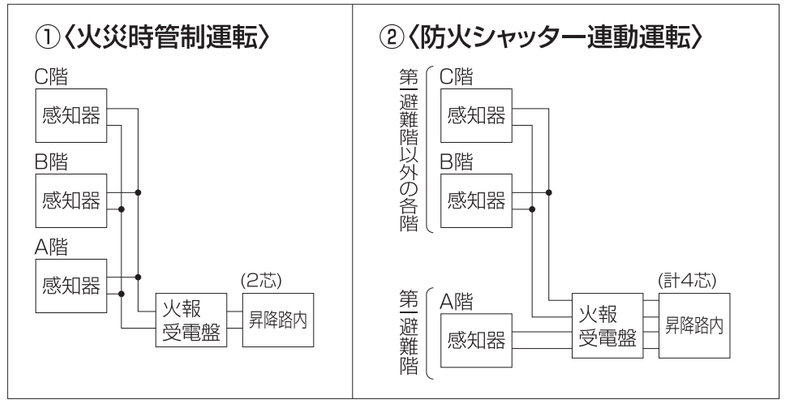
火災報知器の移報接点の供給について

火災時管制運転（オプション）、防火シャッター連動運転（オプション）をご採用の場合は、自動火災報知設備の受信機または火災報知器（無電圧A接点）を昇降路内に供給してください。
※詳細につきましては、54ページをご参照ください。



上図はAC100V式連動型の火災報知器接点の供給方法の一例を示します。機器の取付や配線方法などは、ご採用の火災報知器メーカーにお問い合わせください。
※昇降路頂部への火災報知器の設置は消防法や条例の基準に沿って必要な場合に設置してください。（55ページをご参照ください）

〈配線例〉



電話回線接続

電話線との接続

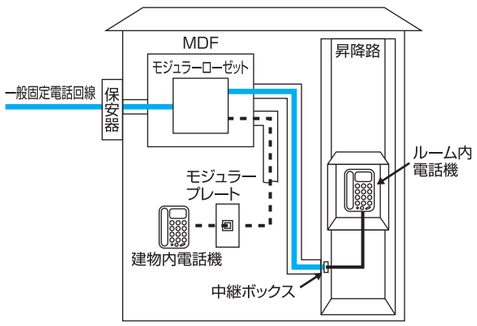
警告 エレベーターのルーム内電話機用の電話回線は、必ず通線の上、通話できることを確認してください。

●エレベーターのルーム内には、外部連絡用の電話機が標準装備されています。この電話機は、万一ルーム内に閉じ込められた場合など、緊急時の連絡手段となりますので、ご使用になる前に建物側の電話回線と接続し、通話できることを必ず確認してください。
なお、一般固定電話回線（NTTなどの固定電話回線）以外の回線をご契約の場合、ルーム内の電話機をご使用いただくために、各々下図に記載された機器の設置および回線接続をお願いしておりますので、お客様にて必要な機器をご用意ください。

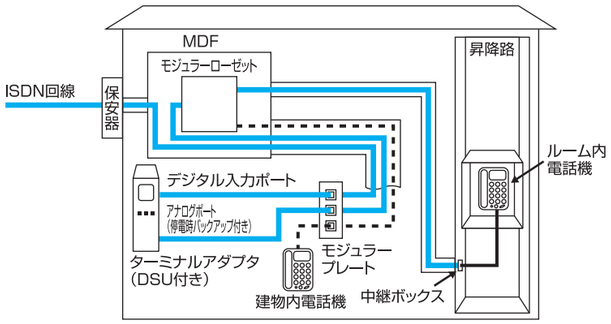
電話回線接続図

電気（電話）工事　エレベーター工事

一般固定電話回線の場合

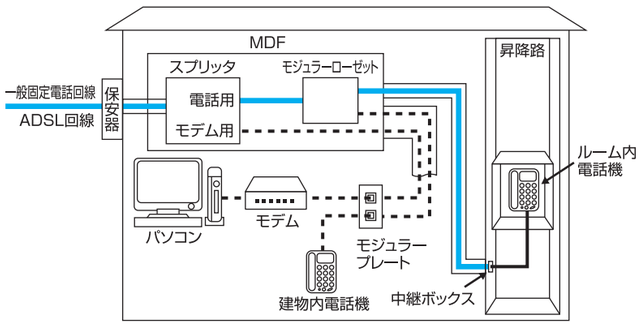


ISDN回線の場合



○TA（ターミナルアダプタ）を設置してください。
・DSU（デジタルサービスユニット）付き
・供給電圧48Vで極性反転のあるアナログポート付き
・停電時バックアップ付き
※停電時バックアップ用のバッテリーは定期的に交換してください
○エレベーター用回線の接続先は、停電時にバックアップされるアナログポートにしてください。

ADSL回線の場合



○スプリッタを設置してください。
○エレベーター用回線の接続先は、電話用ポートにしてください。

建物内でIP電話をご使用になる場合

警告 エレベーターのルーム内電話機用の電話回線は、必ず一般固定電話回線としてください。

●エレベーターの電話機は、緊急時の使用を想定し、停電時でも使用可能な一般固定電話回線（NTTなどの固定電話回線）専用としております。お客様にてブロードバンド回線（ADSL、光、CATVなど）のみをご契約され、IP電話をご使用される場合には、右記の理由により緊急時に電話機が使用できない場合があります。
エレベーターを安全にご使用いただくために、必ず一般固定電話回線をご契約し、エレベーター内電話機へ接続してください。

※ルーム内の電話機へのIP電話使用はお控えください。

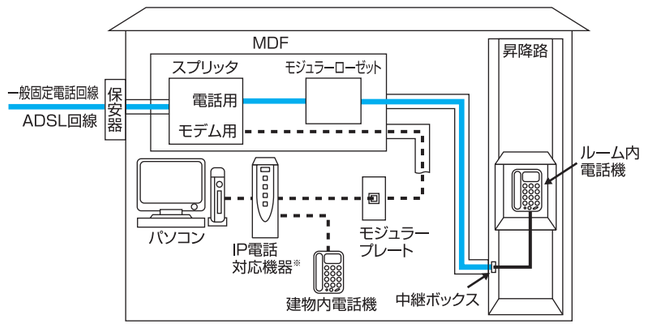
IP電話ご使用時の注意点

○停電時には使用不能となります。
※当該事業者の設備によっては、UPS（無停電電源装置）の設置など、お客様側で停電時の対策を実施していただくことで使用可能となります。詳しくはご契約の通信事業者へお問合せください。
※一般固定電話回線と併用する場合は、停電時に一般固定電話回線を通じての使用が可能となる場合があります。（ADSL回線）

○「110」、「119」等の緊急通話が使用できません。
※当該事業者のサービス内容によって一部異なります。

○使用状況によっては、通話品質が不安定な場合があります。

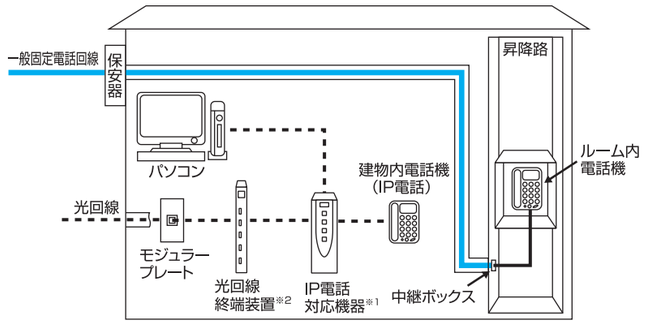
ADSL回線（IP電話）の場合〔一般固定電話回線が必要です〕



○IP電話対応機器を経由せずに、指定の位置（53～55ページ参照）まで電話線を支給してください。
○スプリッタを設置してください。

※左図の「IP電話対応機器」は、ご契約の通信事業者により機器の種類および接続方法が異なります。詳しくはご契約の通信事業者へお問合せください。

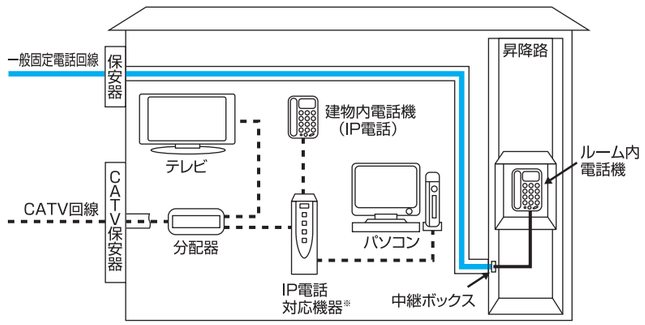
光回線（IP電話）の場合〔一般固定電話回線が必要です〕



○IP電話対応機器を経由せずに、指定の位置（53～55ページ参照）まで電話線を支給してください。

※1・2　左図の「IP電話対応機器」および「光回線終端装置は、ご契約の通信事業者により機器の種類および接続方法が異なります。詳しくはご契約の通信事業者へお問合せください。

CATV回線（IP電話）の場合〔一般固定電話回線が必要です〕



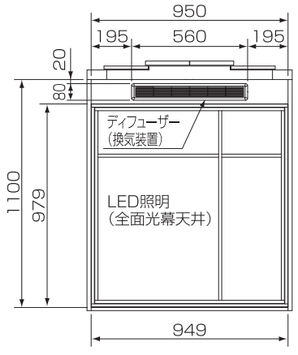
○IP電話対応機器を経由せずに、指定の位置（53～55ページ参照）まで電話線を支給してください。

※左図の「IP電話対応機器」は、ご契約の通信事業者により機器の種類および接続方法が異なります。詳しくはご契約の通信事業者へお問合せください。

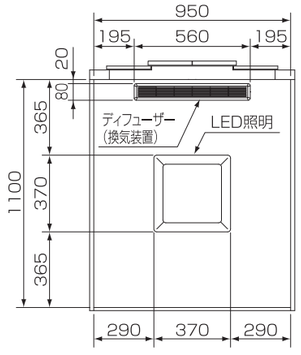
意匠図　スイ〜とホーム DXアバンティ／DX禅／DXファインウッド

■ルーム天井

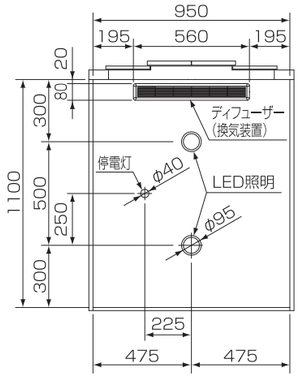
DX アバンティ



DX 禅



DX ファインウッド

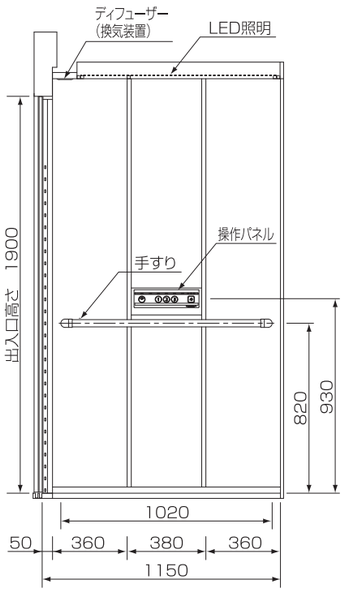


DXアバンティ

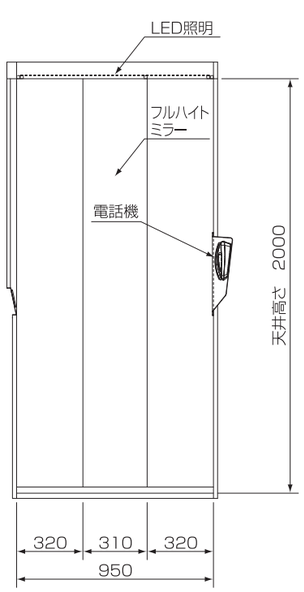
DX アバンティ

（換気装置はオプションです）

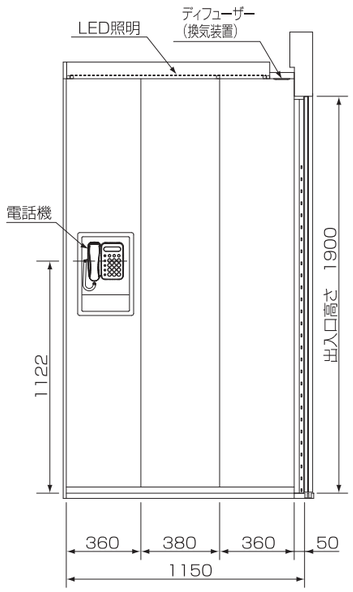
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁

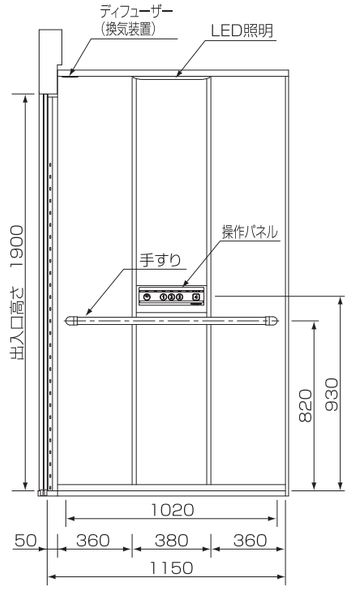


DX禅

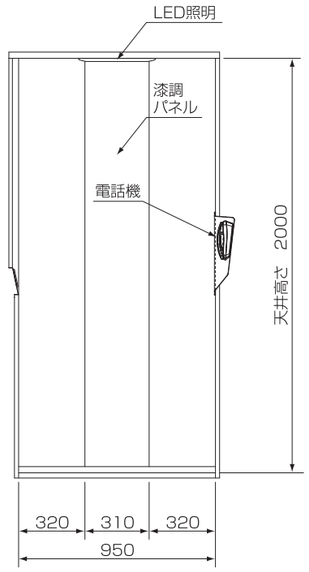
DX 禅

（換気装置はオプションです）

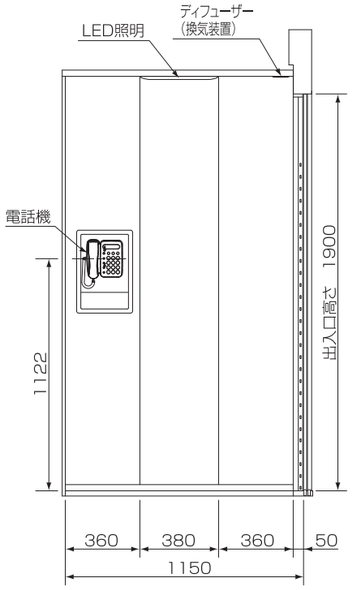
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁

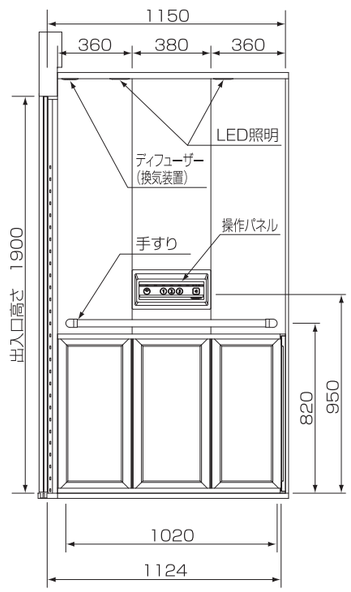


DXファインウッド

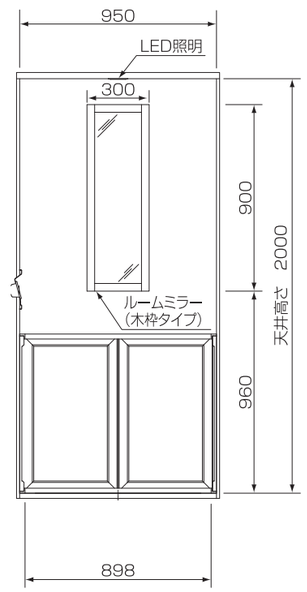
DX ファインウッド

（換気装置はオプションです）

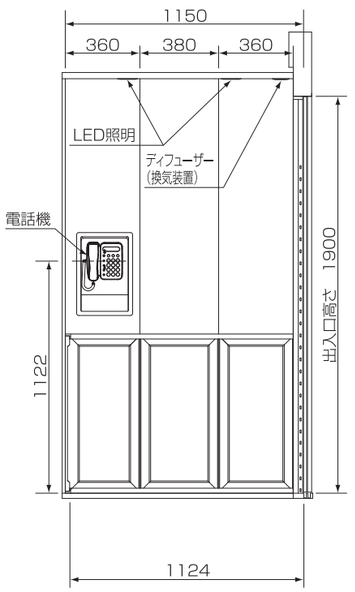
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁

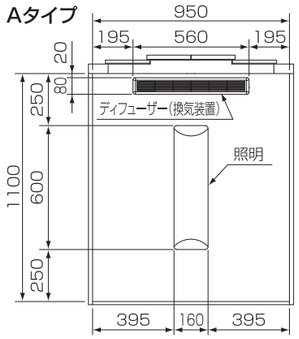


商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更する事がありますので、ご了承ください。

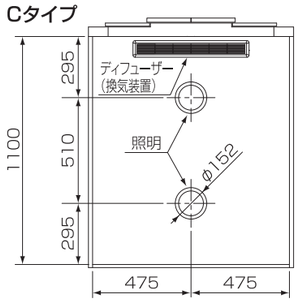
■ルーム天井

ファミリー

Aタイプ

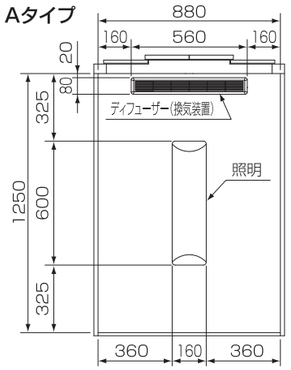


Cタイプ

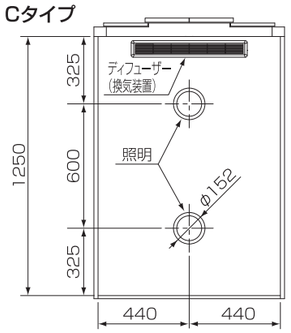


ファミロング

Aタイプ

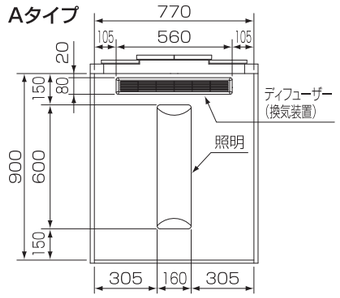


Cタイプ

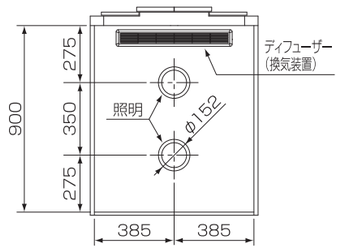


コンパクト

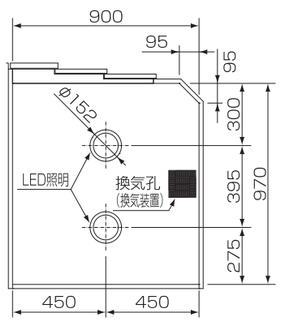
Aタイプ



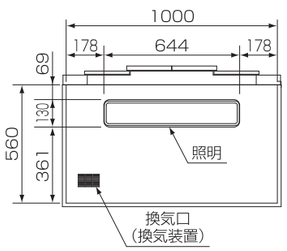
Cタイプ



ファミスリム

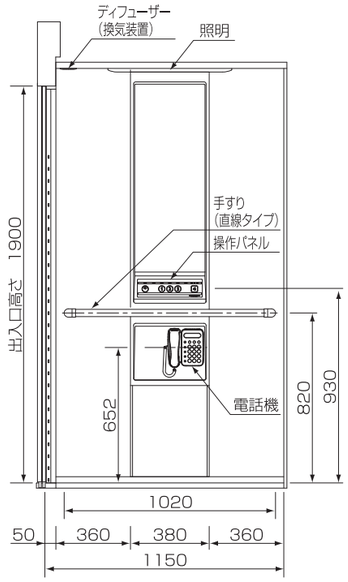


ジュニア

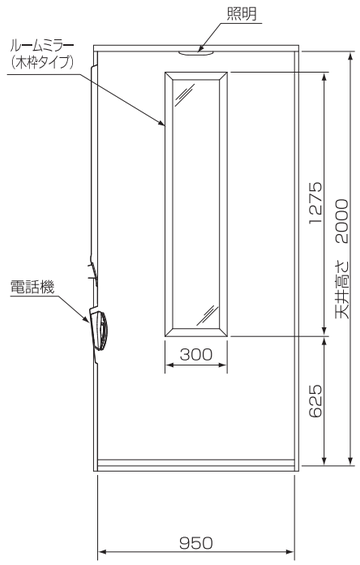


ファミリー　ファミリー　（手すり·ルームミラー·換気装置はオプションです）

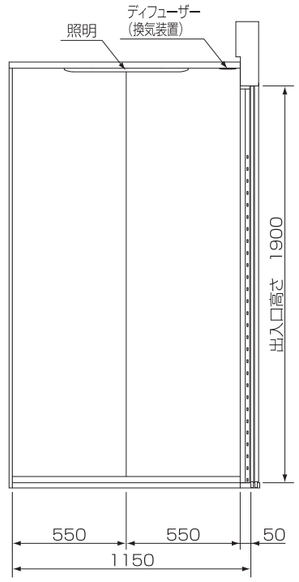
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁

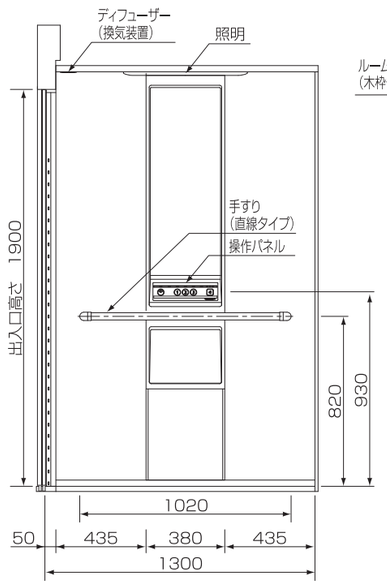


■ルーム右側面壁

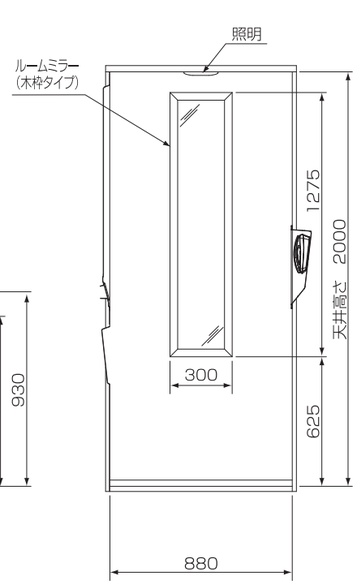


ファミロング　ファミロング　（手すり·ルームミラー·換気装置はオプションです）

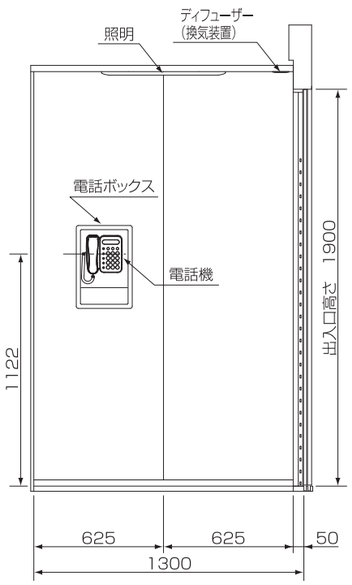
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



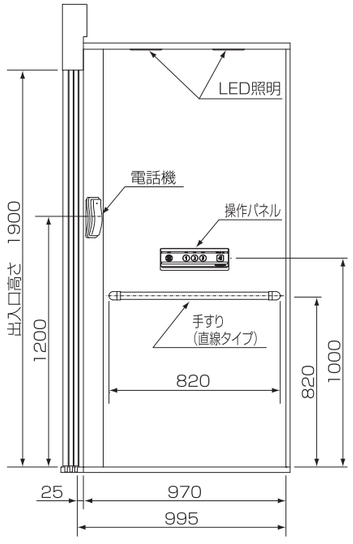
■ルーム右側面壁



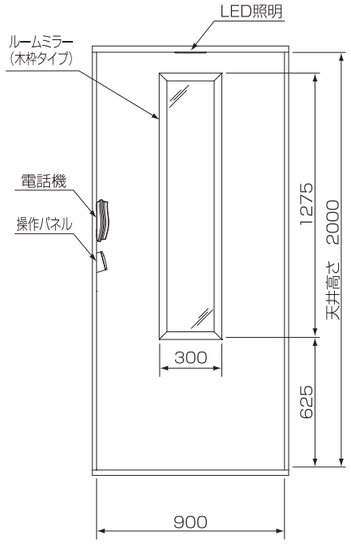
意匠図　スイ〜とホーム ファミスリム／コンパクト／ジュニア

ファミスリム　ファミスリム　（手すり･ルームミラー･換気装置はオプションです）

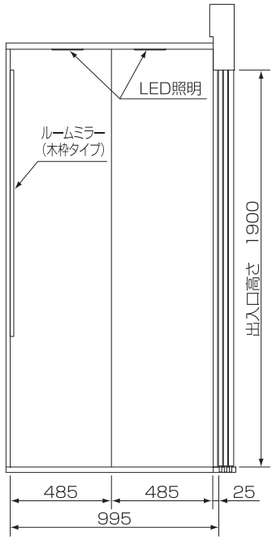
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁

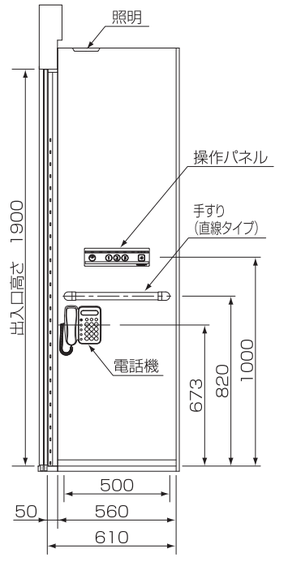


■ルーム右側面壁

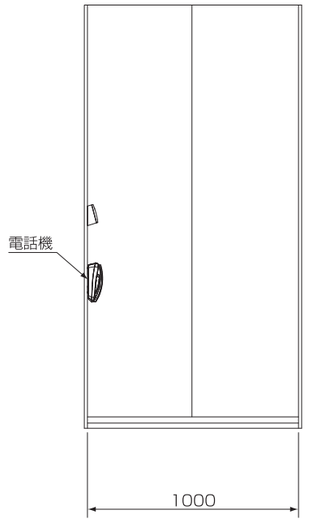


ジュニア　ジュニア　（手すり･ルームミラー･換気装置はオプションです）

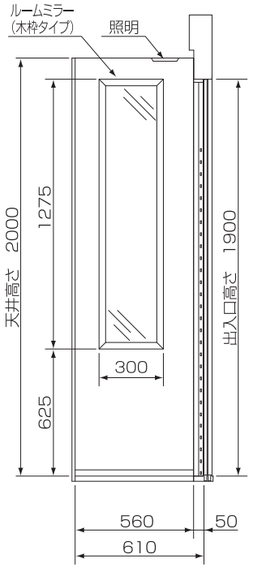
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁

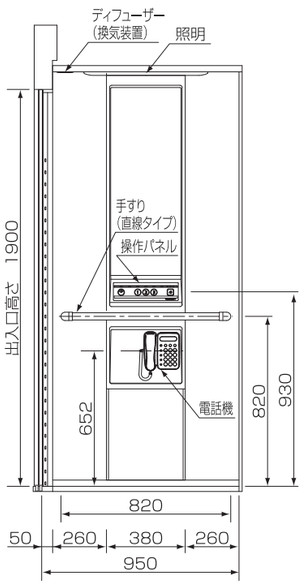


■ルーム右側面壁

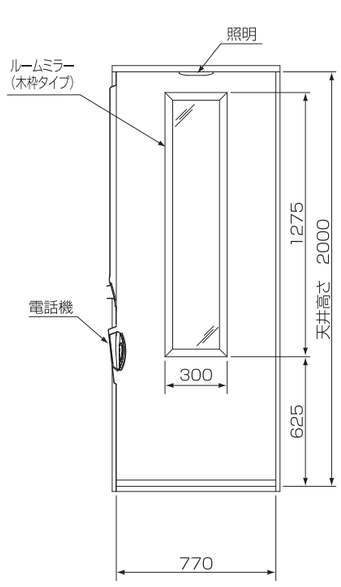


コンパクト　コンパクト　（手すり･ルームミラー･換気装置はオプションです）

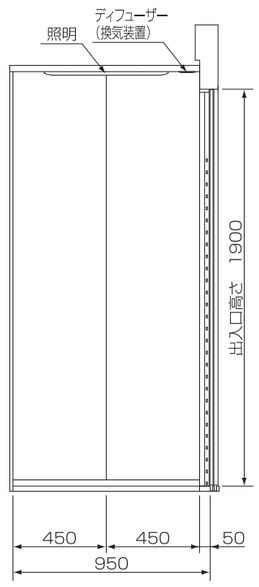
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁



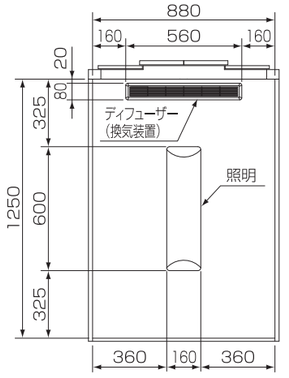
商品改良のため、仕様･外観は予告なしに変更する事がありますので、ご了承ください。

意匠図

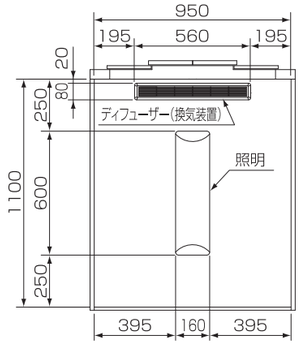
スイ〜とモア スペーシア／ロング／スタンダード

■ルーム天井

モア スペーシア　モア ロング



モア スタンダード

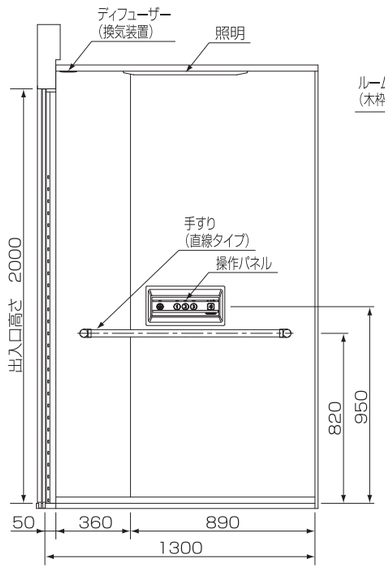


スペーシア

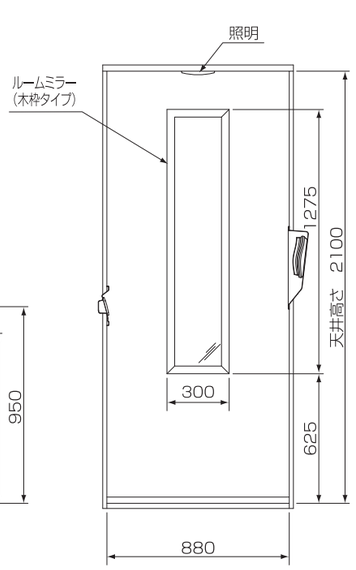
モア スペーシア

（ルームミラー・換気装置はオプションです）

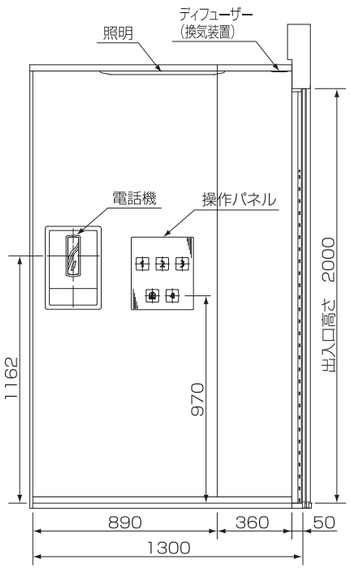
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁

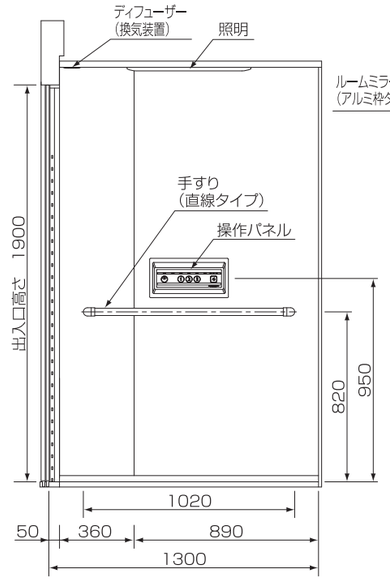


ロング

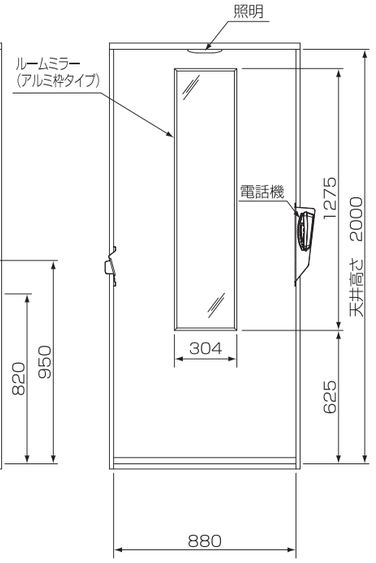
モア ロング

（手すり・ルームミラー・換気装置はオプションです）

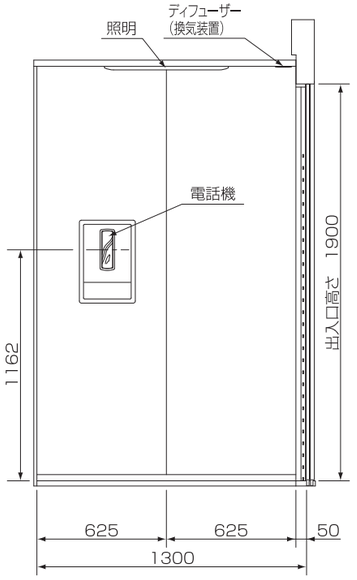
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁

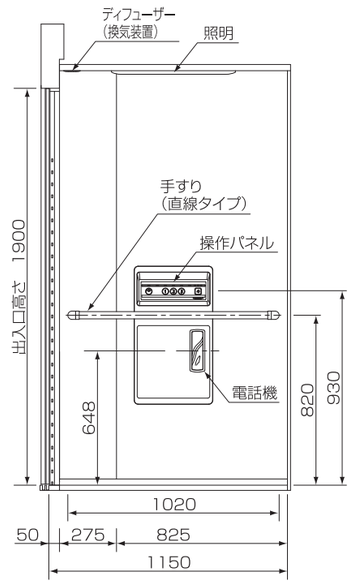


スタンダード

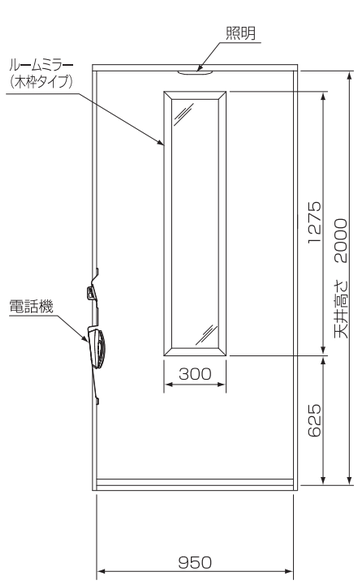
モア スタンダード

（手すり・ルームミラー・換気装置はオプションです）

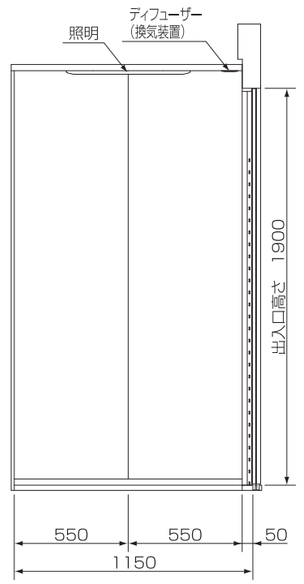
■ルーム左側面壁



■ルーム正面壁



■ルーム右側面壁

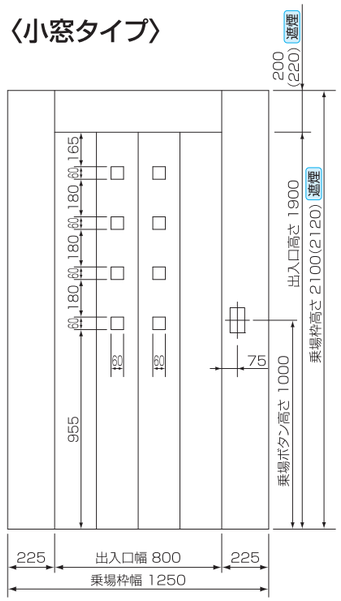


商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更する事がありますので、ご了承ください。

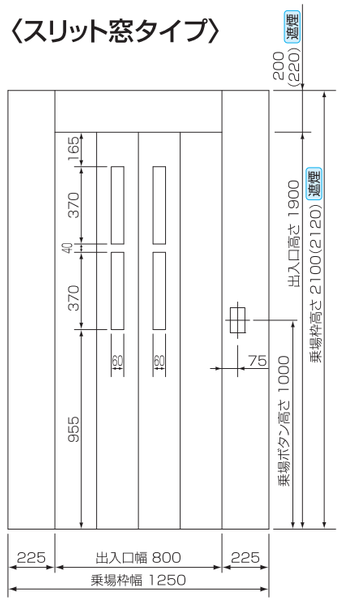
■乗場ドア 遮煙の値は、遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / ファミロング / ジュニア / モア ロング / モア スタンダード

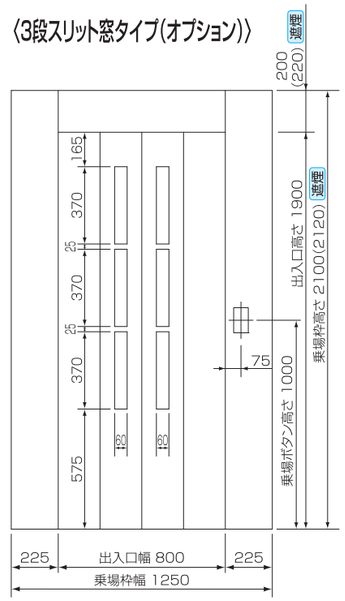
〈小窓タイプ〉



〈スリット窓タイプ〉

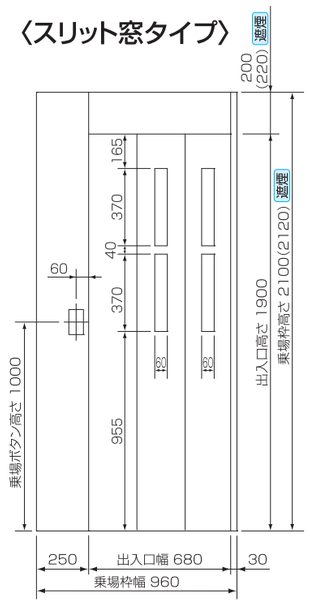


〈3段スリット窓タイプ(オプション)〉



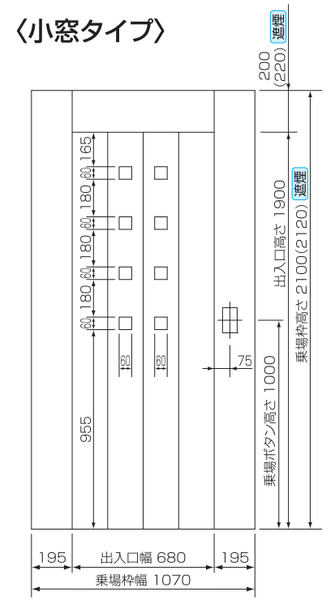
ファミスリム

〈スリット窓タイプ〉

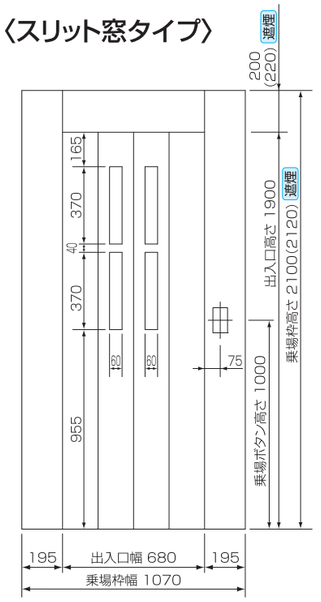


コンパクト

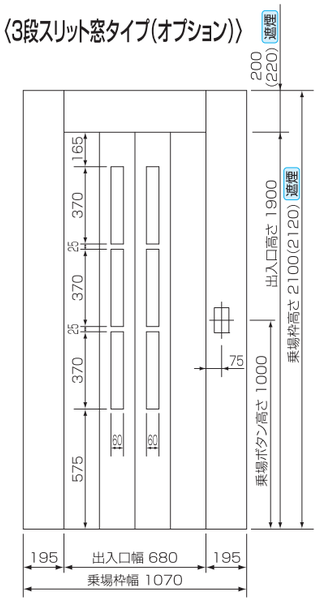
〈小窓タイプ〉



〈スリット窓タイプ〉

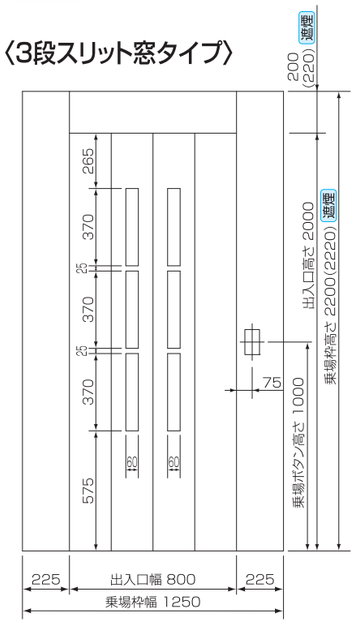


〈3段スリット窓タイプ〉



モア スペーシア

〈3段スリット窓タイプ〉

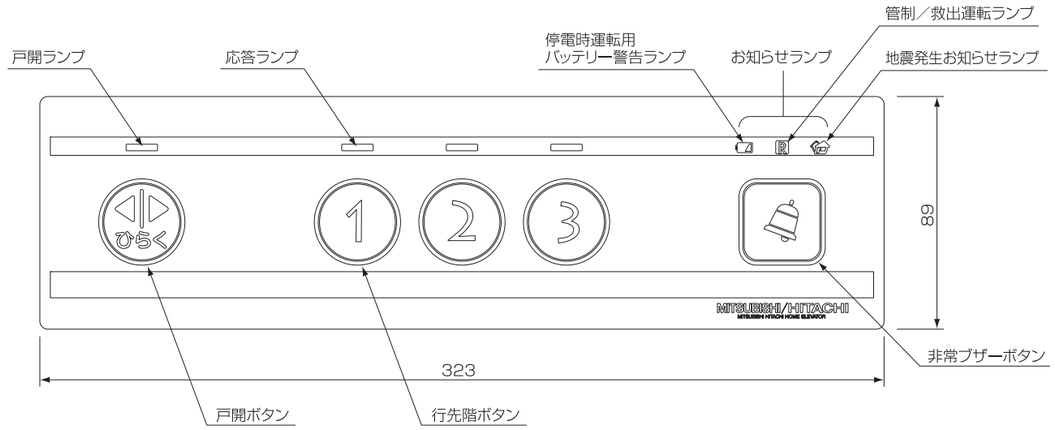


意匠図

スイ〜とホーム DXアバンティ／DX禅／DXファインウッド／ファミリー ／ファミロング／ファミスリム／コンパクト／ジュニア
スイ〜とモア スペーシア／ロング／スタンダード

■操作パネル（全機種共通）

DX アバンティ | DX 禅 | DX ファインウッド | ファミリー | ファミロング | ファミスリム | コンパクト | ジュニア | モア スペーシア | モア ロング | モア スタンダード



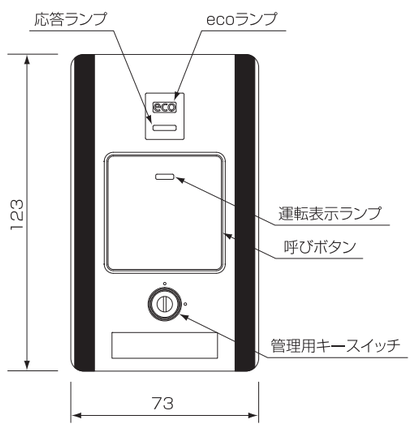
戸開ボタン

行先階ボタン

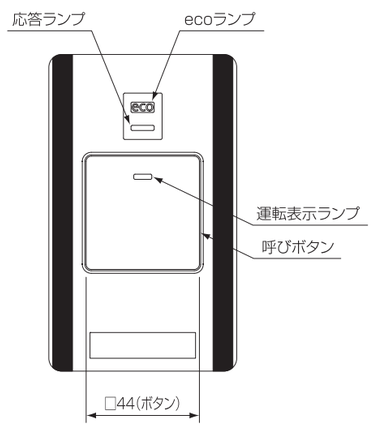
非常ブザーボタン

■乗場ドア（全機種共通）

DX アバンティ | DX 禅 | DX ファインウッド | ファミリー | ファミロング | ファミスリム | コンパクト | ジュニア | モア スペーシア | モア ロング | モア スタンダード



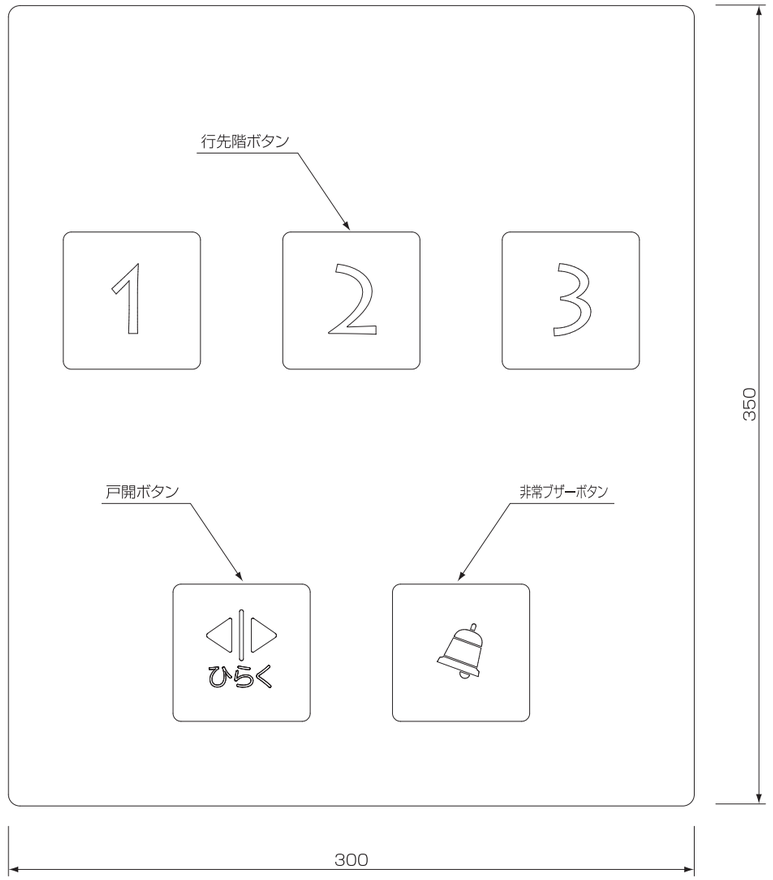
〈最下階用〉



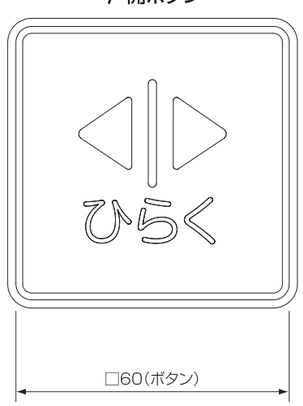
〈一般階用〉

■副操作パネル

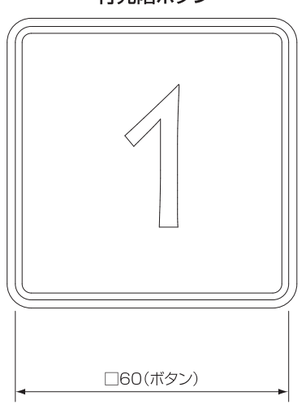
モア スペーシア



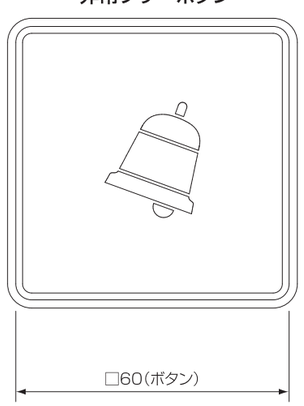
戸開ボタン



行先階ボタン



非常ブザーボタン



商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更する事がありますので、ご了承ください。

乗場仕上げ要領

スイ〜とホーム DXアバンティ／DX禅／DXファインウッド／ファミリー／ファミロング／ファミスリム／コンパクト／ジュニア
スイ〜とモア スペーシア／ロング／スタンダード

乗場枠と建物のすき間を塞ぐための仕上げ壁を施工してください。
仕上げ壁は必ず乗場枠設置後施工してください。

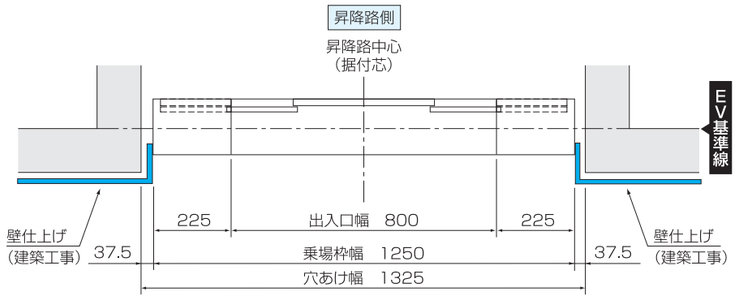
乗場平面図

※図は最小寸法の場合です。

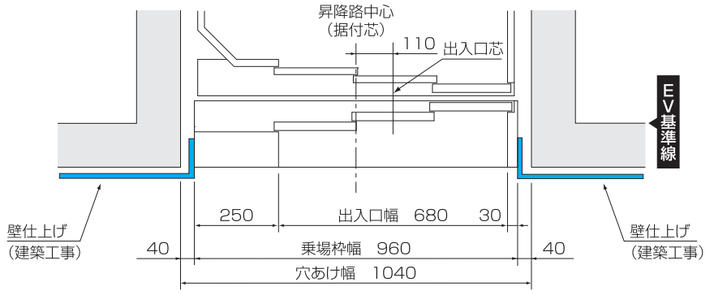
> **注意** 出入口間口有効寸法（穴あけ寸法）を確保できない場合、エレベーターを設置できません

DX アバンティ | DX 禅 | DX ファインウッド | ファミリー | ファミロング | モア スペーシア | モア ロング | モア スタンダード

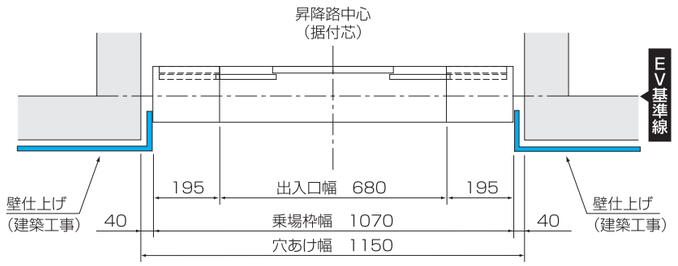
遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73〜78ページをご参照ください。



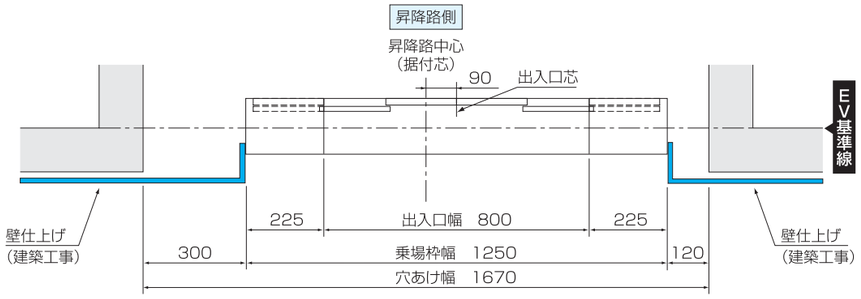
ファミスリム



コンパクト



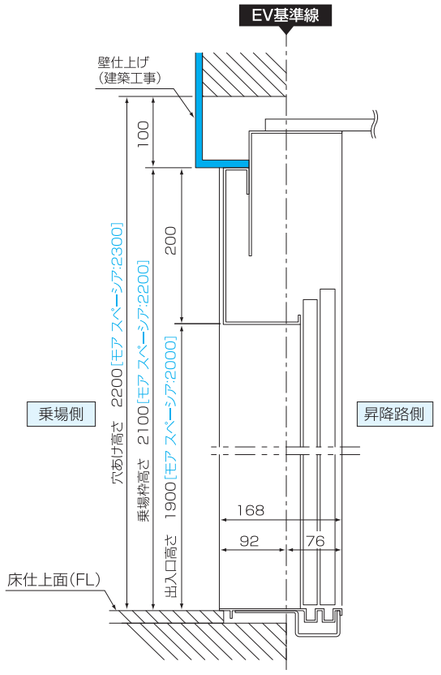
ジュニア



乗場断面図

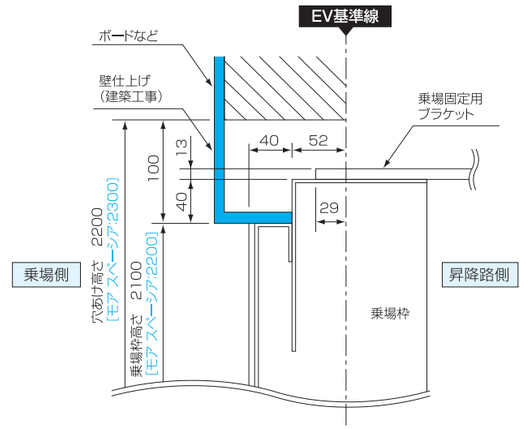
DX アバンティ | DX 禅 | DX ファインウッド | ファミリー | ファミロング | コンパクト | ジュニア | モア スペーシア | モア ロング | モア スタンダード

遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは73〜78ページをご参照ください。



壁の仕上げ例

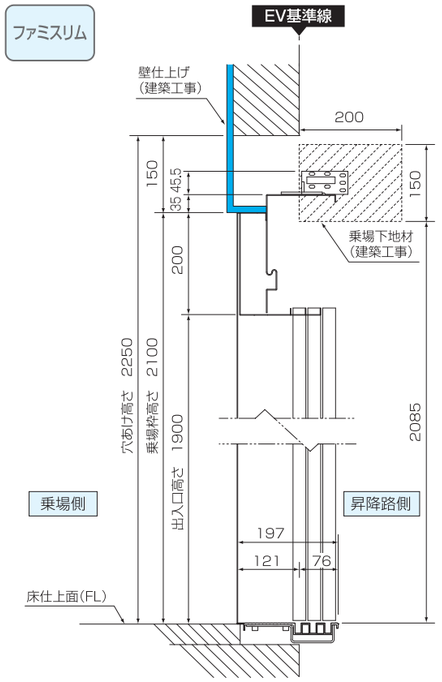
仕上壁は、乗場枠と建物のすき間に差し込んで施工してください。



床の仕上げ例

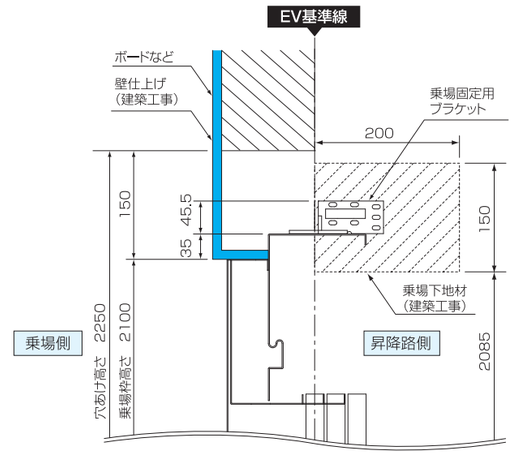
床仕上材はエレベーターの敷居の下に差し込んで仕上げてください。敷居上面は床仕上げ面より2mm上がります。

ファミスリム



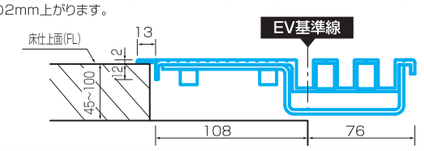
壁の仕上げ例

仕上壁は、乗場枠と建物のすき間に差し込んで施工してください。



床の仕上げ例

床仕上材はエレベーターの敷居の下に差し込んで仕上げてください。敷居上面は床仕上げ面より2mm上がります。



遮煙乗場ドア（オプション）

遮煙乗場ドアは、難燃戸仕様（オプション）と火災時管制運転（オプション）を組み合わせることで、エレベーターの乗場ドアを「遮炎性能」・「遮煙性能」を有する防火設備とするオプションです。遮煙乗場ドアの適用にあたり、次の点にご注意ください。

●自動火災報知設備※1または火災報知器を設置して、移報接点（無電圧A接点※2）を昇降路内に供給してください。（54ページをご参照ください）また、火災報知器の設置義務がない建物であっても、同設備を必ず設けてください。（遮煙乗場ドア認定条件による）

※1 自動火災報知設備とは、火災報知器、受信機、中継機から構成されるシステムタイプの警報装置です。
※2 無電圧A接点とは常時開放している接点で、短絡する（信号を受ける）と通報動作に入る接点です。
※3 自動火災報知設備または火災報知器の設置場所については、消防法および条例に従い適切な場所に設置してください。詳しくは、所管の消防署、行政庁にお問い合わせください。

寸法表

遮煙乗場ドア適用の場合は、標準寸法と一部寸法が異なりますので、標準施工図（17〜52ページ）とあわせてご確認ください。

〔単位:mm〕

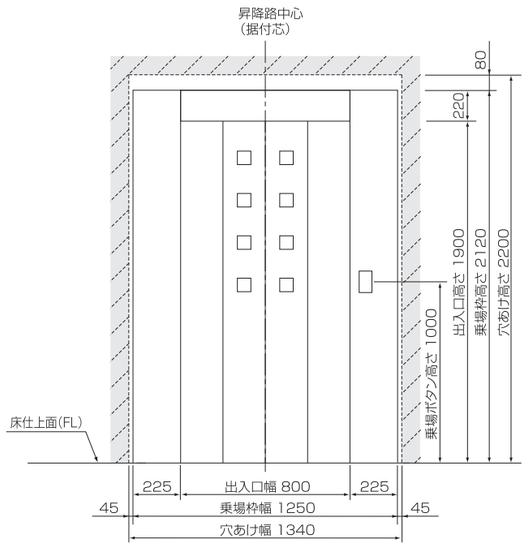
	DXアバンティ／DX禅／DXファインウッド ファミリー／ファミロング／ロング／スタンダード	ファミスリム	コンパクト	ジュニア	スペーシア
昇降路有効（間口）	1340	1040	1165	1670	1340
最小穴あけ寸法（幅×高さ）	1340×2200	1040×2250	1165×2200	1670×2200	1340×2300
最小階高寸法	2450				2550
乗場枠寸法	1250×2120	960×2120	1070×2120	1250×2120	1250×2220

※遮煙乗場ドア適用時の「スイ〜とホーム ファミスリム、スイ〜とホーム ジュニア」の昇降路寸法、最小穴あけ寸法は標準寸法と同じになります。

出入口開口図（穴あけ寸法図）

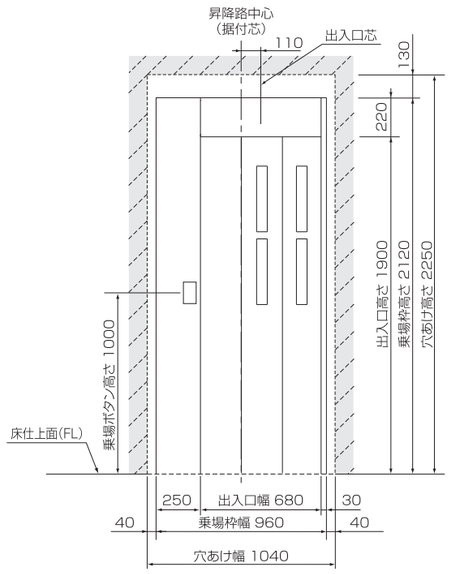
※図は最小寸法の場合です。

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / ファミロング / モア ロング / モア スタンダード



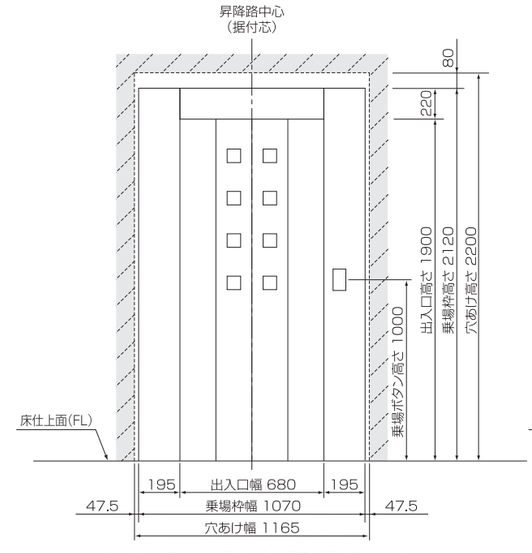
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

ファミスリム



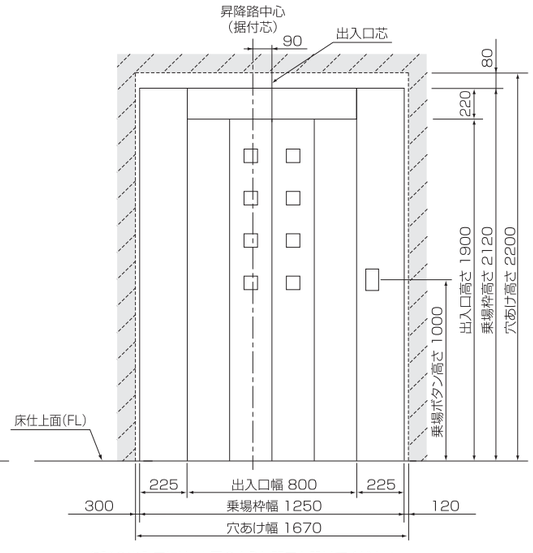
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

コンパクト



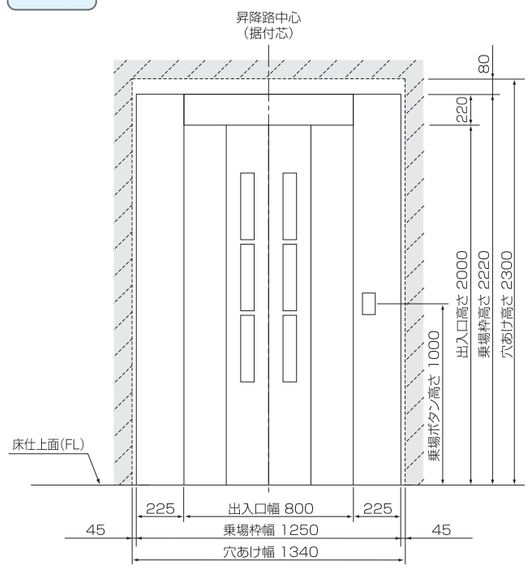
各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

ジュニア



各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

モア スペーシア



各階の出入口には、上図のような開口を設けてください。

注意 出入口間口有効寸法（穴あけ寸法）を確保できない場合、エレベーターを設置できません

遮煙乗場ドア（オプション）について

スイ〜とホーム DXアバンティ／DX禅／DX ファインウッド／ファミリー／ファミロング／ファミスリム／コンパクト／ジュニア
スイ〜とモア スペーシア／ロング／スタンダード

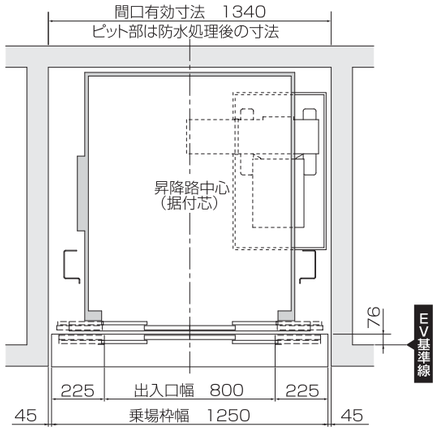
三菱日立ホームエレベーター

平面図

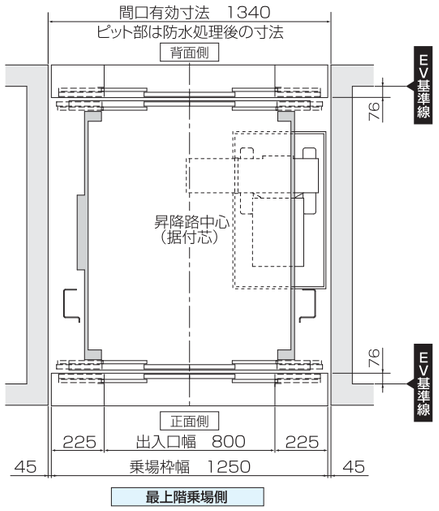
※図は最小寸法の場合です。

DX アバンティ
DX 禅
DX ファインウッド
ファミリー
ファミロング
モア スペーシア
モア ロング
モア スタンダード

3人乗り・一方向出入口

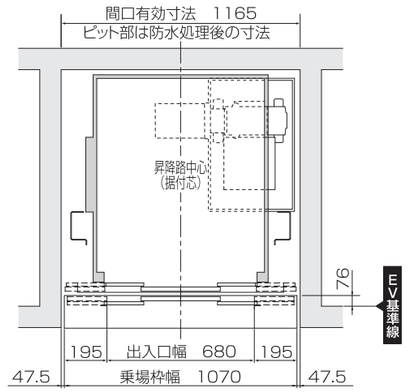


3人乗り・二方向出入口

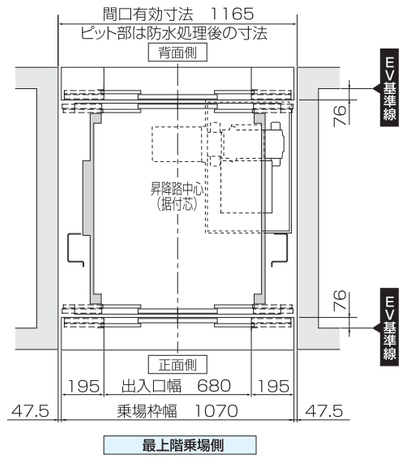


コンパクト

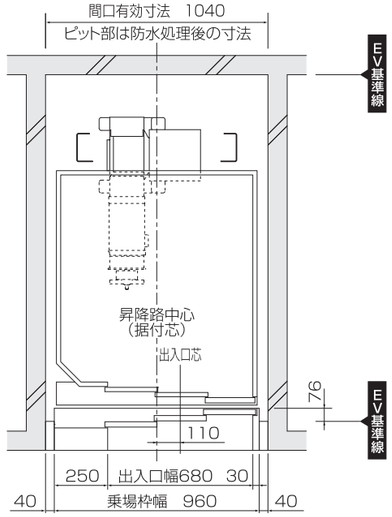
2人乗り・一方向出入口



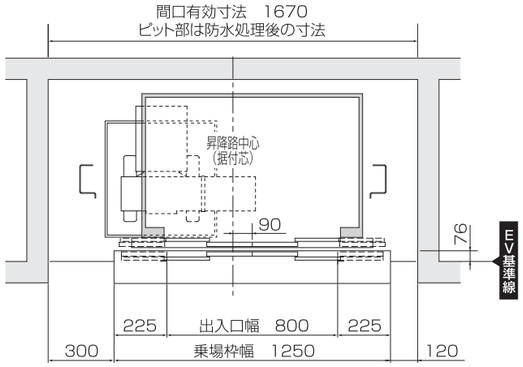
2人乗り・二方向出入口



ファミスリム



ジュニア



乗場枠と建物のすき間を塞ぐための仕上げ壁を難燃材以上にて施工してください。
仕上げ壁は必ず乗場枠設置後施工してください。

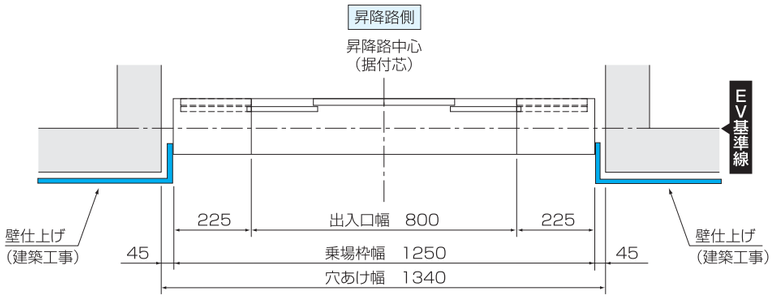
建築壁と乗場枠のすき間（側部および上部の壁仕上げ部分）は、モルタル、ロックウール等で充填材を挿入して施工してください。

乗場平面図

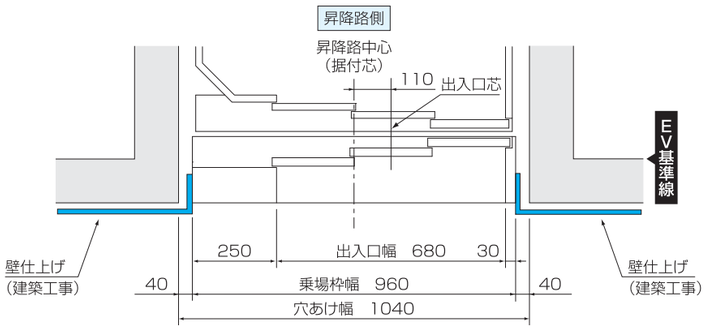
※図は最小寸法の場合です。

注意　出入口間口有効寸法（穴あけ寸法）を確保できない場合、エレベーターを設置できません

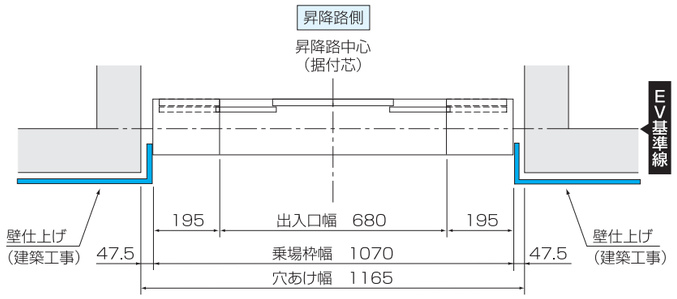
DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / ファミロング / モア スペーシア / モア ロング / モア スタンダード



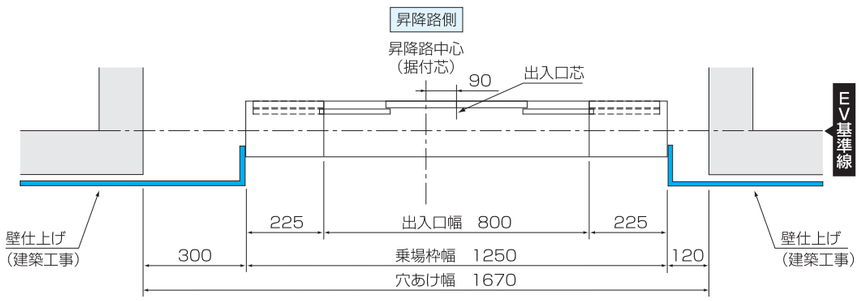
ファミスリム



コンパクト

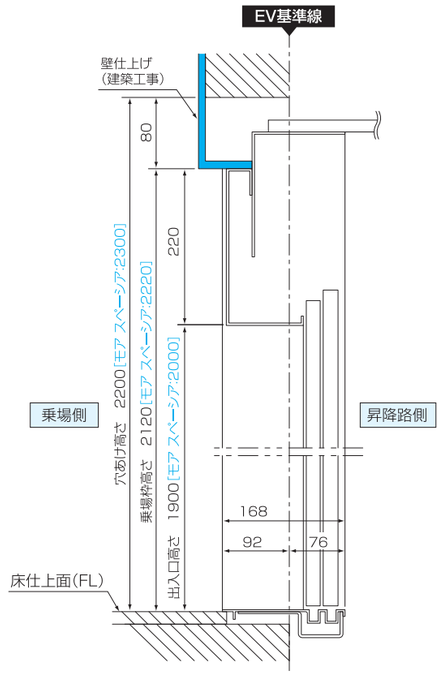


ジュニア

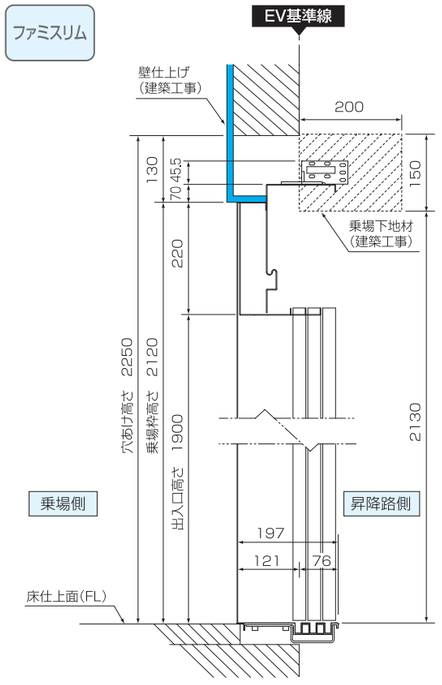


乗場断面図

DX アバンティ / DX 禅 / DX ファインウッド / ファミリー / ファミロング / コンパクト / ジュニア / モア スペーシア / モア ロング / モア スタンダード

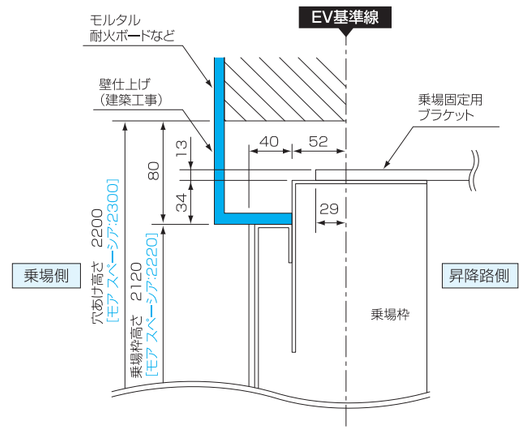


ファミスリム



壁の仕上げ例

仕上壁は、乗場枠と建物のすき間に差し込んで施工してください。

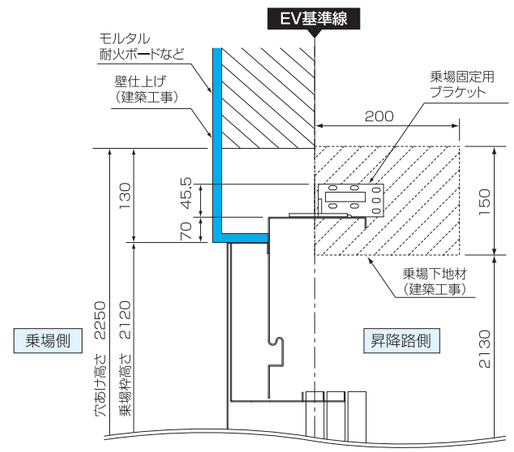


床の仕上げ例

床仕上材はエレベーターの敷居の下に差し込んで仕上げてください。敷居上面は床仕上げ面より2mm上がります。

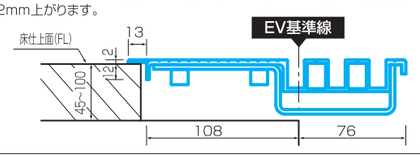
壁の仕上げ例

仕上壁は、乗場枠と建物のすき間に差し込んで施工してください。



床の仕上げ例

床仕上材はエレベーターの敷居の下に差し込んで仕上げてください。敷居上面は床仕上げ面より2mm上がります。



メ モ

メ モ